

昭和十一年

352  
1036

# 縮刷版

才一儿請物



# 始



352

1036

年一十和昭

報民山岡

版刷縮

物請儿一才



行發社報民山岡

# 観光の岡山



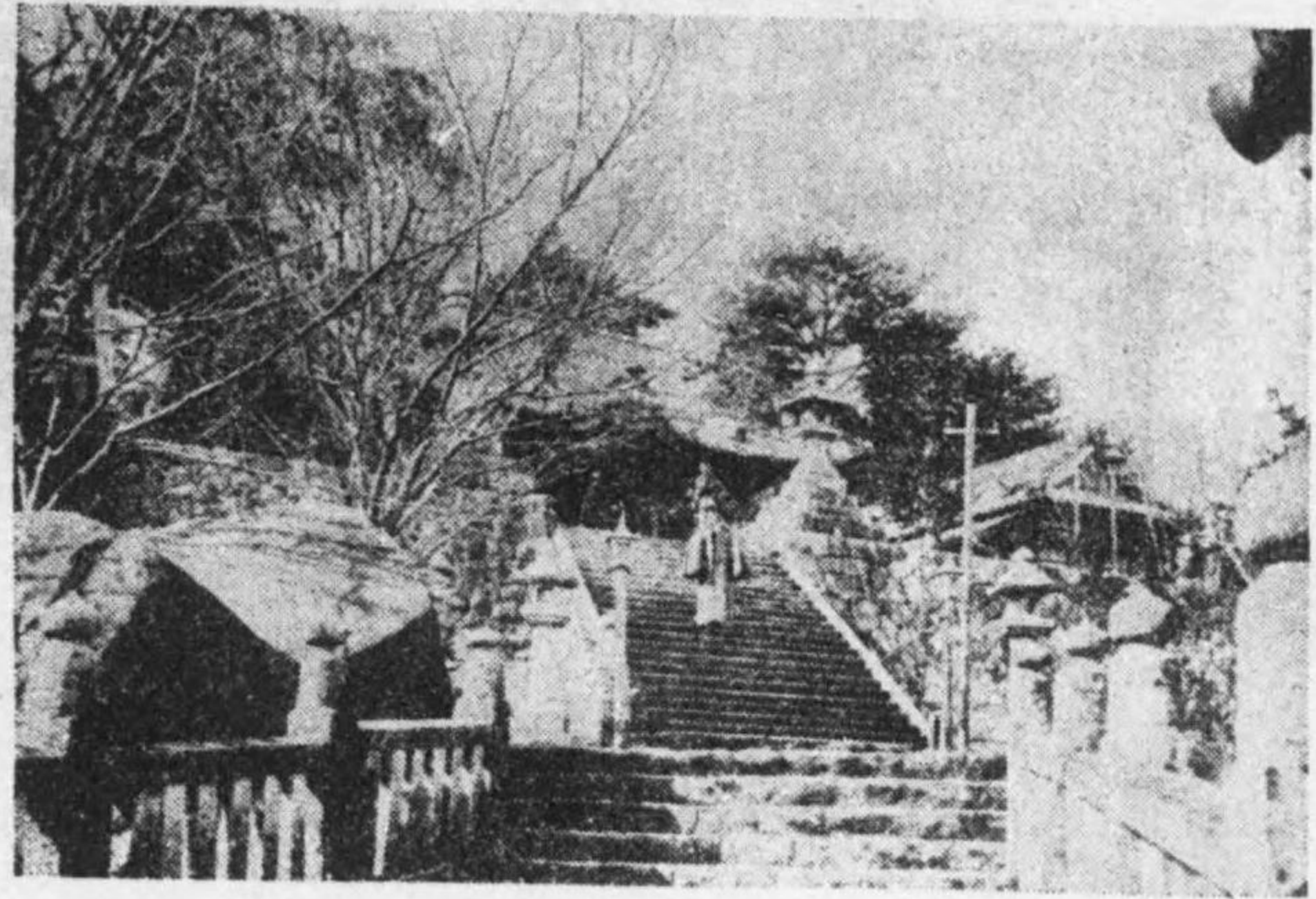
風光

名勝と古蹟

## 日差山の景

(茶寮別館建設地)

明媚



(坂下より靈城を望む)

あかねさす日差の山のうらゝかに  
長閑く見ゆる君が御代かな

藤原經衛朝臣

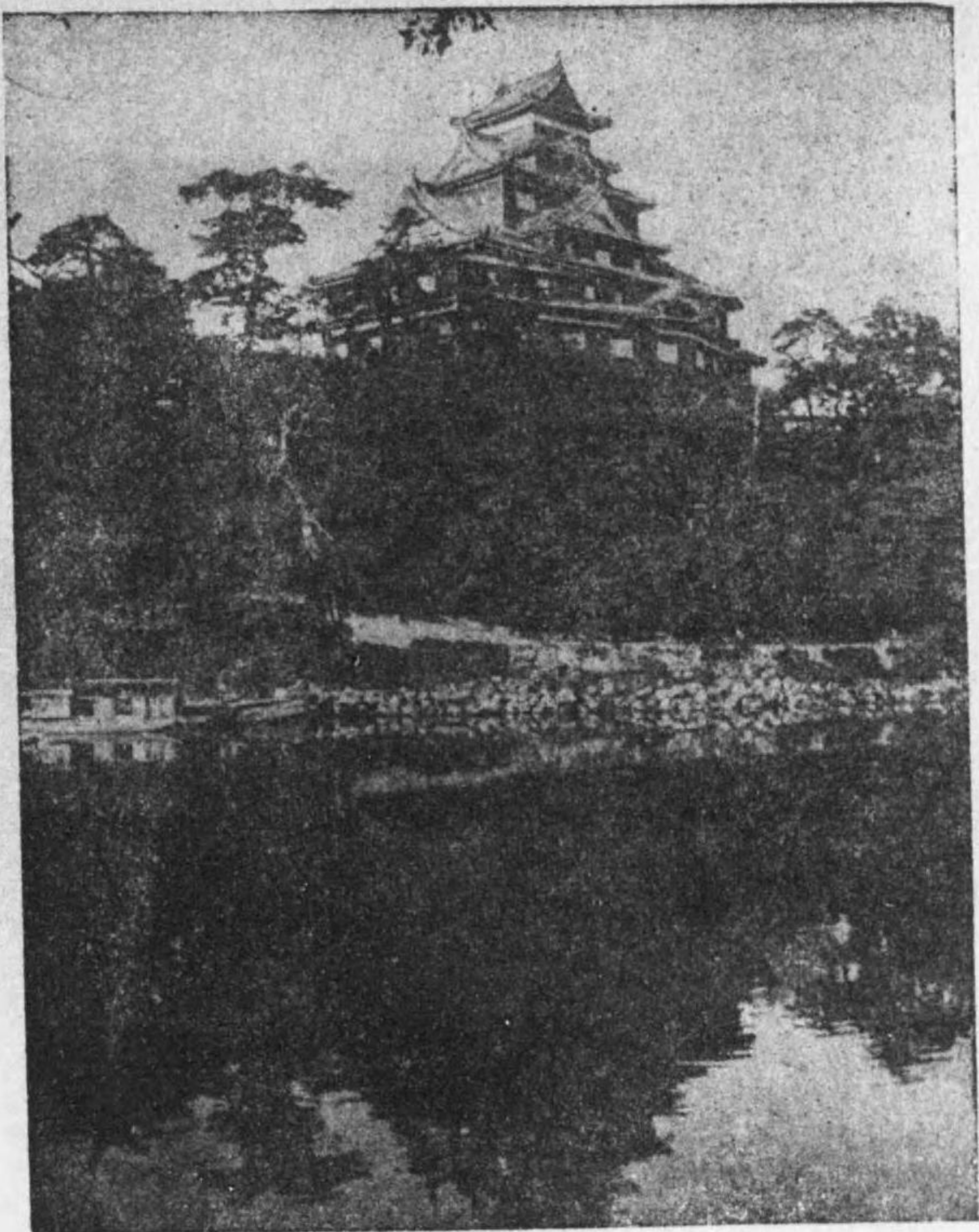
遠く神代よりの古蹟と天然の風景に恵まれた全山は奇岩と翠松によつて成り一度頂上に足を運べば吉備の沃野を透して遙かに瀬戸内海を望み、屋島、讃岐富士、四國の景勝地を先づ視野に收め、兒島灣より岡山市街を俯瞰して山陽沿線に幾多起伏せる丘陵を越へて吉備津神社にかへる。史蹟の山であり詩の山である——ハイキングには日差山へ！六甲の山容にも勝る絶景は當に中國一の定評である——。

位地 都窪郡庄村大字山地

岡山より二里半

山陽線庭瀬驛より二十丁

現在一萬餘坪の廣範圍に涉つて  
岡山荒手茶寮別館建築の工事中



天正元年の秋宇喜多直家これを築造す姫路の白鷺城に對して烏城の名あり。宇喜多、小早川氏を経て、代々、池田氏の居城たり。天主に對して月見櫓あり、國寶に指定さる。

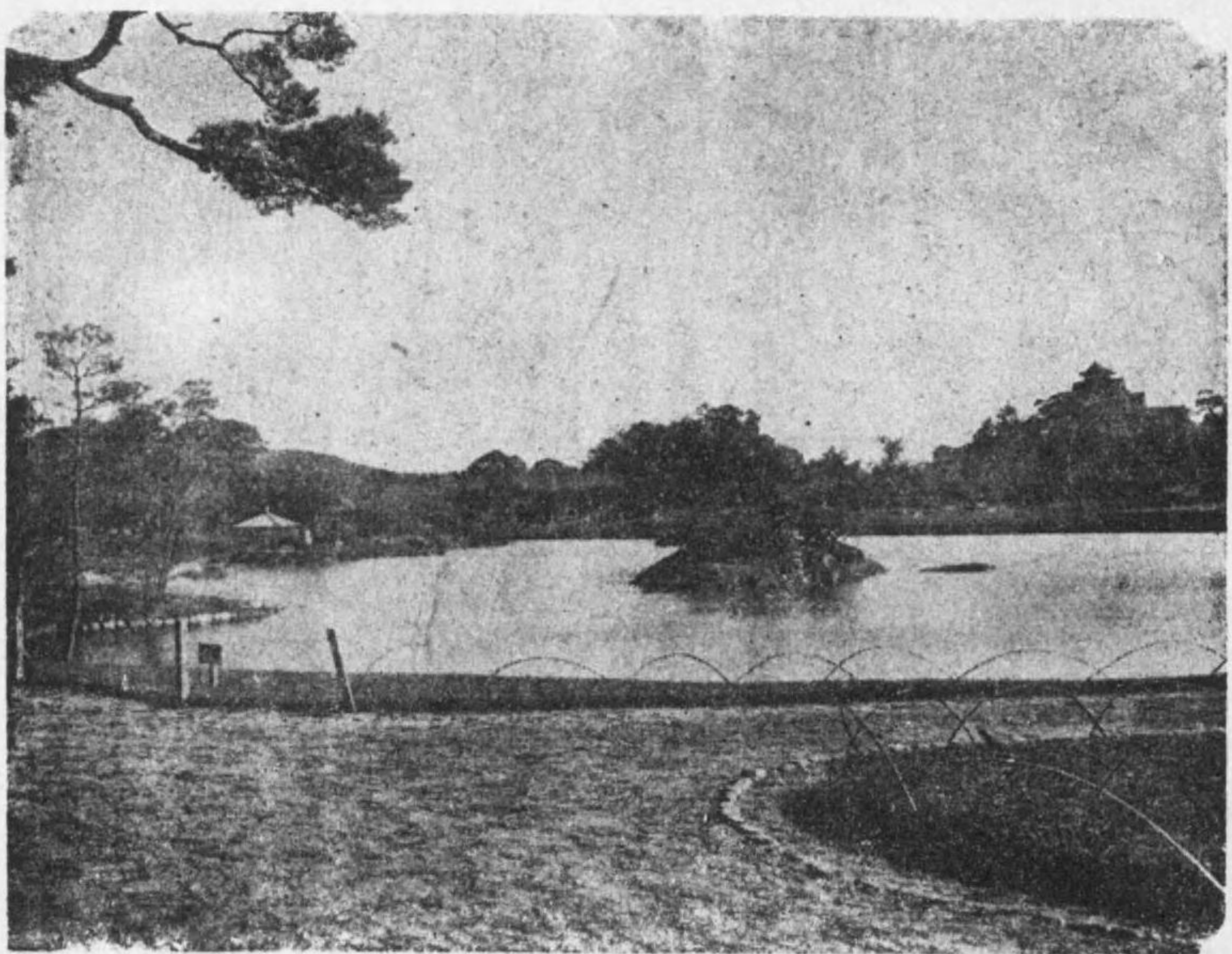
岡山市内山下の丸の内に在り、乗合自動車の、便あり後樂園南口より渡しの便あり。

(國寶岡山城)

元祿年間、藩主池田繼政の造營にかゝる。「天下の憂に先つて憂ひ天下の樂しみに後れて樂しむ」の語に則つて後樂園と名付く總面積一千一百四十五アール、藩の老臣津田永忠これを奉行す圖は園の中心をなす澤池唯心山を経て烏城を望む。

岡山市古京町電停後樂園口下車一丁乗合自動車の便あり。

(名園後樂園)



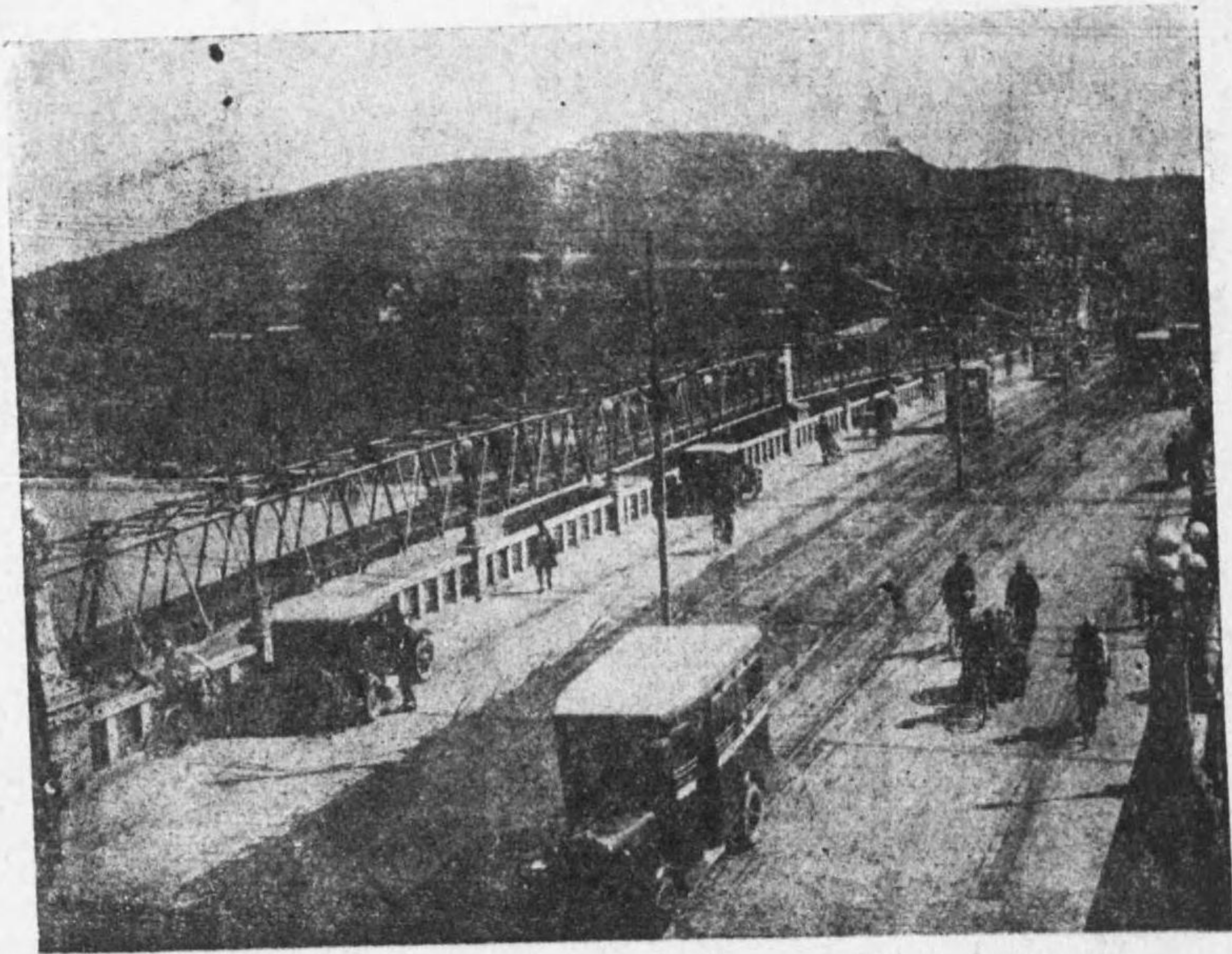


市の北郊、妙見山上に近  
時設備を施して公園とな  
す。  
蜿蜒たる旭川を俯瞰し、  
古城址「龍の口」を遠望  
して眺望四時飽かず。

岡山市三野「岡バス」  
で三野行終點下車半丁  
三野公園

古來「京橋」は岡山の代  
名詞なりき。  
橋上の風光亦繁榮と相俟  
つて代名詞たるの辭に反  
かず。

京  
橋



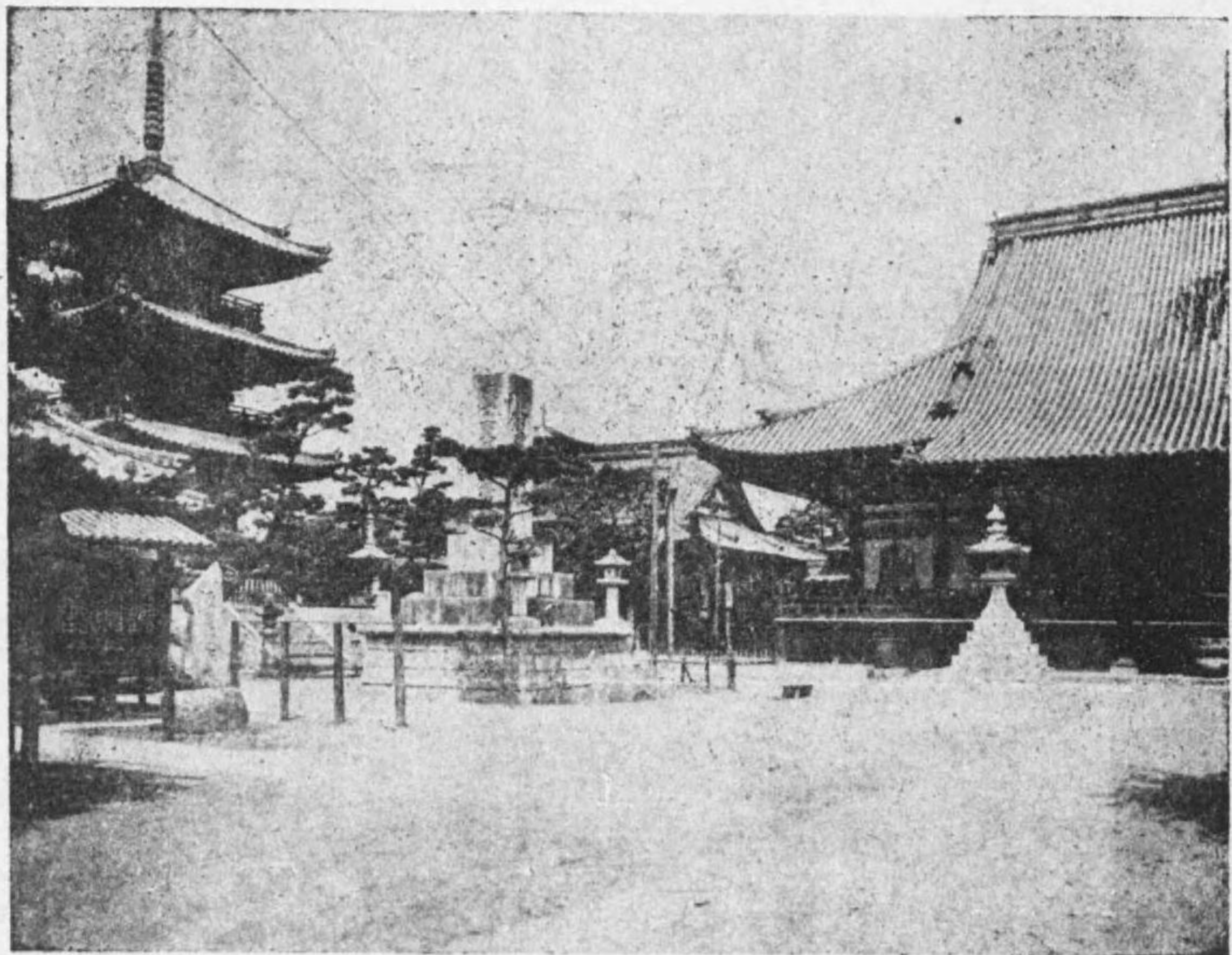


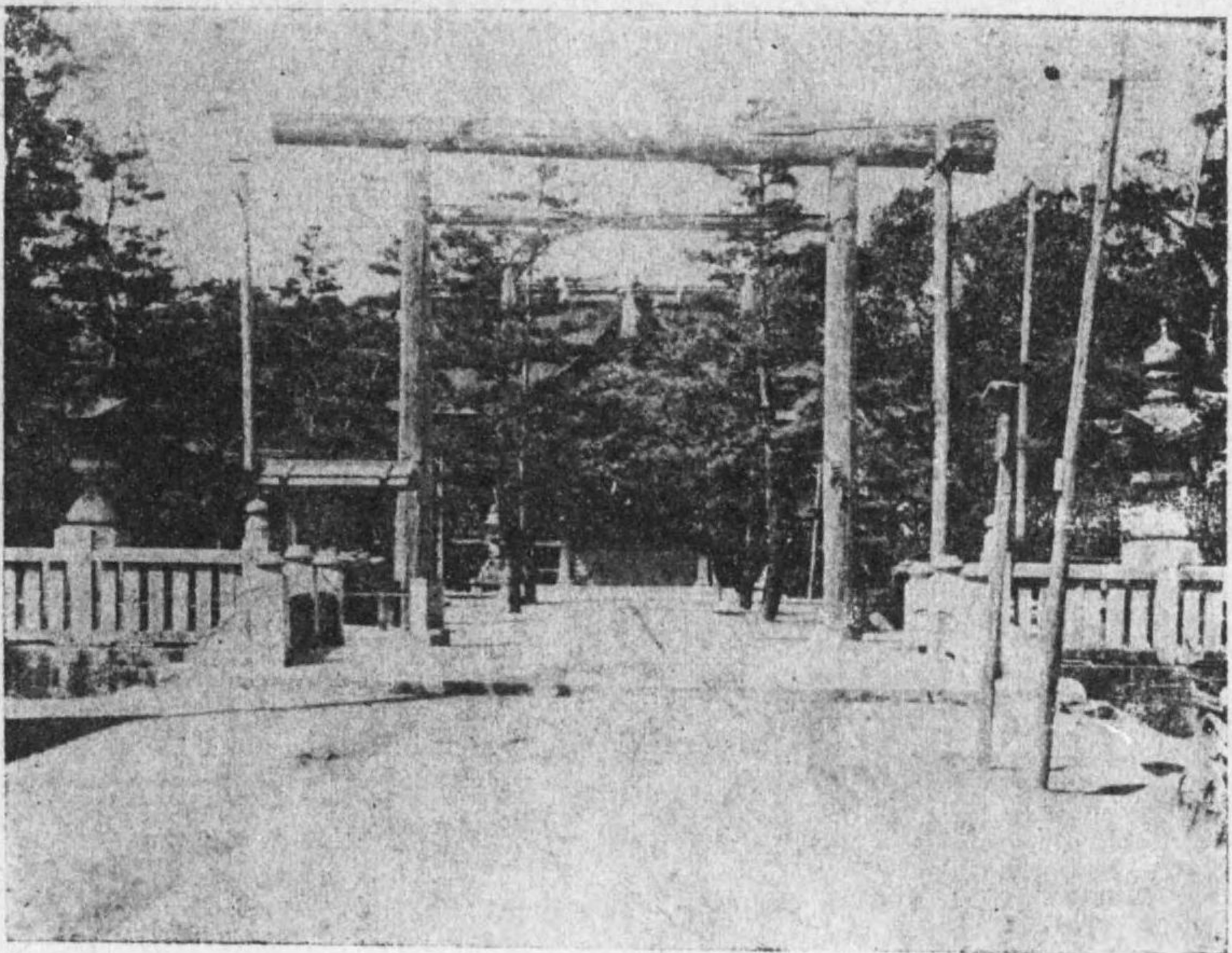
操山の中腹、少林寺境内  
にあり。  
天明年間住僧熊嶽和尚の  
起願により京の名匠が手  
になりたる稀代の木像。  
境内の風致と俱に著名。  
(天下の茶人伊木三猿齋  
の木像及び墓地あり)

岡山國富。第六高等學校  
裏乗合自動車六高前にて  
下車約二丁  
五百羅漢

小早川秀秋のもこ建立せ  
しもの、名だたる法華大  
道場にして、英僧日船の  
開基たり、八間四面の大  
伽藍を擁す。(目下國寶  
に申請中)

岡山市東田町電停蓮昌寺  
下車半丁 蓮昌寺





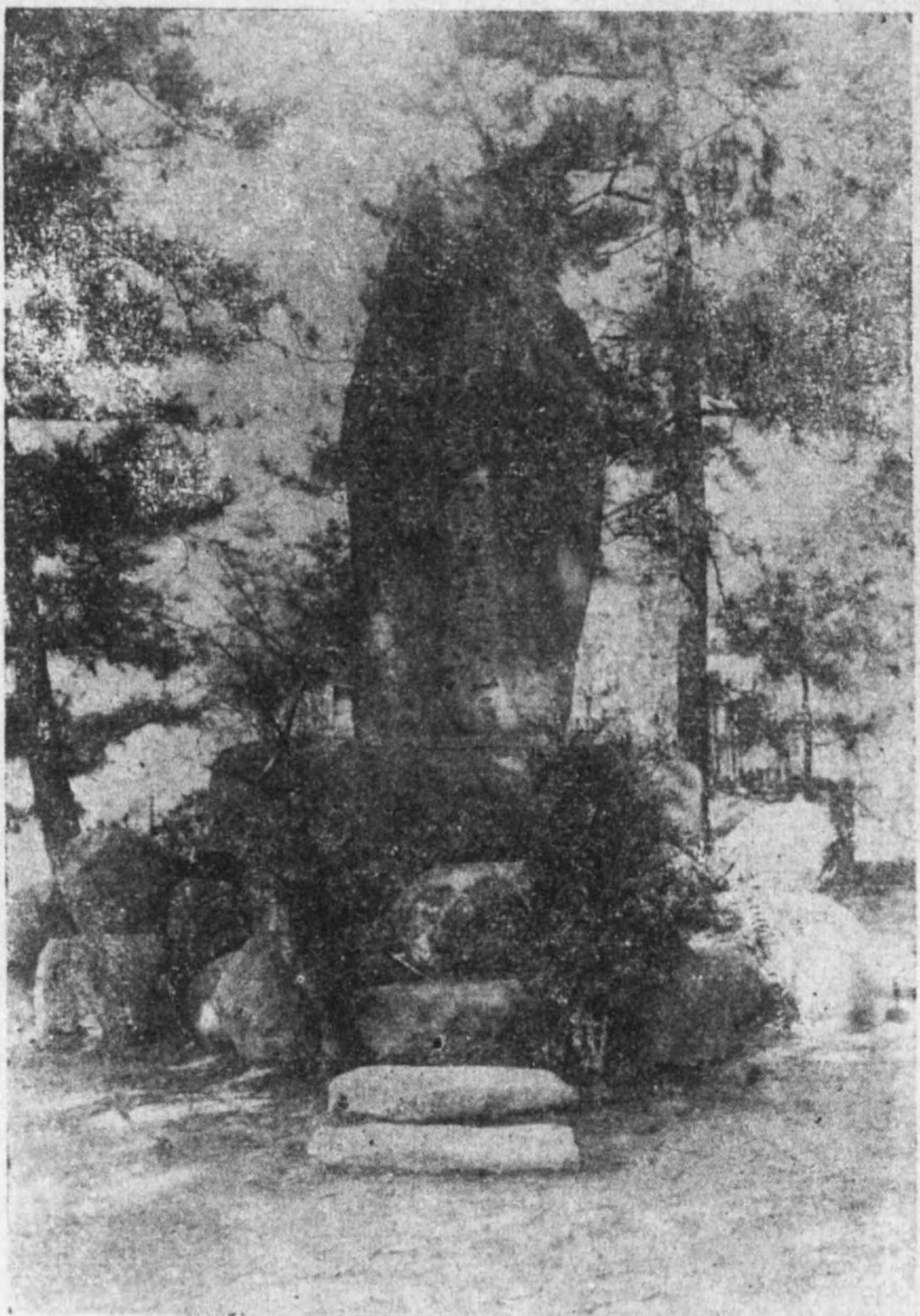
全國百萬の信徒を有する  
 黒住教本廳のある聖地、  
 参詣者日に絶ゆるなく、  
 社殿の宏壯々麗なる地方  
 稀に見るまじりなり。

岡山市外大元、宇野線大  
 元驛下車西へ約三丁半  
 岡山驛より乗合自動車  
 「岡バス」の便あり賃金  
 片道(拾錢)

宗忠神社

勤王烈士 藤本鐵石先生略傳  
 贈從四位

藤本鐵石先生名は眞金、鐵石は其號なり。岡山市東川原、  
 片山佐吉氏次男にして、文化十三年十七日を以て生る十五  
 才の時上道郡倉益の人藤本重賢氏の養子となる先生至誠剛



直にして古典に通じ神道を崇び天  
 心獨明流劍法の奥儀を極む又詩文  
 和歌に巧みにして繪畫に妙を得天  
 下を遍歴す。  
 文久三年八月十八日中山侍從忠光  
 卿を奉じて勤王倒幕の義兵を大和  
 國十津川に擧ぐ所謂天誅組之なり  
 同志七十餘人鐵石生先實に松本謙  
 三郎吉村寅太郎と共に之が總裁た  
 り河内國觀心寺なる楠公墓前に於  
 て菊の御紋の旗を翻し皇軍御先鋒  
 の宣言をなし先づ大和國五條代官  
 鈴木源内以下を誅し進んで各地に  
 奮戦せしが衆寡敵せず中山卿をば  
 潜かに落し參らせて後鐵石先生自  
 らは獅々奮迅の勢を以つて敵の本  
 陣鷲家日裏屋に突入し力闘し憤死  
 せらる

藤本鐵石之碑



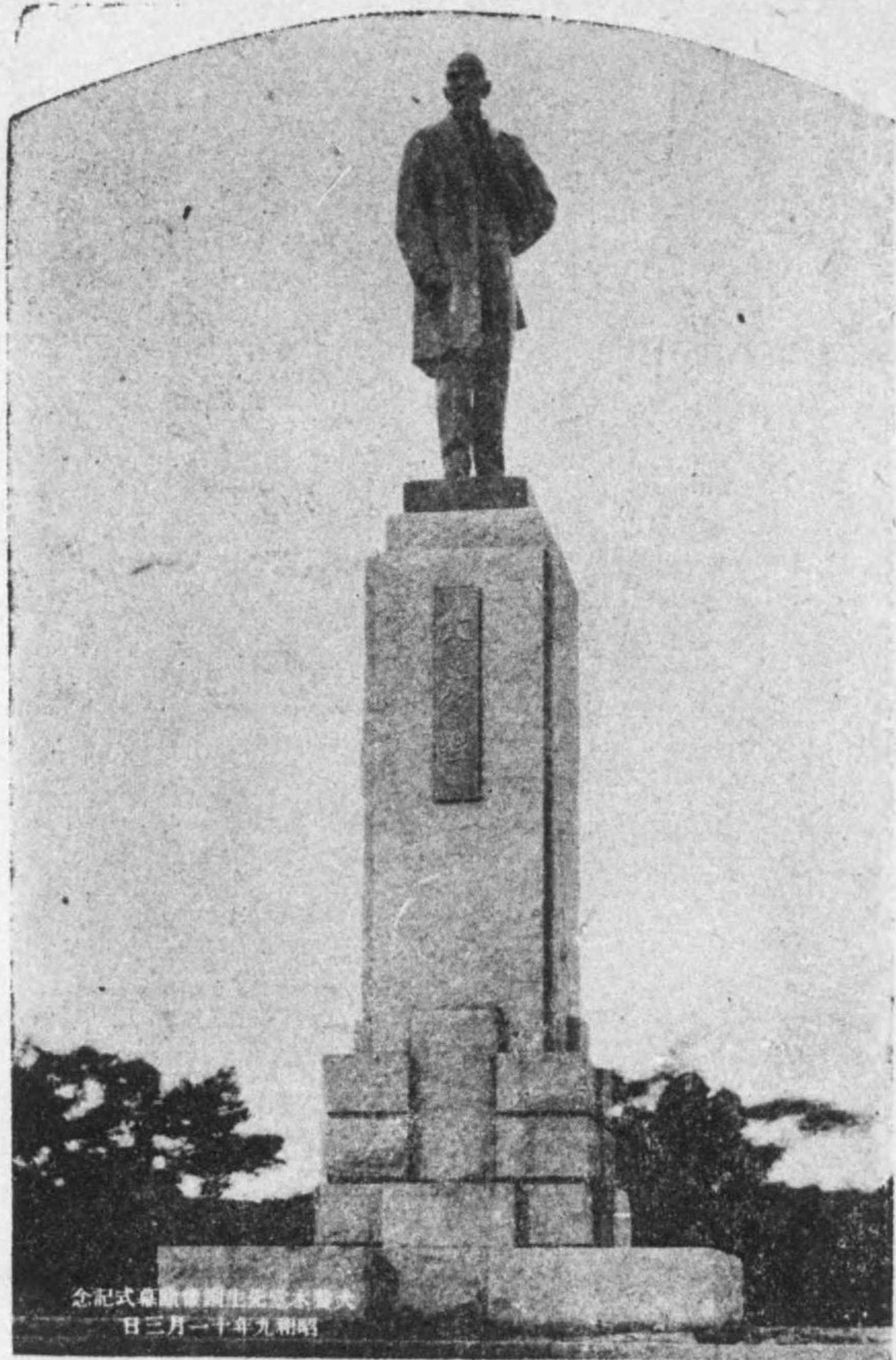
華麗な姿態でシーズンに  
は一日数千の観賞者あり

吉備那真金町

中國鐵道吉備津驛下車約  
一丁 吉備津神社の牡丹

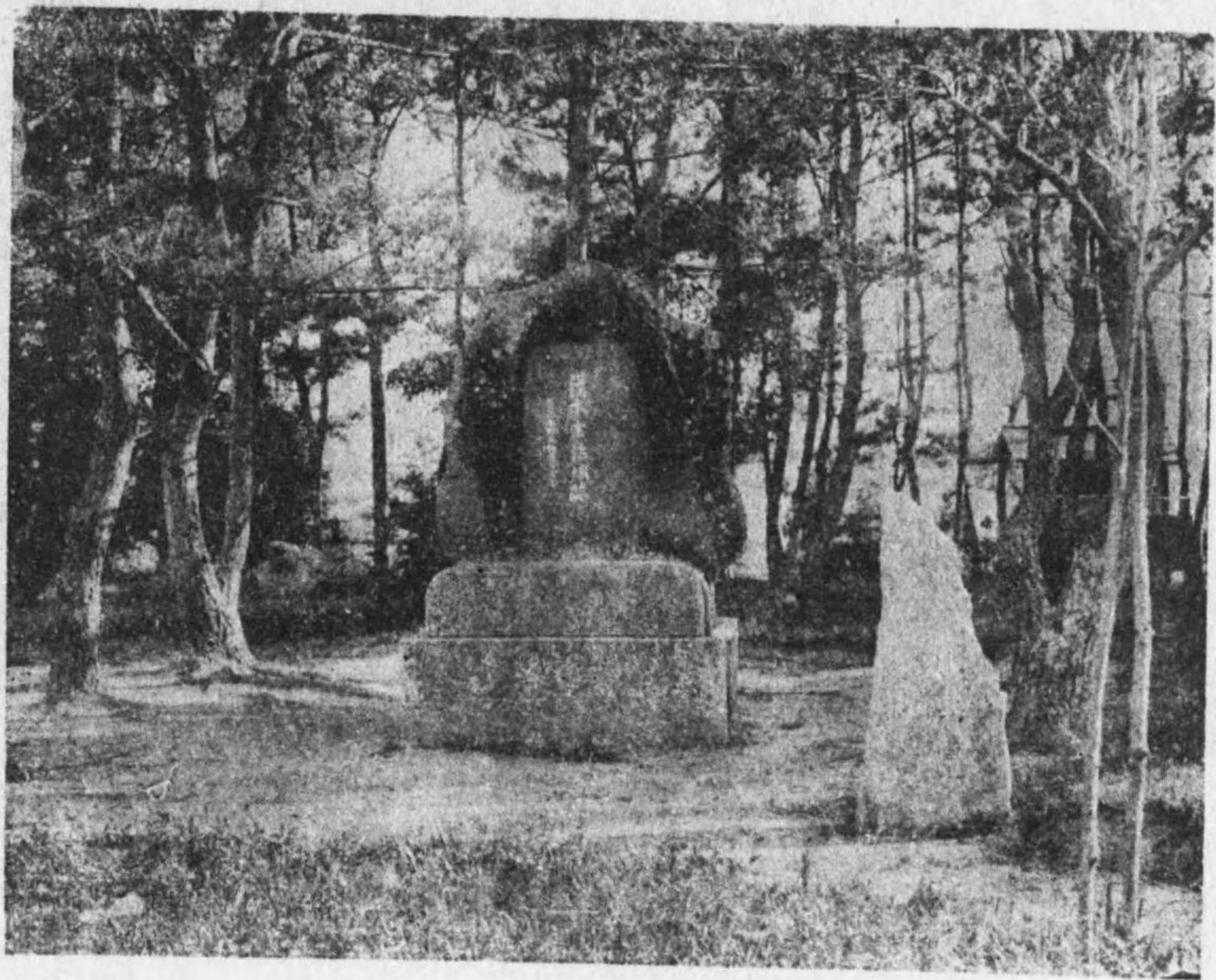
吉備津境内に儼然  
と屹立する大養木  
堂翁の像銅

中鐵吉備津驛下車  
約一丁乗合自動車  
の便ありと



大養木堂翁銅像式紀念  
昭和九年十一月三日



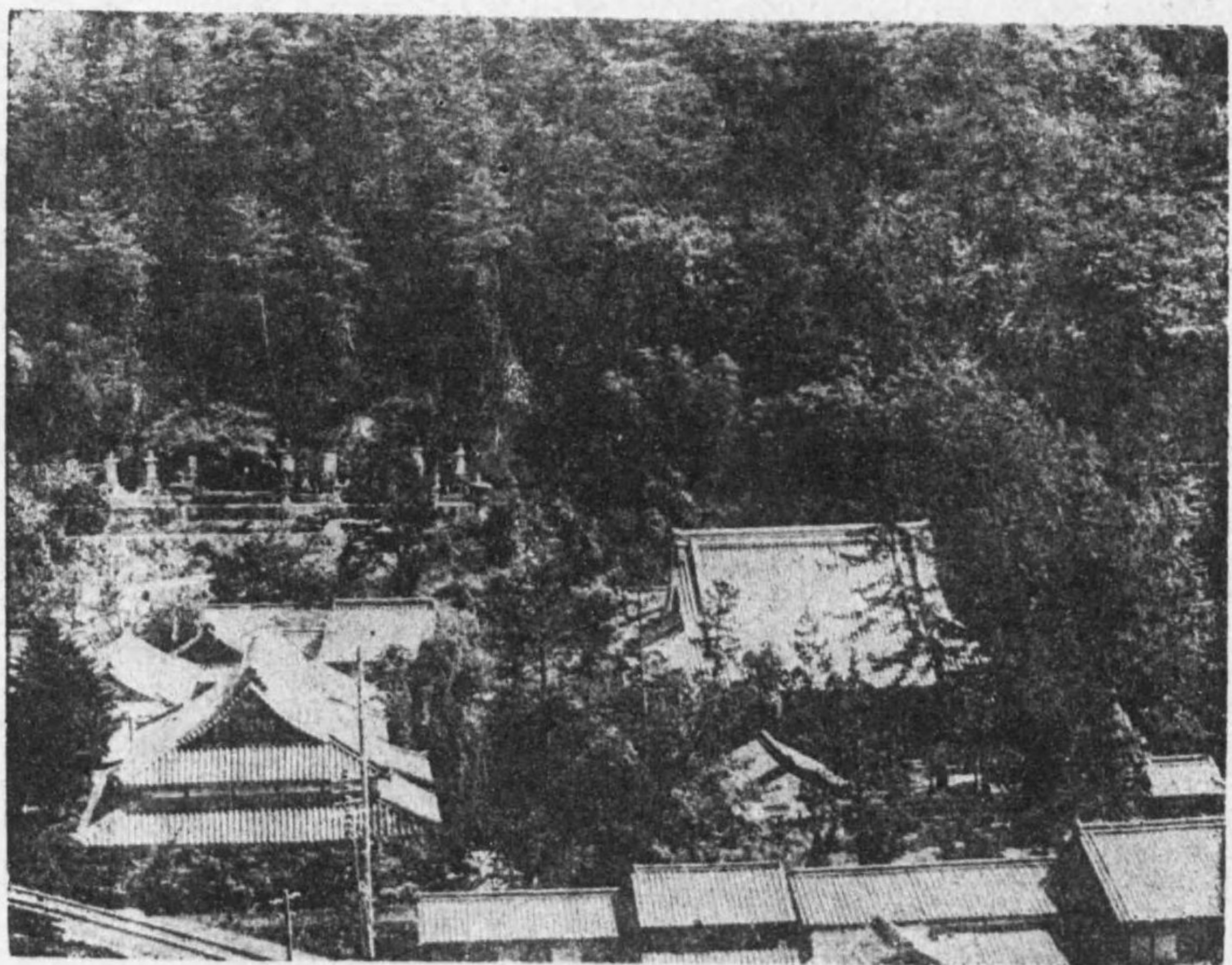


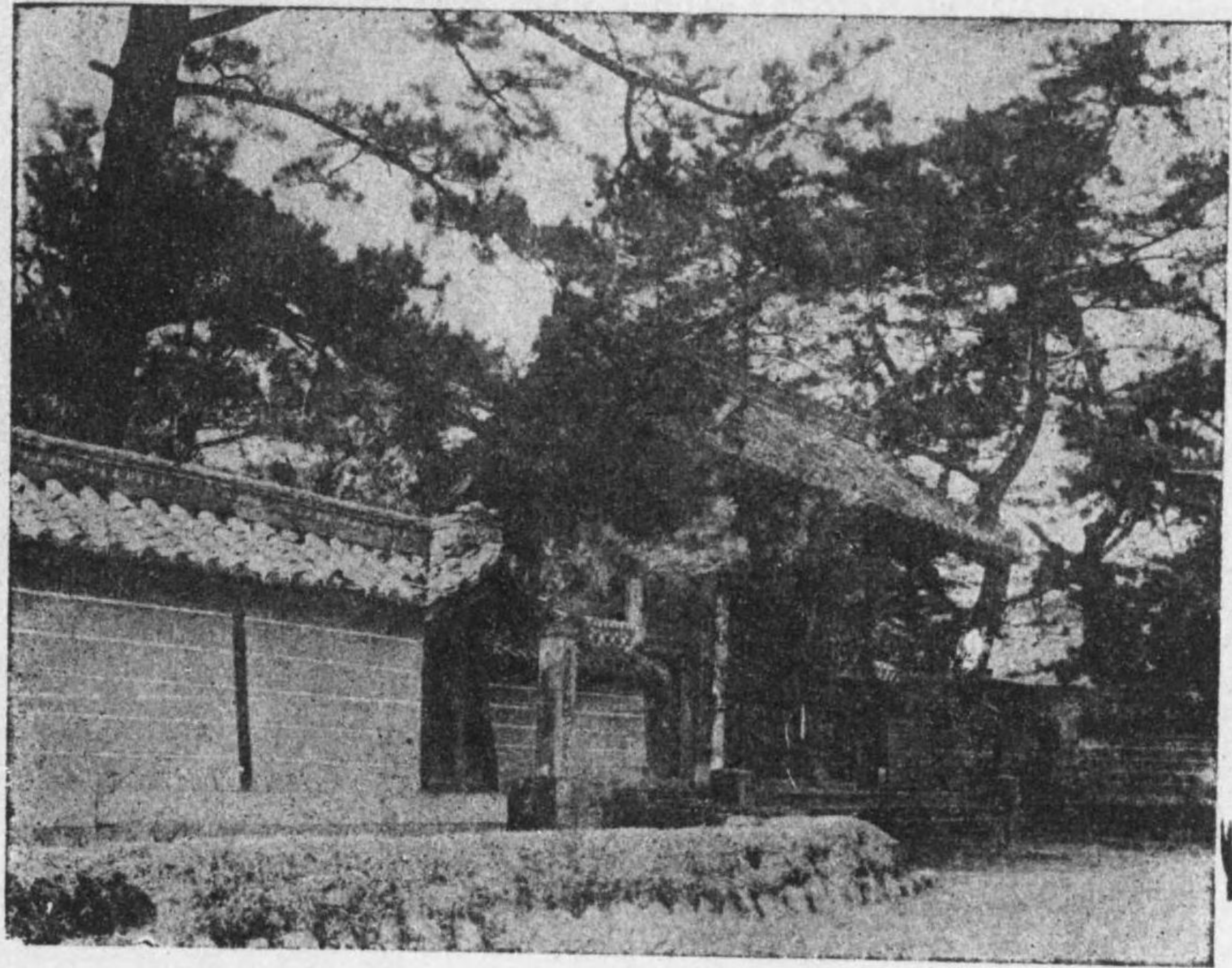
世に著名なる高松城水攻の跡なり。  
 戦國武士の典型たる清水宗治の遺烈は今も尚松籟の中に偲ばれん。

吉備郡高松町  
 中國鐵道稻荷驛下車約數  
 丁北 高松城跡

日蓮宗不受不施派の本山なり。その悲壯なる殉教録は日本宗教史の異彩たり。明治九年派名復興の許可を得。

御津郡金川町  
 中國線金川驛下車數町  
 妙覺寺





法然上人誕生の靈地。  
入道熊谷直實、上人自刻  
の像を此地に運び佛閣を  
造營す。淨土宗門著名の  
靈場たり。

久米郡稻岡村  
中國鐵道誕生寺驛下車約  
數丁 誕生寺

櫻樹に十字詩を題して忠  
誠を表したる故事は史上  
に高し。後醍醐帝を祭神  
とし、兒島高德公を配祀す。

津山市

作樂神社



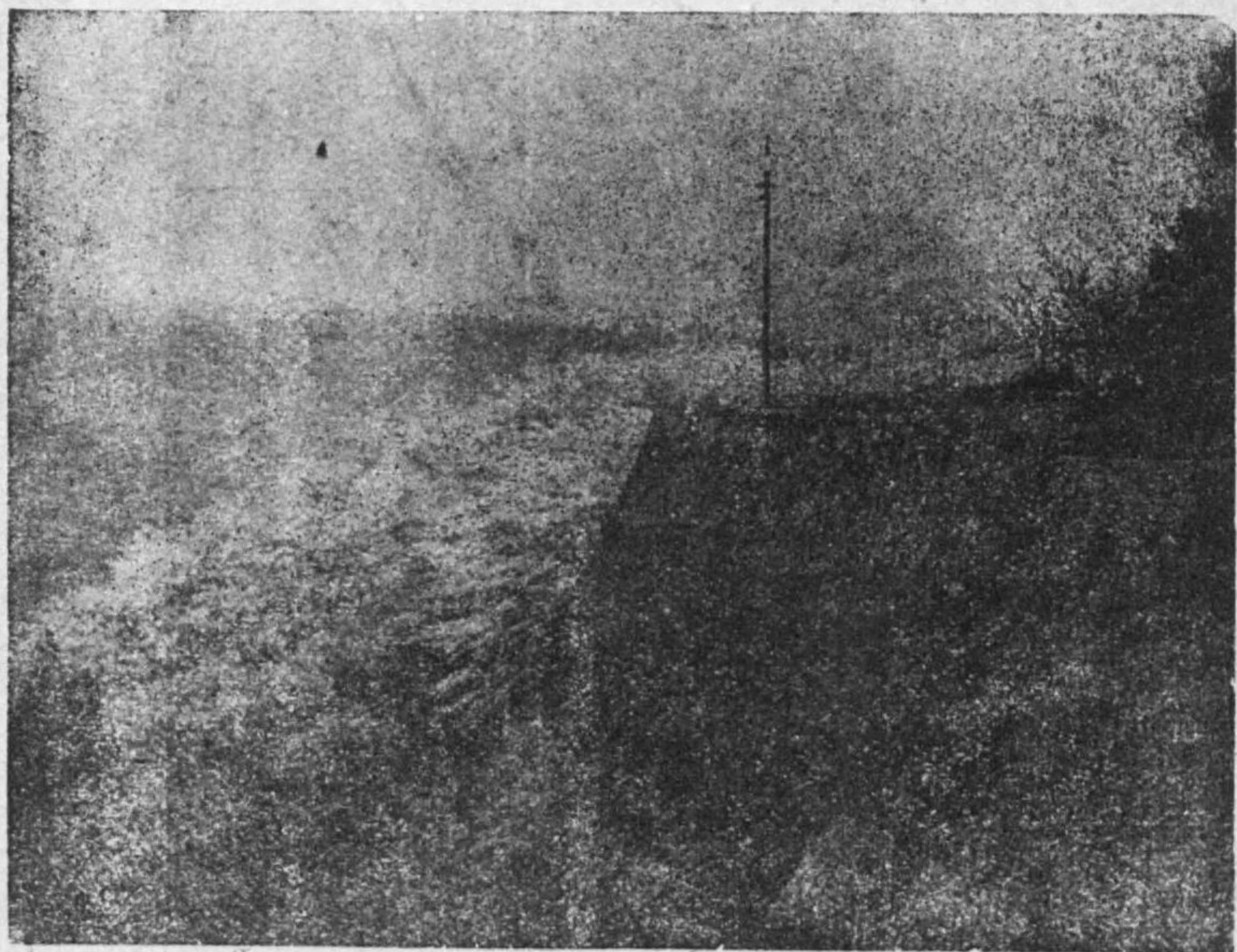


兒島高德が後醍醐帝の聖駕をお迎へ申上げた史蹟で有名。

杉坂峠

四顧の眺望と春花秋葉の景に富む。  
森氏、松平氏の居城たり、卓犖たる老松は音ながらの面影を存す。

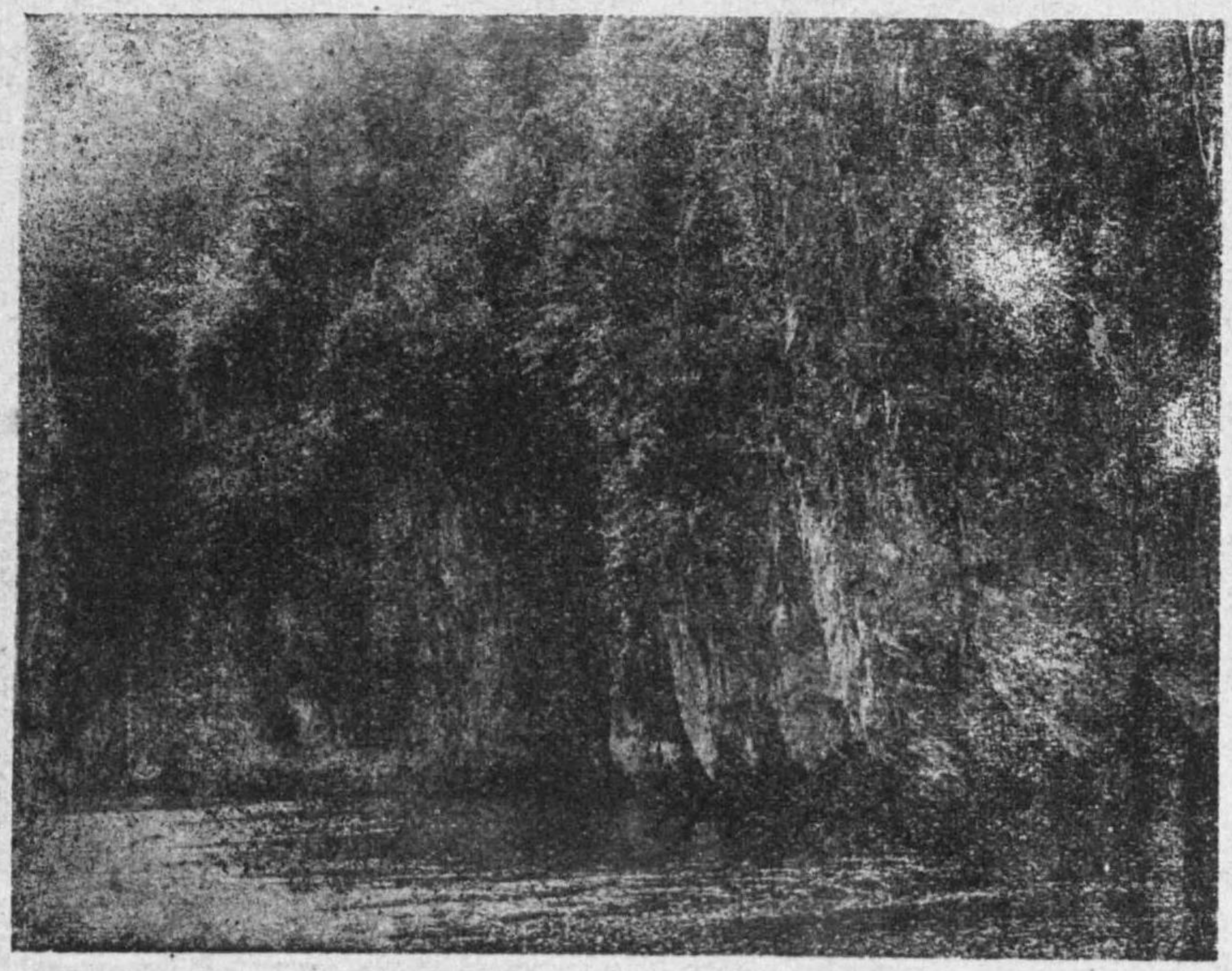
津山 市  
津山驛より徒歩にて二十分  
(鶴山城)



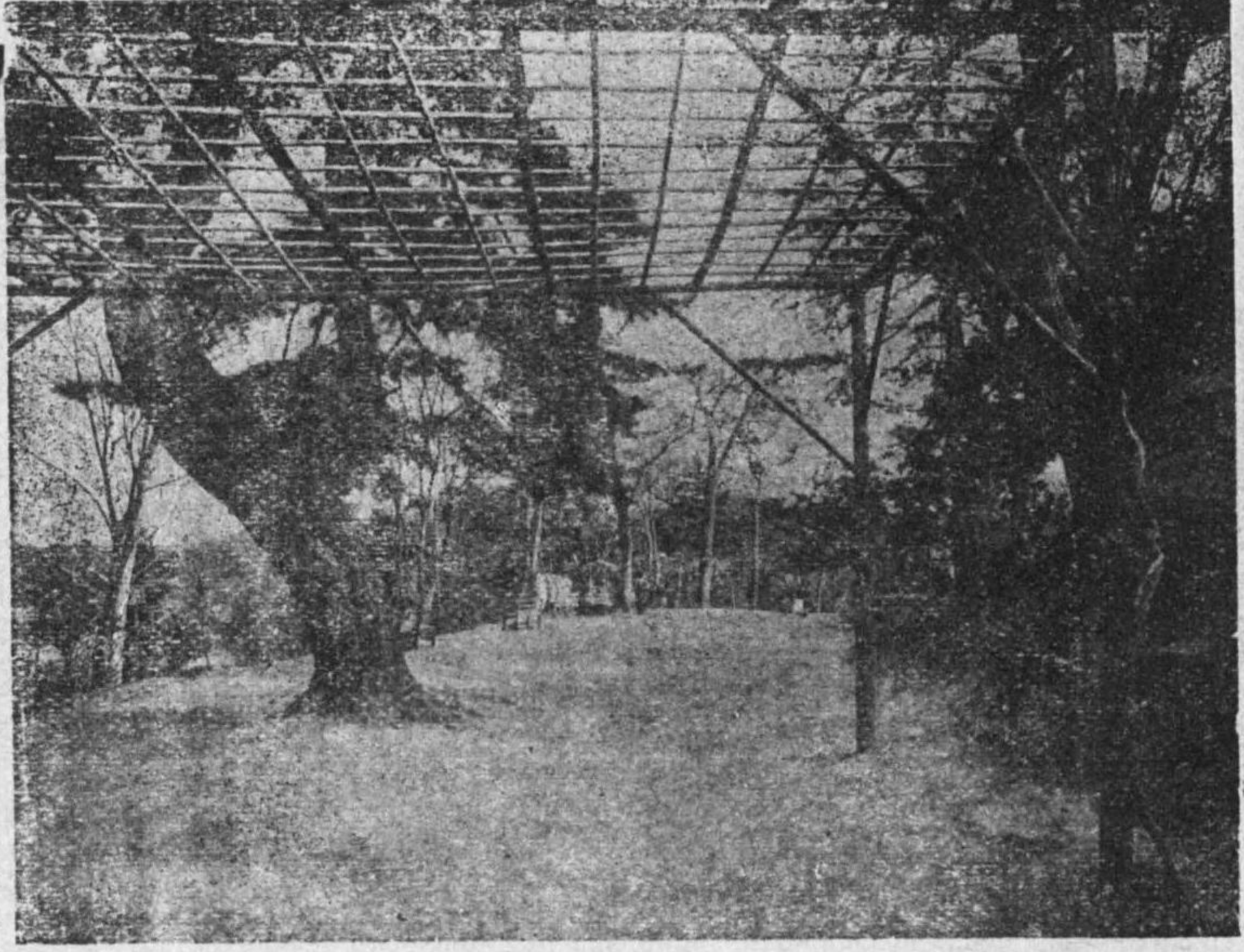
豪宕怪奇、清冽の白湍峽谷  
に泡立つ。壯觀耶馬溪を壓  
して特に秋の紅葉は賞づる  
に辭なし。

阿哲郡新見町  
伯備線方谷驛より網代に至  
る一帯

(阿哲峽)



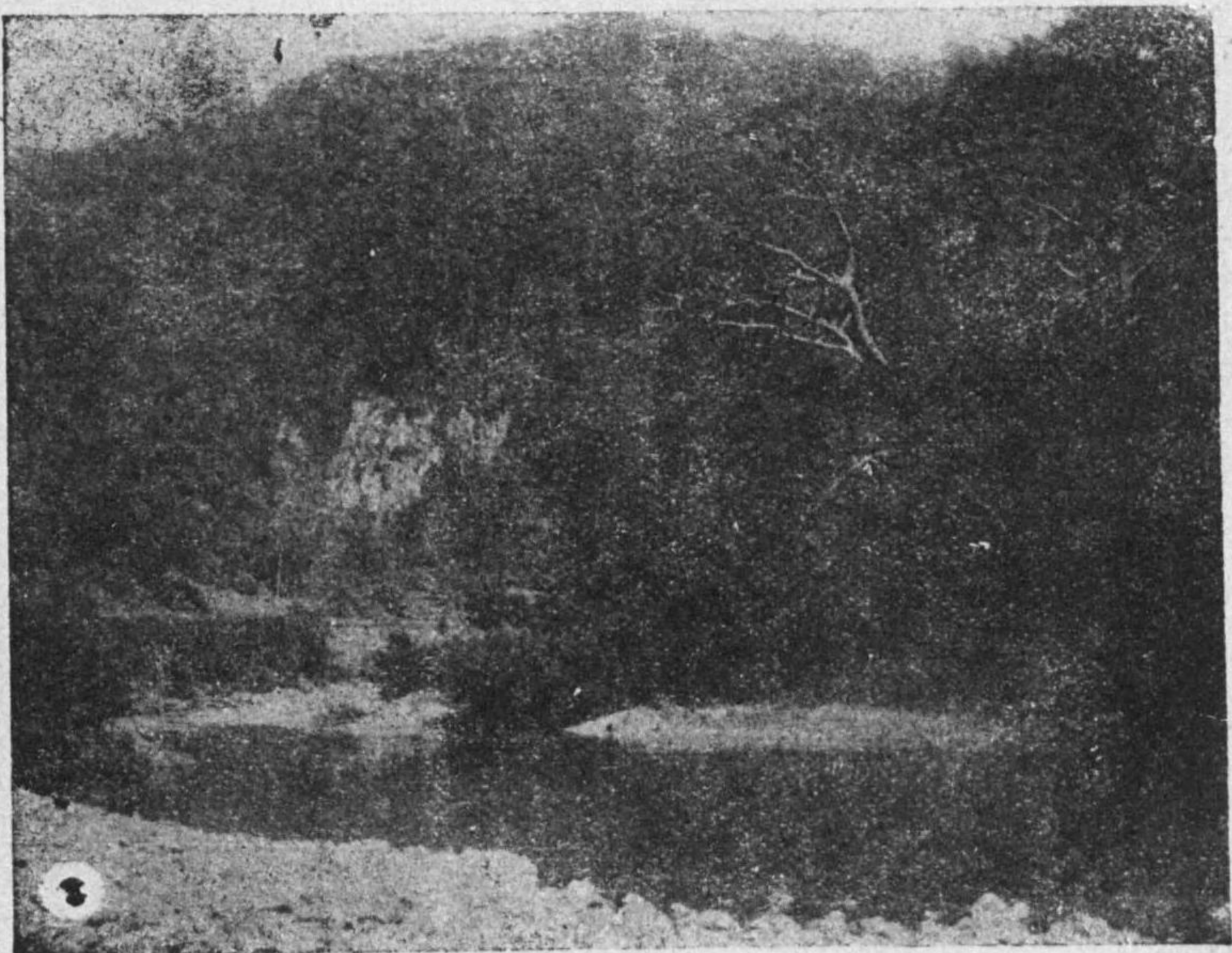
讃豫の連山をも指呼する眺  
望廣潤の公園。労働科學研  
究所、倉敷天文臺、大原農  
業研究所等の施設また俱に  
観るべし。



倉敷市  
倉敷驛より徒歩にて十五分  
(鶴形山公園)

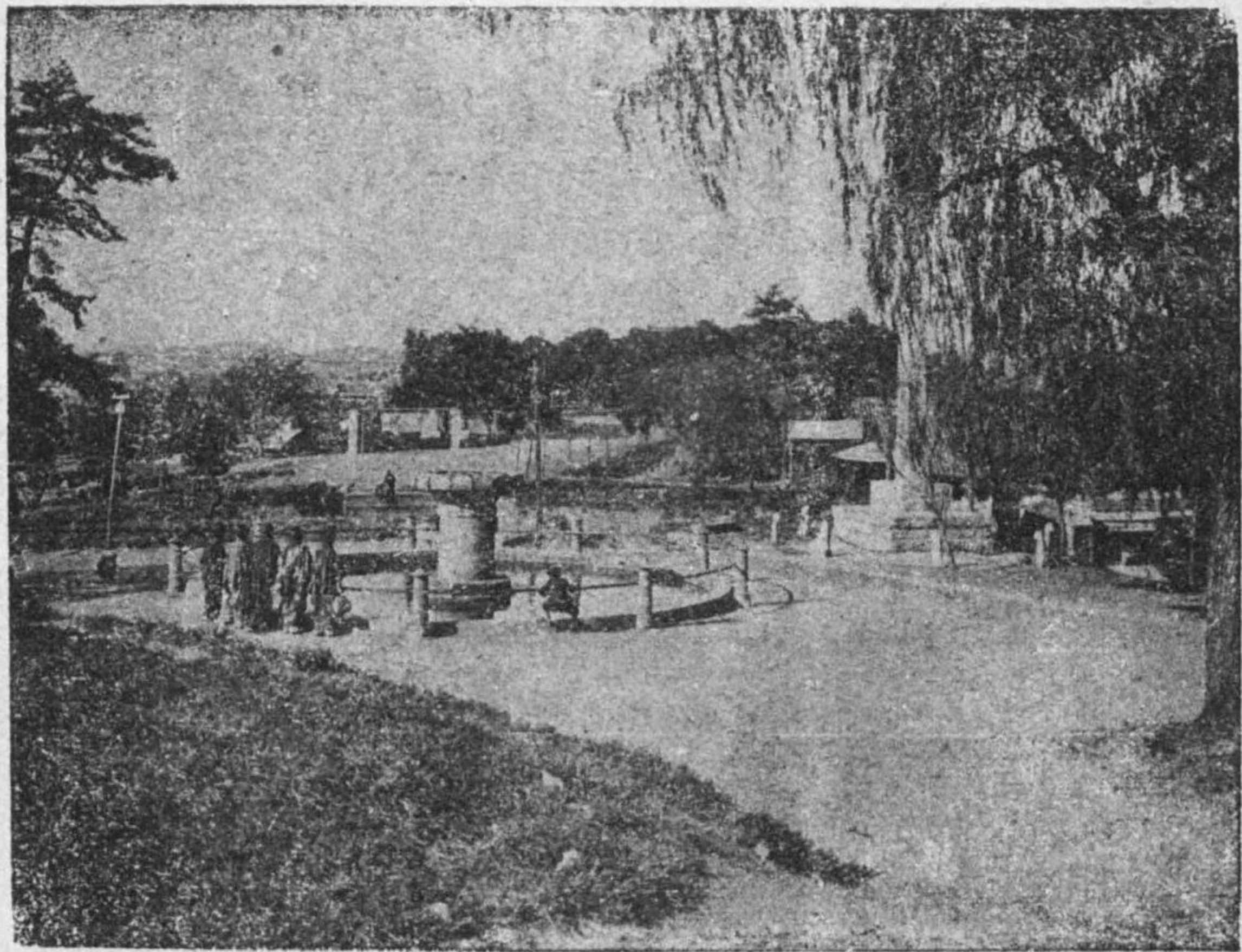
宇甘川の清流に跨る。  
四圍の翠巒と奇岩怪石の交錯するところ幾多の奇勝を生む。紅葉絶佳

御津郡宇甘西村  
中國鐵道金川驛下車、  
定期自動車の便あり。  
(宇甘溪)



市の東方、東山の中腹にあり。  
市民の親しみ深き行樂地として花の頃は股賑を極む。

岡山市門田、電停東山終點  
下車、  
乗合自動車の便あり。  
(東山公園)



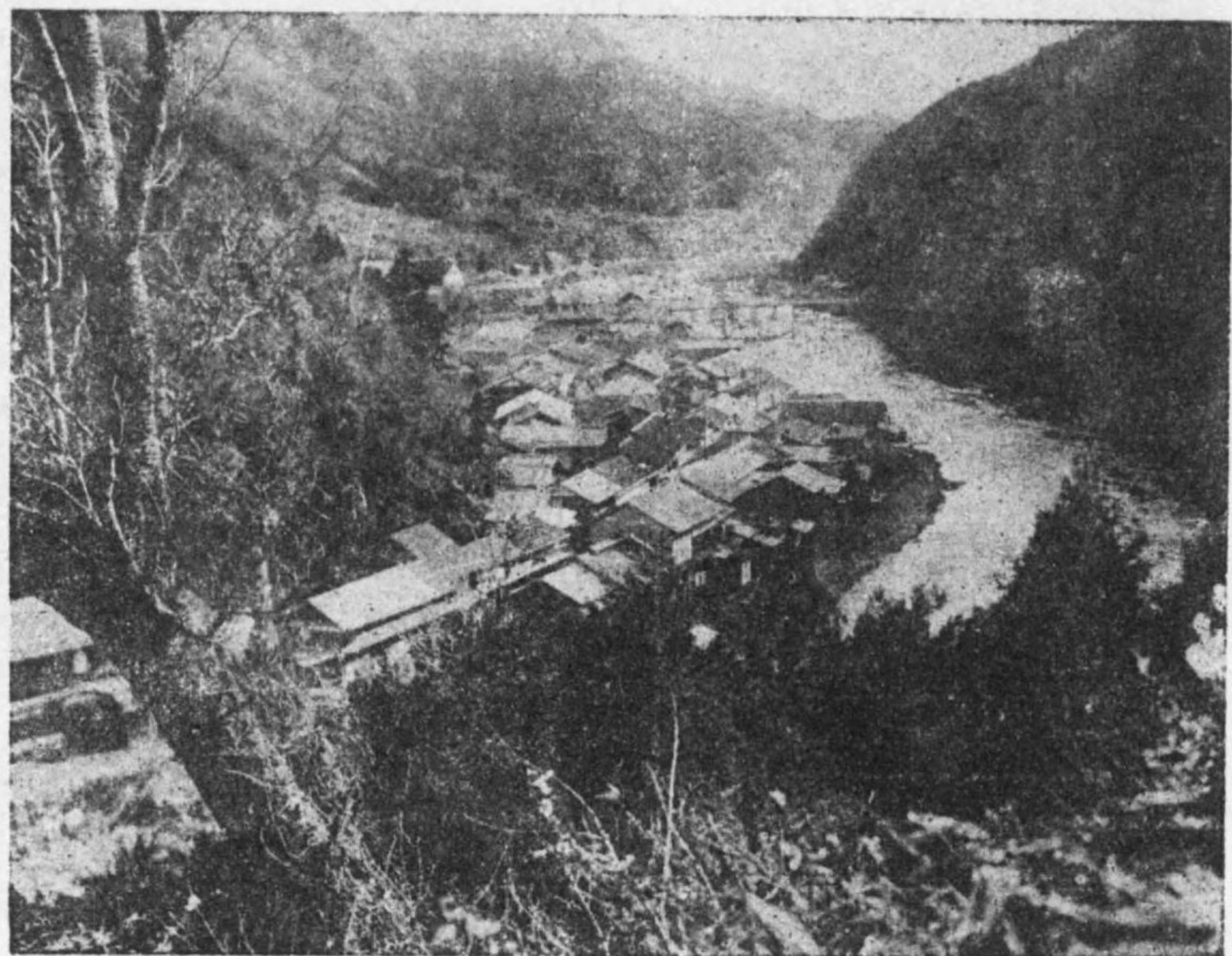
常山は兒島富士とも云ひ、  
山容秀麗。山上に城址あり  
落城の悲話は遊客の心を打  
つ。  
國立公園瀬戸内海は脚下に  
展開す。

兒島郡灘崎村  
宇野線由加驛下車  
登山自動車の便あり  
(常山城址)



(鬼ヶ嶽)





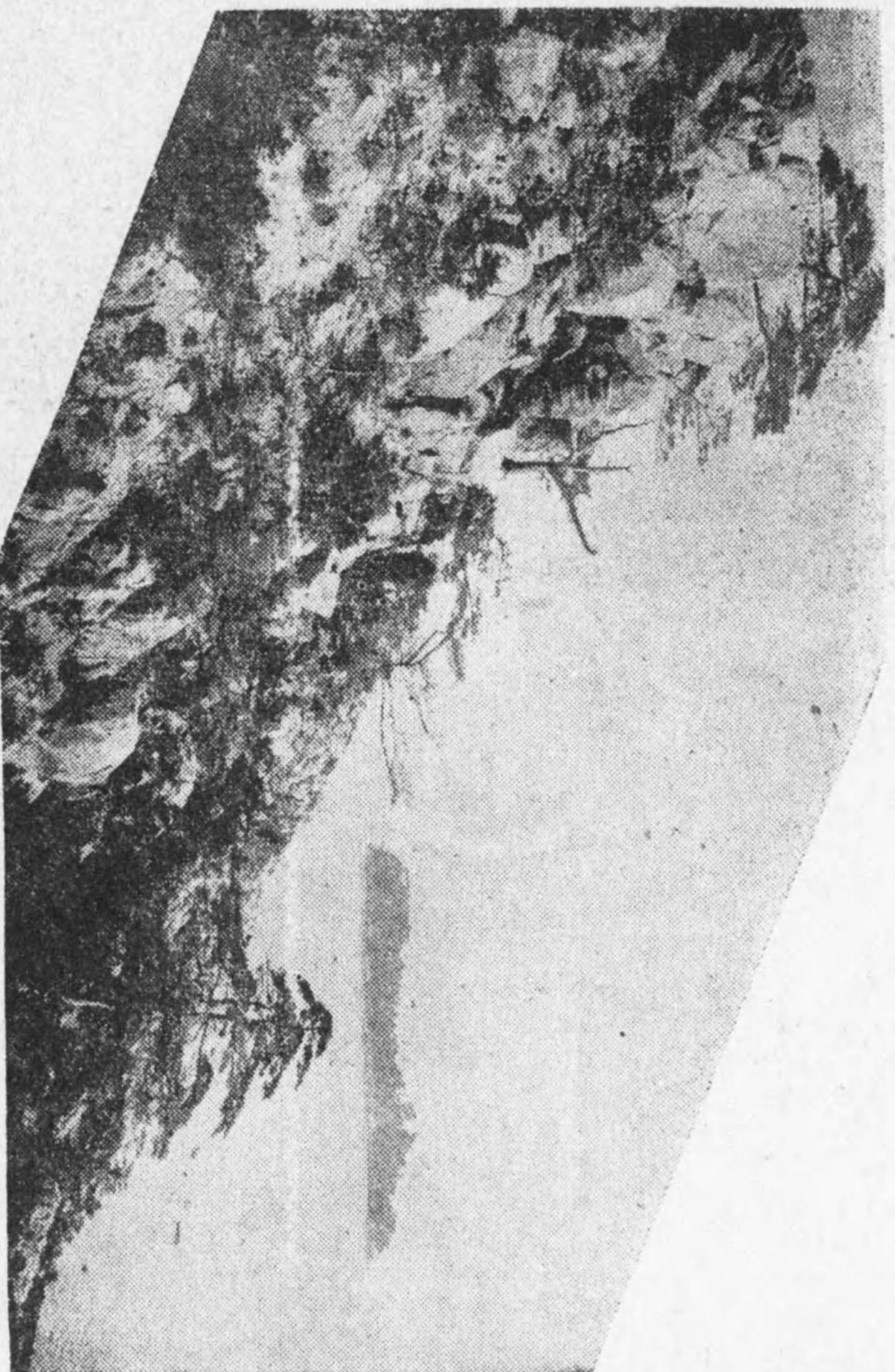
山峽に湧き出づる自然  
風呂の野趣は眞に掬す  
べく、サンセウ魚と俱  
に天下の名物として識  
らる

眞庭郡湯原村  
作備線勝山驛下車約五里  
乗合自動車便あり  
(湯原温泉)



後樂園の南堤を繞り、旭川  
に沿ふて相生橋を下る。此  
間清流を抱いて老樹茂り、  
古城は影を投じて幽韻動く  
岡山ラインの名あるも亦宜  
なる哉、

(岡山ライン)



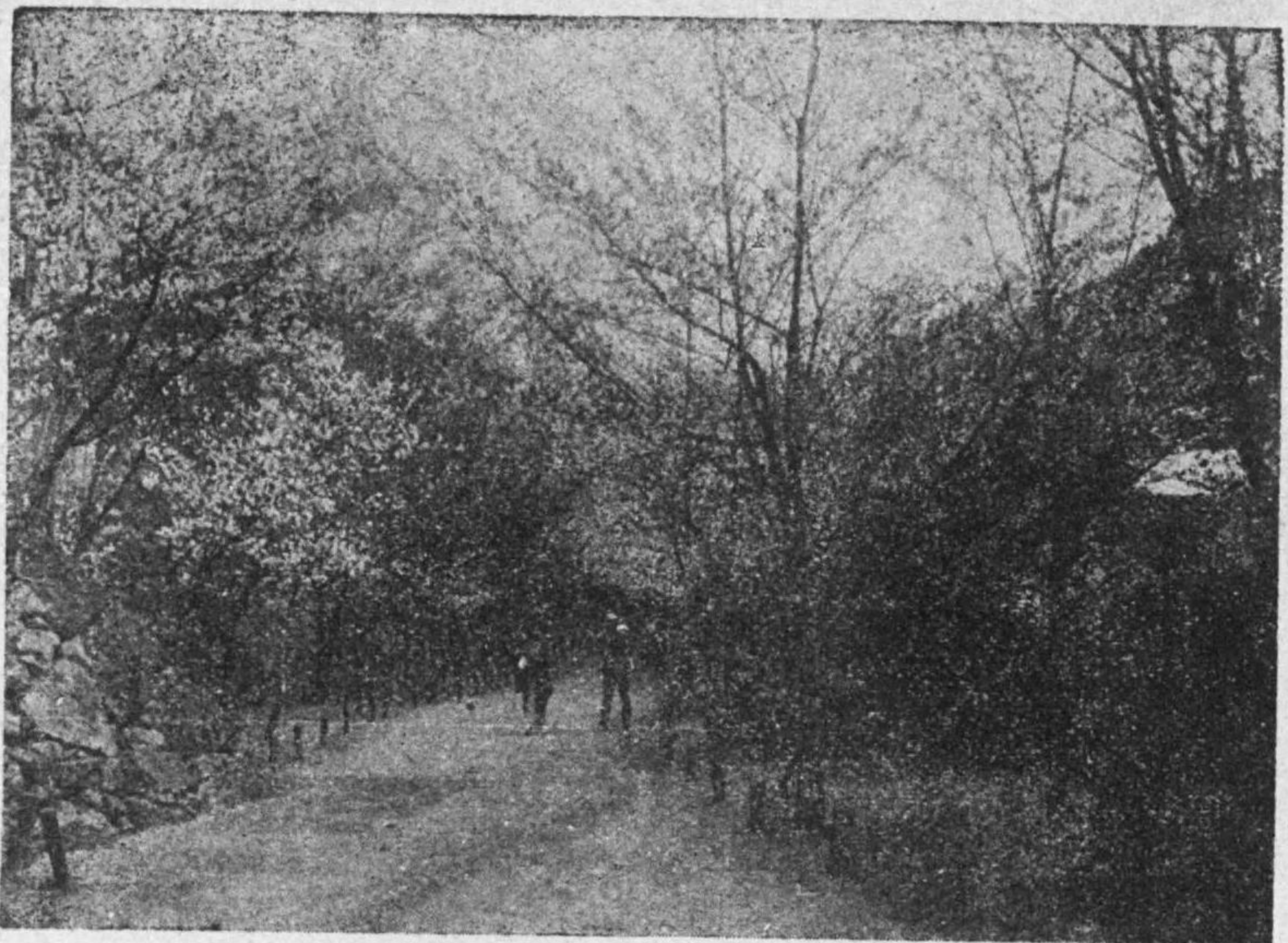
山 羽 鷲 園 公 立 國

國立公園瀬戸内海の美觀を立體的に集約する  
ところ、眞に鷲羽山頂の眺望に如くものなし

兒島郡下津井町

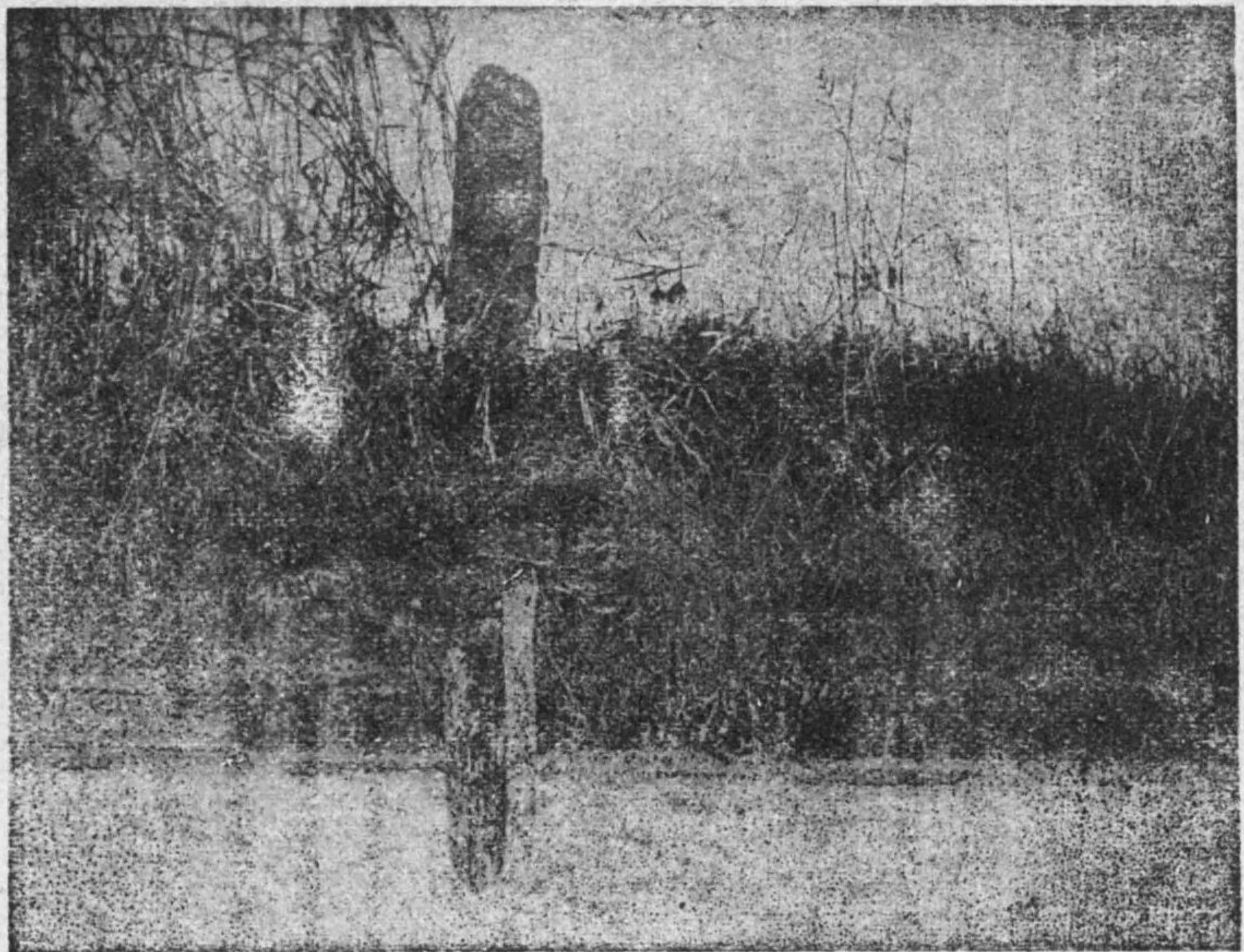
下津井鐵道鷲羽山驛下車

山上まで徒歩で二十分



(鶴山公園入口の櫻)





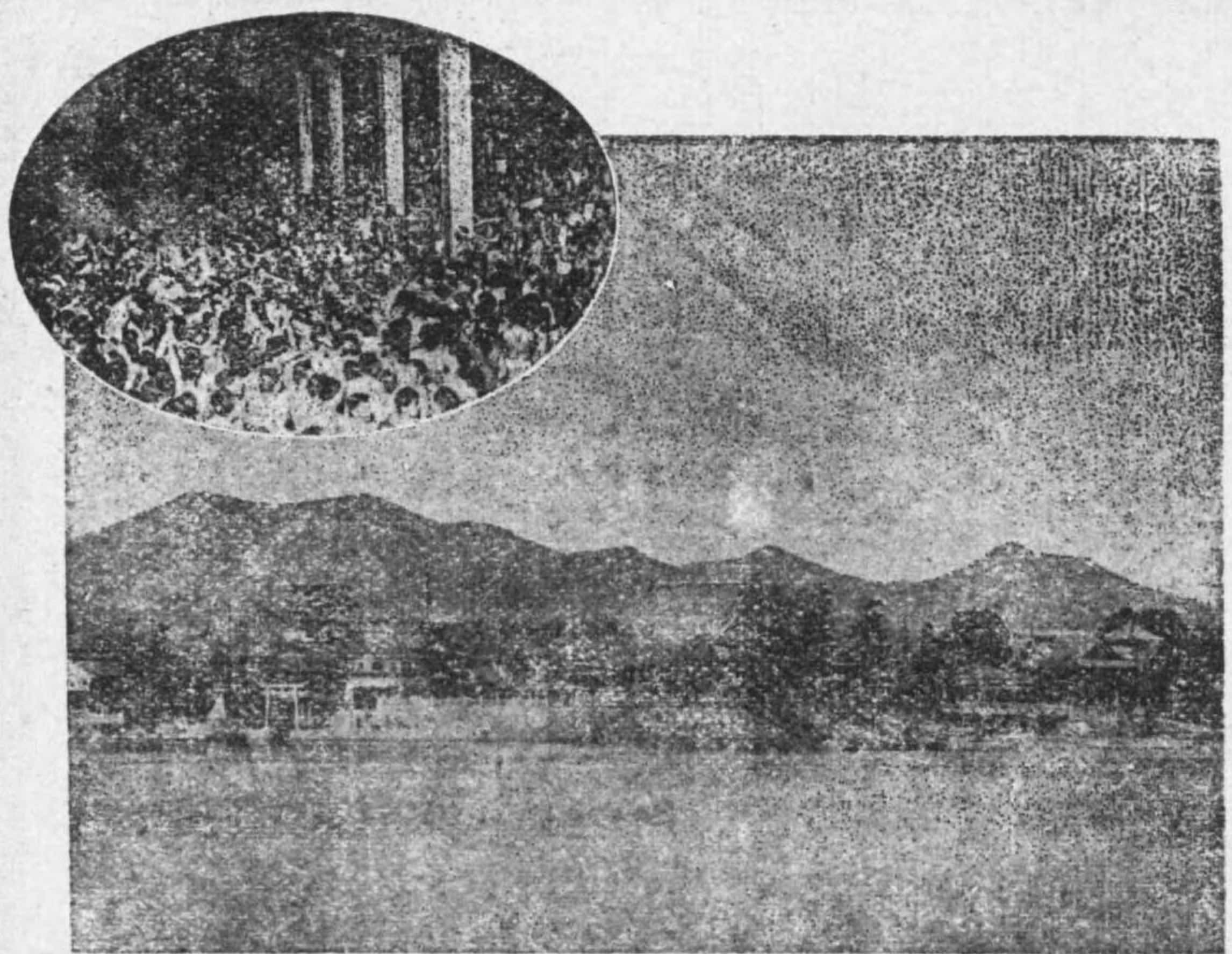
謠曲「藤戸」に於て人口に  
 噂炙さる、源平古戦場なり  
 滄桑の變はあれど遊子をし  
 て低徊去らしめず。

兒島郡藤戸町  
 下津井鐵道天城驛下車數丁  
 (藤戸の渡)

千手觀世音を木尊とし、は  
 だか祭「會陽」を以つて著  
 はる、  
 毎年陰曆正月十四日夜肉彈  
 相撃つ壯觀は旋風の如く眞  
 に天下の偉觀たり。

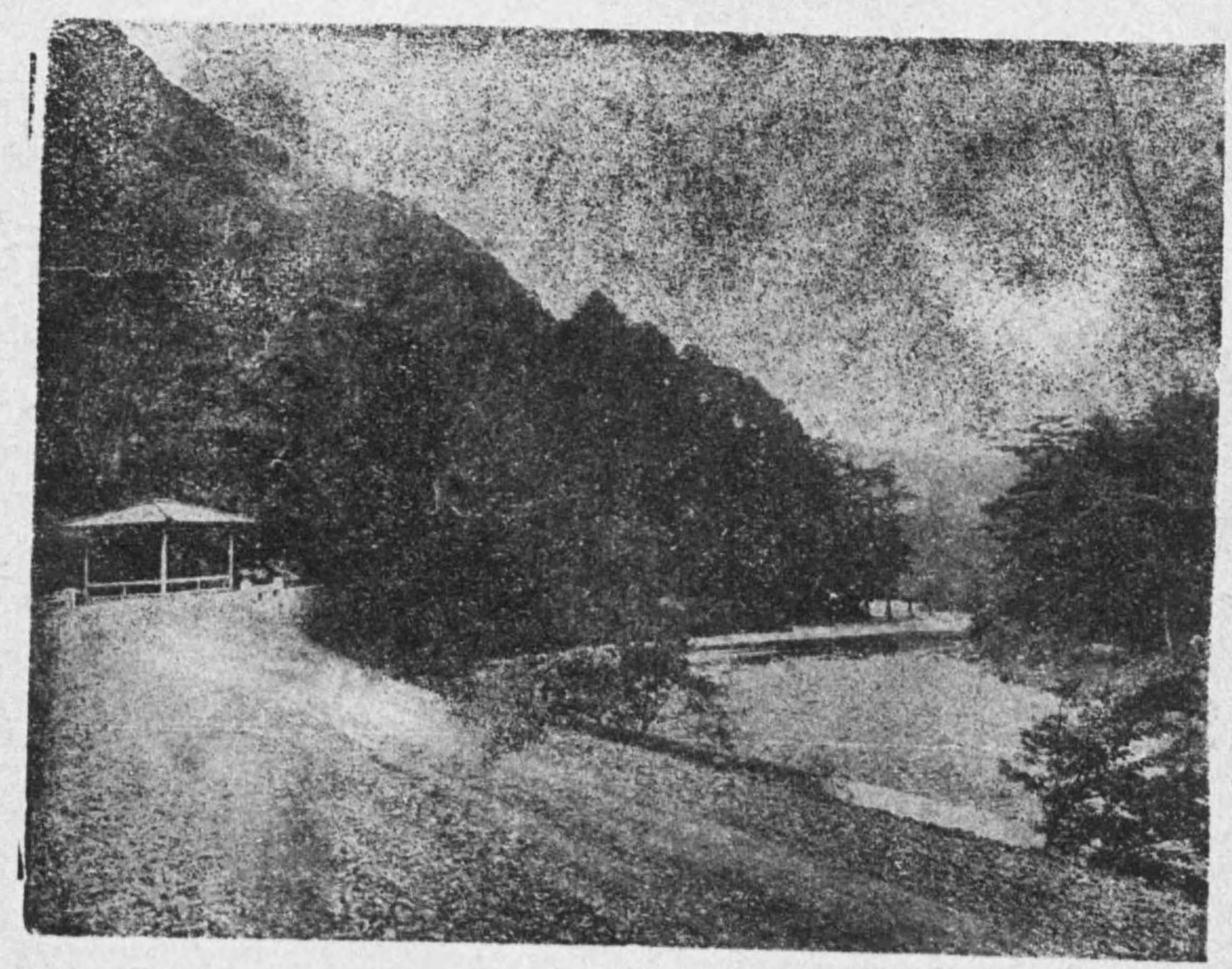
上道郡西大寺町  
 西大寺鐵道終點下車約數丁  
 岡山市城下より乗合自動車  
 の便あり。

(金陵山西大寺)



古木蒼鬱、溪水涼々。  
楓樹の名所にして塵外靜寂  
の別天地なり。

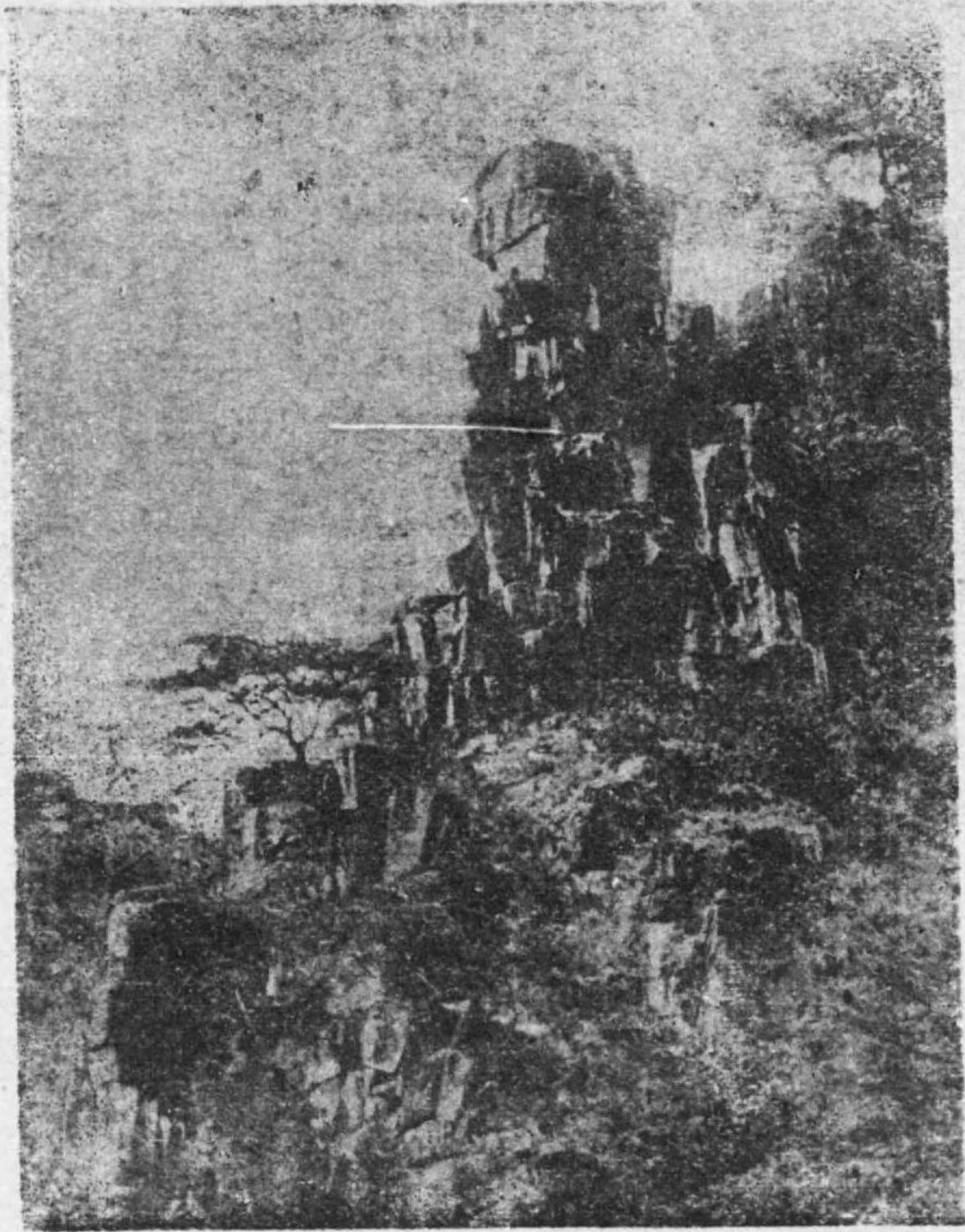
後月郡芳井町  
井笠鐵道井笠驛より乗合自  
動車の便あり。  
(芳井天神溪)



國主森長繼の造築に係る。  
京の名匠の手になりて、規  
模後樂園に亞ぐ。

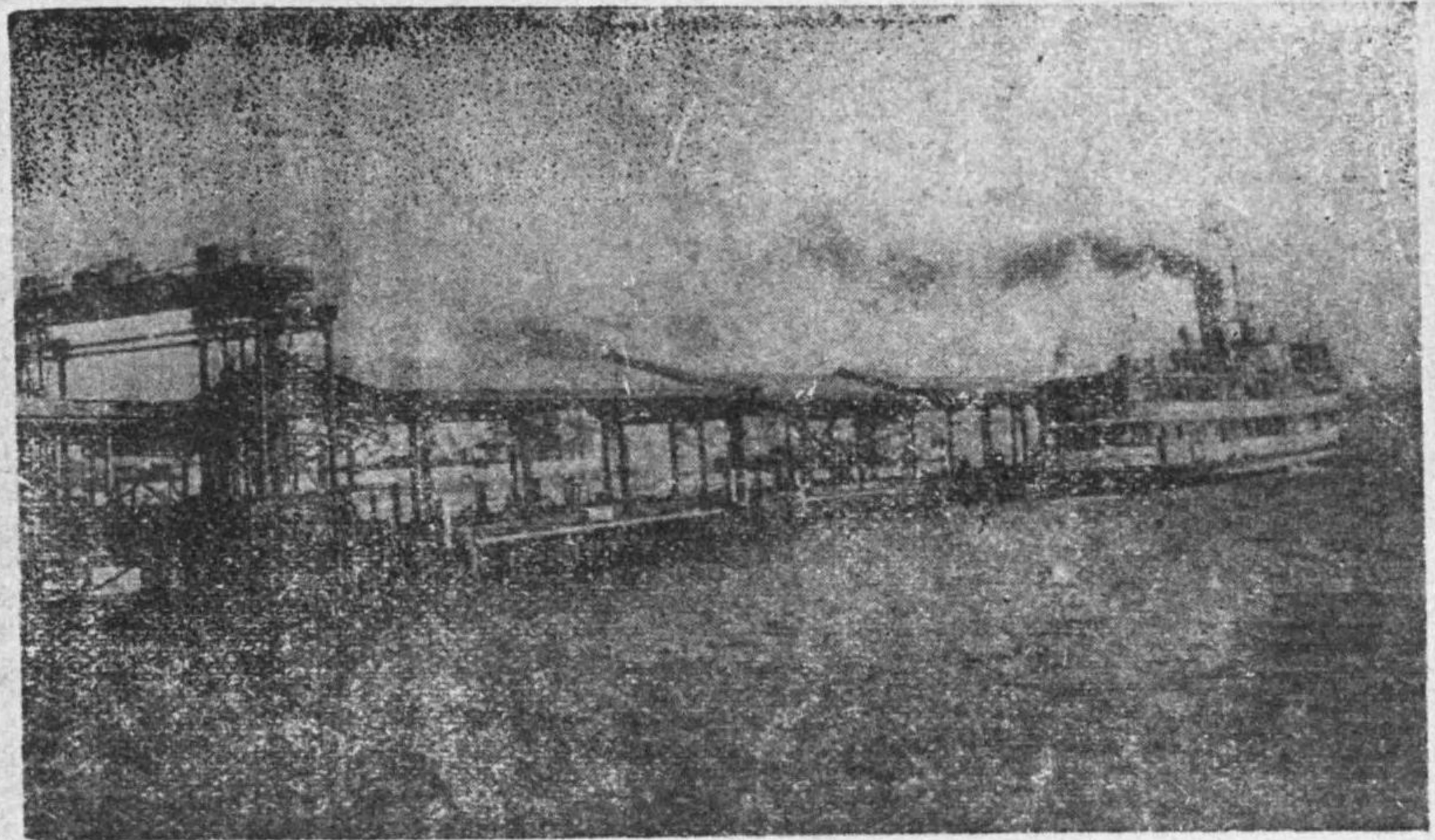
(津山市衆樂園)





風化浸蝕せられたる花崗岩の垂直、水調節能く發達し、峻峯怪峯相肩摩して眞に天下の奇觀なり。

吉備郡池田村  
伯備線粟驛下車、乗合自動車  
の便あり約三十分  
(豪 溪)



備讃を結ぶ新興貿易港として有名な宇野港棧橋

兒島郡宇野町  
(宇野港棧橋)

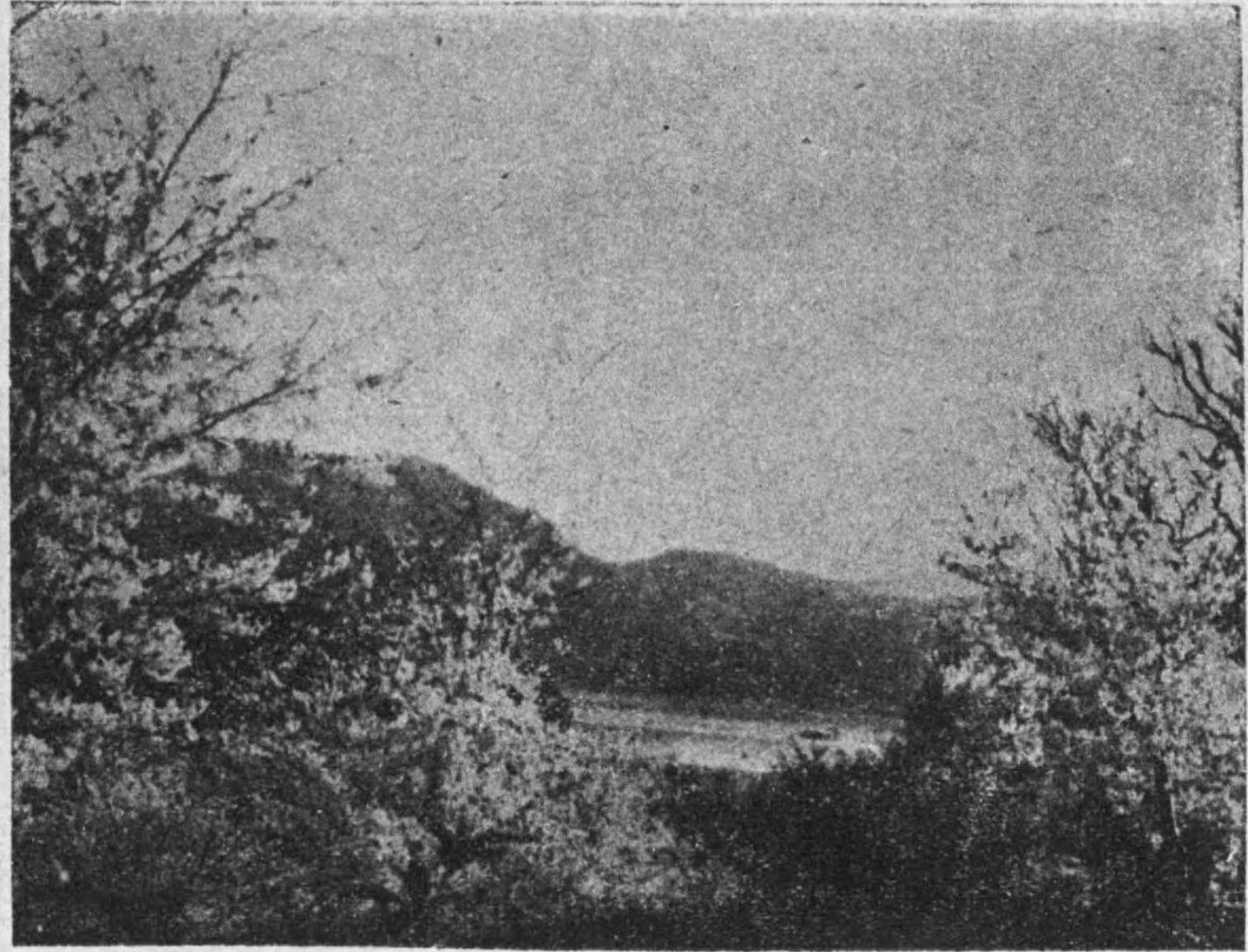
特 204  
198

昭和十一年度版

岡山民報縮刷版

オール讀物

岡山民報社編



旭川の放流する兒島灣内の  
一孤島、全山老樹に覆はる  
春の櫻に、夏の海水浴に市  
民歡呼の海上公園

三幡乗合自動車にて二十五  
分渡船十五分或は京橋下よ  
り連絡船にて一時間  
(高島公園櫻の一部)

## 發行の序

本書は「縮刷版・オール讀物」の表題を附せられてゐるが、單に岡山民報を縮めたものではなく、岡山民報は言ふ迄もなく縣下に發行される各有力新聞紙上より、主たる出來事を拾ひあげて「興味と教訓」を目標に、取捨選擇を加へて讀物形式に編輯したものであつて、年鑑にして年鑑物の羅列的無味乾燥になるを避けると同時に、讀物にして讀物に往々見受ける事實の歪曲は絶対に排除してある、

蒐録された内容は、新聞紙でいふなら所謂「社會記事——三面」的なものに力點を置いてゐるが、決して社會問題のみでなく、政治經濟各方面に亘つて重要な出來事は載録してあるので、本書を通讀することにより、十年度の岡山縣下の諸問題、諸事件を的確簡明に、しかも興味深く知ることが出来る譯であり、その點は恰も普通の年鑑が無聲記録映畫とすれば本書は發聲記録映畫ともいふべき「オール讀物」たる特殊編輯の誇るべき點である、三百餘頁の本文内容の各篇は個々に獨立した讀物となつてゐて、美談、佳話、朗話、哀話、悲話、獵奇譚、怪談等々、その悉くが盡きざる「興味」//「教訓」//「話題」の泉であり、教育者は豊富な教材を、青年諸氏は人生道場の

活きた教訓を本書より汲みとるのは勿論、全ての讀者にとりて、まことに血潮の貫いた「生活設計」の好固の参考資料なるであらう。

編輯子の本書編輯にあつたての念願は、「岡山縣とは、岡山人とは？」の問ふ者にこの書を差し出し「こゝに生きた姿がある」と言ひ得るだけのものを作りたかつたのであるが、何分始めての試みであり不備の點多々あり、次輯に於て充實を期したいと惟ふ。

尙、本書の「觀光岡山」及び「岡山縣名士録」は本文頁數の増加のため、豫定の半分程しか載せられなかつたのが残念であるが、これも次輯では別刷附録として倍加したいと希つてゐる。

昭和十一年四月

岡山民報編輯部

## 目次

母子の再會綺談……………	一
八ツで別れ十余年目……………本當の息子と名乗る男が又一人	
哀れ！法廷に立つ八十二の老婆……………	三
知らぬ間に賣られた家屋敷を死守……………老婆「勝てよ」と集る同情	
岡山醫大に陰鬱な嵐……………	四
赤井藥局長告訴さる……………A調劑を巡る奇怪事、B器械購入に商人と 結話、C巨額の不正取引、D盗んだ藥品を商人に密賣	
心中した若夫婦は生きてゐる？……………	八
父親から倉敷署へ奇怪な保護願ひ……………A廳然と來て廳然と去つた一 組の夫婦	
岡山一の怪力男……………	一〇
五寸釘を捻切つて平氣……………	
女人禁制を解く西大寺の内陣參拜……………	一〇

連昌寺横の空家に幽霊……………一一

怨靈潜む床下堀れば……………文献に残る「片岡源吾衛門」の切腹

風水害の尊き犠牲者、井原巡査に功勞記章……………一二

私製リンデー事件の怪婦人……………一三

吉備郡の叔母の家で捕はる……………一千圓の人質“直ちゃん”は無事

人間さながらの母性愛……………一四

子を奪はれた母犬の血涙哀話

四百十六年八ヶ月拂ひ……………一五

津山區裁の珍調停……………二千五百圓を月五十錢の崩し拂ひ

小學校で大賭博……………一六

御津長田校に博徒侵入

農村の借金王は地主様……………一六

令嬢や夫人に墮胎手術……………一七

卅年前の美しい謝恩會……………一八

都窪妹尾の朗話……………當時の“先生”東署佐藤巡査の感激

病母を抱き雄々しい苦闘……………一九

出石校に咲いた孝養美談……………A 童心鞭打つ受離の嘉子さん、B 受持

先生「心の脱帽」

岡山の内鮮融和衛生的な朝鮮村……………二一

險の父を深す壯丁……………二一

親子の對面叶ふか……………津山市へ真情籠る問合せ

一時間に五人出生（縣下の人口動態）……………二二

電燈検査員に威しの拳銃……………二二

津山市疑獄が生んだ少年美談……………二三

父の罪知らず母なき家庭に淋しく暮す二少年に、温く濺ぐ小學生の友愛

慰問が取持った縁……………二四

裸・裸・裸（西大寺觀音院の會陽

九十歳以上の高齢者……………二五

縣下に三百四十人……………筆頭は淺口郡次いで小田郡

岡山醫大事務官の公金横領……………二六

人騒がせな蛇屋敷……………二七

西阿知町に将棋の天才兒……………二九

火災は縣下に六百四件……………二九

岡山市内に流感一萬突破……………二九

忽然消へた二千圓のラヂウム……………三〇

岡山赤十字病院の騒動……………驗電機の威力で發見

西大寺高女ステージ墜落……………三一

八十餘名負傷、風水害で繼目が緩んでゐた

海のアチラで結ばれた戀……………三二

岡山醫大林教授のローマンス

感心な少女よ南兒莊内校の學園美談……………三三

愛妻を寢取られて四十男の兇刃……………三四

菅生村果樹園の情痴及傷事件……………A同情が戀に嫂と弟、B肉親相喰む

邪戀の火遊び、C夜蔭の墓地で女房肅正祈願

『嚴格な父』を毒殺した青年……………三七

全國で第四位（縣下定期刊行物）……………三八

風水害で激増の小作爭議……………三九

火と燃ゆ同胞愛（和氣聯合青年の美學）……………三九

貧因兒童へ贈物……………四〇

岡山市社會課獎學金を給與

早島製織會社の勞働爭議……………四〇

“採算してみても呉れ”と工場主帳簿を投げ出す

蛇にあらで大鰻七十尾……………四一

傍聽者と岡山市議亂闘……………四一

岡山市を騒がした稀代の放火魔……………四二

一夜十數ヶ所から出火瓦斯コンロを床下へ

演習ゴツコで友達を二人射殺（苦田）……………四四

獄舎に咲く麗話……………四五

被害者に賞與金全部を贈る岡山刑務所の無斯囚……………人差指を切つて

只管冥福を祈る



津山市會の壇上で卒倒……………四六  
 悲壯なる答辯中の土木課長……………土木費が削られ市長と衝突  
 懐ろから路上へ一年間五萬圓也……………四七  
 冷たい家庭。十一少年ひとり旅へ……………四八  
 七千圓の名刀醫家より現はる……………四九  
 靖國神社へ合祀された譽れの縣人……………五〇  
 秀才揃の一家(津山)……………五一  
 妾腹の子と證言され家邦管長憂鬱……………五一  
 確認訴訟開始……………A 聖地金光に渦巻く暗流、B 離籍問題で前田子爵  
 喚問さる……………  
 神庭の瀧で悲戀の心中……………五四  
 久田村に「やもめ會」……………五五  
 三保村の資産家立海灘へ投身自殺……………五六  
 たゞ一人の「教士」薙刀の守屋女史……………五七  
 アメリカ土産十萬圓也……………五八

アチラの土産だ、少いが取つときな

中洲郷皇武々道場の建設……………五九  
 二匹の蠅に勿驚黴菌一億一千萬……………六〇  
 岡山醫大細菌學教室をあげて不眠不休の研究  
 無情の夫を恨み死の抗議……………六二  
 見事酬いられた實父の弔合戦……………A 佳人が歩んだ荊の道、B 極度の  
 心勞で肺結核に、C "惡魔"と叫びベツトを血で染む、D 長恨呑んで  
 悶死、E 遂ひに酬ひられ、墓前で讀む"判決文"  
 火中に飛込み幼兒を救ふ母(赤磐)……………六五  
 岩石落下。蕨狩の學童慘禍(苦田)……………六六  
 母戀し。孤獨の少女倉敷署へ涙の願……………六七  
 世の迫害と闘ふ小川巡查の遺族……………六八  
 "更生の希望"を愛兒の成長に求め  
 母娘三人心中……………七〇  
 一人を背負ひ一人を抱いて池へ

バスガール孝子美談……………七一

地下に眠る教へ子に手向ける涙の香花……………七二  
仰げは尊し"わが師の恩"

顔一面に焼火ばし……………七四  
倉敷の繼子いじめ……………瘦せ衰へた先妻の子三人

肅選悲劇。小野候補者夫人自刃……………七五

孝子の母殺し裁判……………七八  
具さに申立てた母が"嫁虐め"の数々

母の邪教妄信に哀れ乳兒"死の旅"……………八〇  
「人の道」狂信醫藥を笑殺……………A邪教の下した苛酷な鞭B夜陰に死体を廣島へ

"髯"の老巡查をラヂオドラマ……………八二

捨てたか殺したか行方判らぬ少年……………八五  
倉敷に奇怪事件……………人が聞いたら「一男と言はず安ちゃんと言ふ」

津山の債券魔。上告審で罰金二百圓……………八六

不可思議な人生行路……………八七  
十八年振りで肉親に遭つた"サーカス女王"は嘘

兪の妹を尋ねて啞の若者……………八八  
神戸から岡山へ跣足で歩く……………驛頭に描く人生哀話

岡山驛の今様『姥捨』……………八九

デカンショで練る六高生團を抜刀で阻止……………八九  
狂態何事ぞ!と現役將校が説教……………六高生反抗し盛り場一ト騒ぎ

加茂の豪農に慰藉料請求……………九〇

愛なき結婚を逃れ倉敷の宿で毒を嚙む十九女……………九一  
處女を奪はれた女中が涙の訴へ

兪の母を迎へ名門澤田家に春來る……………九二

岡山市最高齡者に"昔と今"を聴く……………九三  
可愛い娘か七十一……………讀書に裁縫に瞿鑠たり……………五十歳で初めて見る汽車

學校からの歸途少女行方不明(津山)……………九七

二兒と共に服毒し助かつた"母"の裁き……………九九

歪んだ魂を元に返へした少女の純情……………一〇〇

伊部家政、同小學上級生徒六十余名の陰徳現はる

人生灰迄を地で行く獵奇な愛慾圖繪……………一〇一

八十婆の情炎から小野田町の慘劇……………汲めど盡きのホルモン腺、八十で紅白粉

病床に母を抱へ少年孤軍奮闘（岡山旭東校）……………一〇五

鳴動と共に田圃陷没（川上郡）……………一〇七

境橋の清掃奉仕（津山竹細工職夫婦の善行）……………一〇七

和氣清麿公の石棺……………一〇八

果して掘り當てるか「吉」と出た易判斷

年上の女が男への抗議（久米郡）……………一〇九

凄慘!! 一家三人心中（兒島郡）……………一〇九

倉敷の大財閥大橋家没落……………一一〇

多彩極まる運命繪卷……………A 政黨と結んだ土地の思惑買、B 中國銀行へ百萬圓負債、C 遂に庭石まで差押へらる、D 今は芹屋で借屋住ひ

謎の流行性腦災。病菌媒介は蚊か……………一一四

權威者岡山に集合、病根突止めに活躍

岡山東京間口ハ乗の旅……………一一五

學問は要らぬと叱られた向學の十三少年

縣會へ初めて無産陣營から二人……………一一五

死よりも強し母の愛……………一一六

八人の子をを抱て雄々しく夫に對抗……………馳せ參じた五店員の報恩美談

一番町の老婆殺に無期懲役の求刑……………一一八

若き小學女訓導の服毒自殺……………一二〇

六十一の退役伍長岡山工兵隊へ入隊……………一二一

非常時日本の心意を身をもつて立證

生きてゐる「醫は仁術」……………一二二

豊野村の小出醫師、田畑を青年團に提供

濁流に飛込み二女を救ふ（英田郡）……………一二三

長命は女に多い岡山市では男の五倍……………一二四

愛の輸血。瀕死の教へ子を救ふ（兒島・藤戸校）……………一二四

「心の二人三脚」琴浦紹介所の朗話……………一二六

愛の巢も百圓札。浮れ鼠の行状記……………一二七

仇な邂逅、罪の握手。故郷岡山話から”手錠も仲よく”……………一二九

珍しい過褶曲発見（川上郡大賀村内）……………一二九

旭川支流工事に家を奪はる市民……………一三〇

岡山驛員の濫い心に感謝する母娘……………一三一

溺れる幼児を救つた紳士……………一三二

捨てられた安ちゃんは吉備撫育院に……………一三二

無情な父を呼出し引渡し倉敷の怪事件解決……………一三三

處女攻落の無軌道エロ行脚……………一三三

岡山の百萬長者の極彩色情痴行……………A 呪はれた結婚、B プールの美女

C 一躍大金、D 桃色行状記の豪華な羅列振……………一四五

春日町眞夏の戦慄。蛇の夜這ひに大騒ぎ……………一四五

榊原病院長。正体暴露……………一四七

狂亂の私生活と相次誤診……………A ハイドを地でゆく白衣の悪魔 B 二百圓で處女を買ふ C 月千五百圓散財、D 患者をよそに海に山に豪華な逃避行……………一四七

病院は酒池肉林の巷、患者の骨肉を喰む……………一五五

南海の獵奇。北木島探訪記……………一五五

全市暗黒の防空演習下の防護團活躍……………一五七

二圓の恐喝で懲役一年……………一五九

ひとの戀路を邪魔した男……………一六〇

無言の勇士。軍馬赤兎號……………一六〇

六十婆の嫁への嫉妬……………一六二

”今に樂をさせてやる”とわが家へ放火、投身自殺……………一六二

市長、助役対立激化。岡山市會騒然……………一六二

代決権剝奪を繞り、急機迫る……………A 市條令を改正し助役權能剝奪、B 醜争市會に進展、C 危機を胎む兩派の抗争、D ”事態靜觀”と助役語る、E ”助役が悪い”と吉田市議談……………一六二

血で築く人類愛。盲啞學校訪問記……………一六八

五ヶ年間に滞納九萬圓……………一六九

岡山市稅務課稀有の奇怪事……………A 督促せず全然放任、B 納めてあるのに、よういわんワ

御津郡加茂鑛山に火に熔けぬ鉛……………一七二

傳説から生れたお伽噺のやうな幸運……………非常時工業の寵兒”水鉛鑛”の發掘

インチキ治療師を暴く……………一七三

色慾二道の毒牙に婦人患者のS・O・S……………ホルモン腺へ揉療法、隣室を惱ます奇聲……………美人には特別療法

那岐山頂へ防風樹帶……………一七六

能登輪島からヒバ苗一萬本……………工藤津山營林署長の試み

醜争の岡山市會に又も亂闘騒ぎ……………一七七

懇親會席上で副議長血だるまA……………宴會場は突如修羅の巷、B市會四分五裂

赤カード四百世帶。岡山市民生活狀態……………一八〇

十年前の出來心へ利子を附けて清算……………一八一

違算八十圓を着服した取引先の店員、山田村被害者へ贖罪の手紙

生神攝胤副管長に隨喜の信徒……………一八二

音吐朗々と教内肅正の視祠……………金光大祭終る

百五十年前の遠縁へ差延ぶ親族愛……………一八三

津山に零落を啣つ刀匠多田家子孫へ東京から温かい慰める品々

兩極端をゆく町村醫療所……………一八四

經營難と大繁昌……………縣では組合立を奨勵、……………醫界の淨化を圖る

皇學で國體說……………一八五

温知校の昔を偲ぶ、岡山師範學校六十周年

一食が一錢一厘……………一八七

師範創生時代の教頭が平沼博士

愛生園の惠の鐘……………一八九

孤島に響く愛の餘韻……………岡山放送局から全國へ中繼

赤畑押立て稻の刈取り……………一九〇

先手を打つた小作側……………果然硬化した船穂村作争

満座聲なく、茶道奥儀に陶醉……………一九二一

拜観者の萬眸こゝ、一点に寂！表千家兩宗匠の謹話……………茶祖の靈前に敬  
虔な獻茶式

珍名銘々傳。尖端的な"すゝむ"君……………一九六

岡山縣國勢調査から拾ふ活字屋泣かせや、男の芳江、女の春男

高等小校教育五十周年に際して……………一九六

全國大會出席後、高田利藤治氏の感想

質問漸く核心へ。岡山縣會……………一九九

二中リンチ、林野高女問題……………大野得意の春風駘蕩的質問、A兒島

商業新説歡迎（永山議員）、B林野高女問題真相（三宅議員）、C父兄

からの贈物を教員は頂戴すな（大野議員）

岡山縣會……………二〇二

教育費、社會事業費一讀會終る……………女子師範を倉敷に移轉せよ（古

野野議員）教員宅の準備教育、浮ばれぬ貧乏人（中原議員）

歳入關係その他一讀會を續行……………二〇五

財政の許す限り減税したい（林總務部長答辨）

お雑煮も浮世並に刑務所の正月……………二〇七

千六百餘人におとづれる春……………法の温情に今年は少い未決囚

固い話を抜きに語る郷土の思出……………二〇八

谷壽夫中將、赴任の途展墓に稻倉村へ錦衣歸郷

勸業費目で眞劍味帶ぶ岡山縣會……………二一〇

総休質問を終る岡山縣會……………二二三

サーベル生活廿八年"人情署長"……………二二六

幾多輝やかしき功績のこして引退する、岡山東署の久保警視

愈々高潮に達す縣會……………二二八

警察、衛生費關係……………二二八

時間延長質問戦、傍聽席大人満員……………二二〇

女學校の墮胎で柏木君まくしたてる……………

人事釋明（並川學務部長）……………

警察官の寄附要求は縣民が迷惑（大野君）……………

土木關係に入る……………

産業の滿洲進出問題……………

蠅三百十一萬匹……………

四斗俵にして十一俵……………

富士の高さの九倍……………岡山市兒童の捕獲蠅

通常岡山縣會……………

南海の獵奇 北木島探訪記……………

“嫉妬放火” 遂に無罪の判決……………

懲役五年が、冤罪の主張とほる土居村の男

涙の野宿旅……………

妻に逃げられて歸郷の途……………岡山驛前派出所で溫い情

美容師二百人で明粧の後樂園……………

舊態以上にと泥顔かき落す名後樂園作業

誠意とネバリの前に勞資の握手……………

男をあげた堀部さん……………岡北爭議が解決するまで……………調停委員會を  
組織細目を決定

隣八を縛り寒夜に曝す……………

盗木を賣られた恨から高屋にリンチ事件

國定教科書誤謬指摘の……………

“浦島”の乗つた海亀等は怪物と、清心高女の佐藤教諭

兒童泣かせ難問。ごうかご思ふ集……………

岡山市内中等校の考査問題

國定新色ずり讀本に編輯杜撰の抗議……………

岡山の一指導家から、卷五のラヂオ体操の搜繪を指摘

出所後に備へて獄中で思想善導……………

現在岡山刑務所に三十余名……………色あせた縣下の赤色陣營

勤王志士の遺族が“春わびしき轉身”……………

藤本鐵石の家系繼ぐ多賀さん、四十七で藝妓志願

いま必要なものは官吏よりも金だ……………

岡山縣下各方面の聲は經濟部新設に反對

篤學に輝く文檢裁縫科試験のパス……………

瀬戸高女出身杉本貞子さんの榮譽  
米管理案押潰せ。鼻息荒い岡山勢……………二五一  
當局の五名制限も蹴飛ばし代表五十四名悲壯の上京  
蓮昌寺、國寶へ……………二五二  
世に出る古建築……………鐘樓堂も加へ指定申請  
名人びつくり。末恐ろしい天才兒……………二五二  
細川五段昇格披露棋會に岡山の鈴木少年大奮戦  
種痘の黎明時代を語る貴重な文獻……………二五四  
先覺、難波立憲の筆寫帳發見、……………岡山市史編纂員の手へ  
堂再建に暗躍。捕はれの二鬪將……………二五五  
奇縁、岡山縣出身で然も同窓……………赤色陣營搜話  
岡山縣一の長壽者。百十八媼……………二五七  
福田村の大世帯三島家の"つねさん"……………針も平氣で通す……………吞  
氣に暮すが何よりと語る  
古錢や瓦ご堀出された"古寺"……………二五八  
野谷村に山丘佛教の遺跡平安初期の貴重な出土品

青年の純情に解く「十七年の反目」……………二五九  
地主と小作の對立……………笑を忘れた村に甦る平和、甦生の船穗村鶏尾  
教員病打診……………二六〇  
岡山縣が先鞭の統計研究なる……………強敵は呼吸器病、復職は命取り  
岡山縣下の農業現勢……………二六一  
山ご鬪ふ七十翁。獨力で五町餘……………二六四  
岡山四名所を繋ぐ道……………峻路開拓に黙々と半生捧げた下山治四郎氏  
密漁船狩りの巡査殉職……………二六五  
顛覆して推進機へ……………尻海沖の海上捕物陣  
和氣清麿公一門の古墳……………二六七  
遺跡和氣郡藤野村から續々發掘さる珍らしい遺品  
救はれざる人々を"慈愛の手に"……………二六八  
岡山石井記念事業協會設備完成  
一萬五千人に探る營養の日本主義……………二六九  
まづ排尿で新陣代謝の研究……………倉敷勞研で我國最初の調査



建武忠臣。多田道讚公顯彰……………二七一

自及した菩提寺……松壽寺には苔むす五輪塔

代議士を父に數奇の生立ち……………二七二

兇盜吉岡に絡む人生哀話……“臉の母”戀しさに岡山へ……涙に培はれた惡の華……………二七四

豪快と明朗性に輝く學園“津中”……………二七四

創立四十周年を迎ふ

敗訴の小作人ら大舉裁判所へ……………二七六

怯かされる生活戦線……仕事着でデモの岡南の小作人

天守閣の二階に城主のお部屋……………二七七

聚樂第と同様の築城様式の岡山城

可憐な犯罪動機に傍聽者の涙咬る……………二七八

津山の萬引姉妹に執行猶豫

溫かい主人の心に警察も情の裁き……………二七九

悔悟の拐帶店員を繞つて岡山東署に描く人情劇

草に埋れ百余年。世に出るまさき女……………二八〇

岡山市平井にのこる孝女碑……………濟世會で顯影の迫慕式

厄介者の狂養父を布團蒸して殺害……………二八一

岡山市大黒町の怪死事件……………故意か過失か養子夫婦検事局へ

柔道教師。國家補償金を請求……………二八二

否認の獄舎生活四百十九日、無罪の判決で提出

村の金庫は空つぽ。たゞ働きの教員……………二八三

俸給支拂遅延に惱む縣下十七箇町村

實子、兇器を揮ひ老母殺しの大罪……………二八四

過失死と届出て遂に自白……………久米郡龍山村に謎の慘劇

—附録索引—

昭和十年度岡山縣「明暗日記」……………二八六

岡山縣人名錄(五十音順)……………二九八

觀光の岡山(寫眞版)……………卷頭搜入

## 八ツの時別れた「母と子」

十余年 目に **「感激の再會」**

後から「本當の息子」ご

名乗る男が又一人

(昭和十年一月廿四日掲載)

母と子が八歳のころ生別してこの広い世界に相寄る魂を探し求めること十餘年……遂に真心が神に通じてか昨年八月新聞記事が取持つて福島のある炭坑にゐた息子からの手紙で再會、爾來貧しい暮しではあるが親子水入らずの楽しい明け暮れを送つてゐる處へ忽然「僕が本當の息子である」と名乗る青年が現れ、果し

てごちらが本當の親子であるか、興味百パーセントのうちこの三人の邂逅が廿三日行はれた結果、過去の追憶と左の眼の下の火傷が生證據となつて後の青年が本物の息子と判り以前息子の名乗をあげてゐた青年は赤の他人となつたが、寄邊ない孤獨の身をさうすることも出来ずこゝに三人が改めて親子の盃を交し二

人の青年が兄弟となつて年老へる母に孝養を盡さうといふ珍らしくも奇しき事實物語りがある

本籍岡山縣上道郡高島村現住所津山市安岡町九一中村竹代(五六)さんは夫との間に杉太君と呼ぶ(今年廿一歳位)の男の子があつたが故あつて生別爾來十餘年間**「瞼の子」**としてよる年波に一層の愛着を深めて津山署へ捜査願ひを出すほご一心に探し求めてゐるうち昨年四月一通の手紙が竹代さんの手元へ舞込んだ

「私は生れて間もなく曲馬團に賣られ諸所を流浪

し福岡縣鞍手郡小竹町旭劇場中村雲月といふ俳優を父と呼んで育てられその後九州の某炭坑夫竹下といふ人の養子となり、更に二、三の養父を経て今炭坑稼ぎをしてゐる橋本春雄といふものですが左眼の下に火傷があり、あなたの探してゐられる息子のやうな氣がしてなりません

とあり、その後竹代さんとこの青年との間に暫々手紙の往復が繰返されて愈よ親子らしいことが判り、同年八月春雄 **「青年は遙々」**津山市に竹代さんを訪問、語れば語る程親子のやうな

気がするとて以來安岡町の裏路地土藏の中に同居、春雄君は近所の製材所に通ふて再會の母を養ふてゐた、ところが本月廿一日竹代さんの本籍地上道郡高島村役場へ

私は中村杉太といふものですが五つの時父に死別母の生死も判らぬまゝにまもなく廣島の島津サークス團に身を投じその後各地を轉々として九州宮崎通ひの石炭船の船乗りとなり去年十二月末まで荒くれ男と共に稼いでゐましたが故郷懐しさと歡呼の聲に送られて入營する海兵の勇ましい姿

を見て私も恰度徴兵適齡



寫眞は最初の杉太君(向つて右)と本物の杉太君(左)の母中村竹代さん(圓内)

に相當してゐるらしいから非常時國民としての義務を果さねば氣がすまぬといふ様な氣持から十餘年振りに歸つて來ましたといふ青年が現れた、こゝに於て同村役場で調査したところどうもこの青年が本物の中村杉太君らしい節が多いので一應津山にゐる母親竹代さんに會つてはといふとになり同君の叔父に當る中村要太氏に伴はれて廿三日山陽自動車で來津母子の首實驗となつたのである同日午後一時ごろ安岡町裏路地土藏の中十餘年振りの再會——杉太君は竹代さんを目見るまゝ

ツと薄暗い部屋に泣き伏し後は言葉がない、そしてぼつり／＼語り出される幼い時の追憶は竹代さんの記憶を呼び起して符合を合す如く寸分の隙がなくあきらかに竹代さんが唯一の生證據とする眼の下の火傷の跡が物をいふ多く語るを要せずまさしく十餘年探し求めて居た母子であつた、叔父の要太氏と竹代さんは本當の杉太君をつれて近所へ挨拶廻りをすゝる、近隣の人々はわがことの様子に喜びの言葉を述べに來るといふ始末でつと一度にこの裏路地に 春は

蘇り 他人となつた第一の杉太君に對しても竹代さんは

「本當の杉太が見付かつたがお前も私の子です、ごうか兄弟として仲よく暮しては呉れまいか」

との言葉、これに應へて二人で孝行しますから是非置いて下さい」とせつせと二人の遽か兄弟は仲よく炊事にとりかゝつたが意外の結末と奇しき運命に大きな話題を投じてゐる

哀れ！法廷に立つ

## 八十二の老婆

何時の間にか賣られた

自分の家屋敷を死守

(昭和十年四月二十一日掲載)

目下岡山地方裁判所民事部 二二五番地山本ノブ(八二)の家屋敷がいつの間にか隣家を岡山刑務所差入屋澤田力

三郎の所有として登記されてゐた奇怪な事件の公判が來る五月二日開かれる

この事件の發端は昭和六年八月頃、隣家の澤田力三郎が商賣の都合から前記ノブ方屋敷内に賣店を設けんとしたので不當に思つたノブがその非道を難詰した處「お前の家も屋敷も三年前から俺のものだ」といふ劍もホロ、の澤田の暴言に女と見ての侮辱かと激怒したノブは直ちに大阪で印刷業を営む一人息子の泰三(五一)を呼び寄せ眞偽を調べた處昭和三年三月十三日附で家屋敷が澤田力三郎名義で登記されて居り且つ同月

十八日に澤田が該物件を抵當に一千八百圓を某所より借入してゐる事實が判明し吃驚したが、これは全く前記ノブが兄を盲信して法的手續を怠つてゐたため冷酷な兄明八郎一家に乗ぜられ秘密裡に澤田力三郎に賣却されたものである

老婆……

勝てよ”と

同情集る

即ち事件の遠因は今を去る六十二年の昔、ノブが未だ花恥しき娘時代のこと、祖母が岡山藩主池田侯の御用商人たりし伊達家に四十

數年間女中奉公して貯へた給金で、現岡山刑務所未決監房の在る場所が未だ田畑であつた頃に田地一段三畝と宅地四畝を買つて山本家の世襲地所とした、その當時山本家には三人の兄妹があり長男明八郎は既に山海家の養子となつており、次兄榮三郎は三十三才で夭折したので妹ノブが婿養子を貰つて山本家を相続し一士泰三郎を儲けて現在に至つた當時川岸に偏在してゐた刑務所が明治二十二年に増築擴張を計つて隣接地所の買上をしたが當時山本家所有の地所も土地収容法の適用を受けて買上られたもの

であるが偶々他家に居た兄の明八郎が非道にもマンマと該地所の賣上金を横領着服しその代償として兄が所有してゐた土地に小さな家を建てノブ一家に與へた、これが現在ノブが住んで居る岡山市二日市二二五番地の紛争を醸した問題の家である

兄を盲信して家屋及敷地を登記せずに永住してゐたため兄明八郎の死後山海家の當主一隆が冷酷にもノブに知らさず時價より八百圓も安値の一千二百圓で澤田力三郎に賣却したものであつて、昔の事情を知つてゐる兄明八郎は死して既に亡

き今日、何處に抗議する術もなく目下所有主澤田の家屋土地明け渡し請求に對して登記後三ヶ年間に秘してゐたのはその間の情を知つて故買したものであつて、その際山海一隆と澤田との間に何らかの條件が交附されてゐるものゝ如く

四

### 嵐の襲ふ學園陰

#### 岡山醫大に又疑獄?

#### 赤井藥局長告訴さる

#### 五十萬圓に上る

#### 不正遂に暴露

(昭和十年四月二十八日掲載)

昨年十月勃發せる岡山醫科大學疑獄事件に際して、同大學附屬病院を繞る不正

されてゐたが、圖らずも去る十五日突如元同大學附屬病院藥局勤務岡山縣和氣郡和氣町長谷川芳雄氏によつて同大學藥局長赤井左一郎氏ら一味を岡山檢事局に告訴するに至り、こゝに豫ねてより巷間頻りに喧傳されつゝあつた同大學藥局の大々的不正行爲は遂にその全貌を白日下に曝らし、昨年の同大學疑獄事件によつて起訴され目下保釋出所中の元同大學事務官横田春吉氏並に岡山市紙屋町藥種商林源十郎、岡山藥劑師會長平尾孟、岡山市東中山下齒科醫師辻正子郎らほか三十餘名に對して疑惑が深まると

共に、暴かれた今次事件の成行は獨り同附屬病院の社會的信賴を失墜するのみに止まらず全國的大問題とし



て各方面に大衝動を與へ數百の入院患者を文字通り戦慄させてゐる

(寫眞は赤井藥局長)

### 調劑を巡る

## 奇怪事!

### 患者、色を失ふ

前項—赤井藥局長一味に

絡まる不正行爲は、横領、窃盜、瀆職等々三十數件の多數に上り、目下極秘裡に内偵が進められてゐるがその内容を探聞するに醫局から藥局に送る處方箋に背いて劣悪安價なる和製藥品を調劑し患者からは反對に高貴藥の代金を取り、使はずして倉庫に残つた高價藥は一纏めにして岡山市紙屋町林源十郎藥店に拂下げたり、懇意な醫師に賣つたり、または京都帝大元會計課長(元岡山醫大事務官)横田春吉氏に密送して該地で賣捌かせ互に氣脈を通じて私腹を肥してゐたものである

例へば脚氣に用ふるオリザニン(一ポンド五圓)には醫大自家製のオカベリン(一ポンド一圓二拾錢程度)を代用藥として調劑し、獨乙製アスピリンの處方には十五分の一で買へる劣悪なる和製アスピリンを用ひ、また胃腸病患者に使用するエビオスには藥用酸母を代用するなごその他無慮三十數種類に亘り同一手段で常に劣悪なる藥品を用ひ患者からは高價藥の代金を搾り取つてゐたものである

斯の如き惡辣行爲は大學の附屬病院といふ權威を信賴して日々集る數百の來診患者及多數入院患者の生命線を脅威するのみならず、

五

分秒を争ふ重症患者や、長  
日月を病床に呻吟する難症  
患者に及ぼしたる致命的悪  
影響は想像するだに慄然た  
るほかなく、極論すれば病  
院それ自体が殺人的行爲を  
なすものにして只單に刑法  
上だけの問題でなく人道上  
由々敷重大問題として今や  
怨嗟の的とされてゐる

### 器械購入に

罪悪史を綴る第二の醜事  
實は出入の不良商人と結託  
して、同醫大病院及び同醫  
大出身の各地開業醫が使用  
する醫療器具購の斡旋及び

## 商人と結託

入に介在して不正をなして  
ある事實で、粗悪な中古品  
を新品として周旋し或は市  
價よりも數倍の高價に買入  
れた如く帳簿に不實記載を  
してその間多額の不當利得  
を得てゐたものといはれて  
ゐる

即ち同醫大病院の薬局に  
て使用せる計量器は時價千  
餘圓の最新式計量器として  
同大學庶務課の帳籍に明記  
しあるも事實は時價半額に  
も達せざるマイクロ天秤であ  
り同大學生化學教室に使用  
せるウルトラワローゲンは京  
都島津理化學器械製作所の  
製作にかゝる優秀器具とい  
はれてゐるが實は中古品の

購入であり、また岡山の某  
商人に製作させた〇〇〇器  
械を東京三共製藥會社の製  
品なりと稱して取引の某商  
人と共謀して高價な請求書  
を提示しマンマと多額の利  
益を得たる等々その他凡百  
の機械、器具の購入に當つ  
て種々なる方法で着服せる  
金額は實に數千圓に達する  
ものと見られてゐる

### 巨額に上る

## 不正取引

足の向くところ、手の到  
るところ醜ならざるなきま  
でに腐敗せる同藥局は藥品  
購入に際しても相當の不正

が行はれてゐる模様である  
即ち同藥局が一ヶ年間に  
購入する藥品は約十萬圓に  
してそのうち商人と結託し  
て實際價格より高く見積ら  
れてゐる額は約二萬圓の見  
込である

かつて岡山市紙屋町藥種  
商林源十郎はメチールアル  
ジンサンソーダ一本を六十  
圓で同藥局に納入してゐた  
がその後これが公入札に附  
せられるや一本七圓五十錢  
にて岡山市中之町三宅藥店  
に落札した

一方これに狼狽せる赤井  
藥局長は「こんな安くて  
は庶務に届出ができない」  
と三宅藥店の番頭森下某に

交渉して一本二十圓に書換

へを命じ數百本を納品せし  
め一本につき十二圓合計數  
千圓をインチキしたといは  
れてゐるも林藥店の納入額  
六十圓は一本につき五十二  
圓五十錢の不當代金を支拂  
つてゐたわけで當時行はれ  
てゐた不正取引は巨額に上  
る見込である

尙藥品購入に當つて最も  
疑惑にたへないことは藥局  
長赤井氏の命する入札方法  
で或る店には重曹のみを入  
札してゐるこの奇怪なる  
入札方法は裏面に何物か藏  
されてゐることを想像する  
に容易で、事件の進展と共  
に意外な醜事實が暴露され

るものと見られてゐる

### ぬすんだ藥品を

## 商人に密賣

處方箋を無視して患者に  
劣悪なる安價藥を調劑し代  
金は高貴藥として取り實は  
その高貴藥は藥局の倉庫に  
山と積まれ時期を見計つて  
は林藥店その他に拂下げ醜  
財を蓄積しつつある赤木藥  
局長一味の不正金額は今日  
までに約五十萬圓と目され  
てゐる

即ち元岡山醫大事務官に  
して後京都帝大會計課長に  
榮轉せる横田春吉氏は赤井  
藥局長と氣脈を通じて多量

の藥品を京阪神に賣捌き、  
また福岡縣久留米市某は赤  
井藥局長と懇意なるため開  
業に際して約三千圓に上る  
藥品の密送を受け、岡山市  
西中山下辻齒料醫院長は同  
じく赤井氏と寫真趣味の知  
合である關係から常に麻醉  
藥を市價の半額程度にて買  
受けて居り、同じく岡山市  
内山下岡山市藥劑師會長平  
尾孟はヴァイタミングラム  
瓶を特に製造して貰つて一  
千本を秘密裡に買求めてゐ  
るなごこれら不正取引は實  
に枚舉に遑なく約十餘年間に  
千數百件に達するものと見  
られてゐる

### 豪奢なる

## 私生活！

今回告訴されたる藥局長  
赤井左一郎氏は大阪市西濱  
の出身で大正八年東京帝大  
藥學科を卒業して同年十二  
月千葉醫學專門學校化學教  
授囑託となり大正十一年四  
月一日岡山醫科大學藥局長  
に任命され今日に至つたも  
ので、その間正五位勳三等  
を授けられ先年は文部省よ  
り洋行まで命ぜられるなご  
國家より特別の待遇を受け  
てゐる

然るにも拘らず多數の尊  
貴なる生命の鍵を握る重責

を忘れて徒らに私慾に奔りしかも病床に憫む患者の血を吸ひ肉を喰むが如きこの種不徳行爲は憎みてもなほ餘りあるものとして極度の痛罵を浴びてゐるが仄聞するところによれば氏の私生活は豪奢極まるもので日用調度品の如きも實に善美を盡し一例を挙げれば蓄音機の如きも一臺七百圓の品を二臺まで備へつけてゐるといはれ數年前より近隣の人々より早くも疑惑視されてゐたものである

### 揉み消し

## 運動に狂奔

在任以來十數年の久しきに亘つて毒手を逞しくした

まもなく新婚旅行に夫の郷里土佐へ向けて汽船で旅立つた然るに楽しいホネムーンの歡びに浸つてゐる筈の二人が土佐ゆきの汽船から突然姿を消し、高知へ入港した時には投身自殺したものと決定して船にあつた二人の遺留品のみが哀しく郷里に送り返された、新夫婦がなぜ抱合心中をせねばならなかつたか？ それは遺書も何もないのでハツキリしないしその死体も發見されず大方蟻の餌にでもなつたのであらうとタヅ子の生家では假の葬儀を営み、佛になつたものとして供養をつづけて來た、ところが最

數々の不正醜行が、かつて自分の部下であつた元同大學附屬病院勤務の前記和氣郡和氣町長谷川芳雄氏によつて岡山地方裁判所検事局に告訴を提起されるや赤井藥局長は愕然狼狽し去る二十五日頃より腹心の部下數名に命じて深更に至るまで帳簿の整理をなさしめると共に他方懇意な某藥劑師を以て告訴人長谷川芳雄氏に該告訴の取下げ方を懇願するなき必死となつて悪事隠蔽の裏面工作に狂奔してゐる模様であるが氏の召喚取調は最早不可避にして成行如何は今や異常な注視を受けるに至つた

近大和から來て倉敷方面をも廻つて歸つた藥屋が松原方を訪れた際、話のついでに「倉敷絹織に勤める白神政一といふ者の家で奈良縣磯城郡生れの三十二三になる婦人に會つた、平野村の小學校の話なごするとよく知つてゐるので夫のことをたづねた處高知縣の者といふのみで深くは打明けなかつたが、さうも年齢から話し具合がよく似てゐる」と語つて行つたので甚太郎さんは若しやと喜び早速所轄倉敷署へ保護願を出したものである

×

×

×

十年前に心中した

## 夫婦は生てる？

涙の「娘」の父親から

倉敷署へ奇怪な保護願ひ

(昭和十年一月二十六日掲載)

十年前に投身心中した夫婦がさうも生きてゐるらしいので探してもらひたいとトルストイの名作「生ける屍」を地でゆくやうな保護願が二十四日倉敷警察署に舞込んだ、獵奇味たつぷりな文面なので半信半疑の興味に驅られながら同署では熱心に捜査の歩を進めてゐる

願ひ出たのは奈良縣磯城郡平野村字藥王寺松原甚太郎といふ純朴なお百姓さん、その細々と認めた文面によると

甚太郎の長女タヅ子(當時二十歳)が大正十二年に嫁あつて大阪市北區の某と結婚した、夫は高知縣の者で大阪に養子に來てタヅ子と夫婦になつたのだが結婚後

飄然來て飄然と去つた

## 怪しい一組の夫婦

移牒を受けた倉敷絹織請願石原巡査は「そんな事情ならさうでも正體を探し出してあげよう」と早速會社にも交渉して詳細に調べたが倉敷の工場には心當りがない(職工採用には一々嚴重な身元調査をするので戸籍をごまかすわけには行かない)一方白神政一といふのはゐないが中洲村中島から白神政夫君といふのが工場に通勤してゐるが政夫君方にそんな旅の夫婦が身を寄せた事實もないので一

寸索線を失つた形となつた然るに政夫君の現在ゐる家は元來の借家で政夫君が住はぬ前即ち昨年末頃迄に大和の藥屋が話した夫婦に匹敵する旅の者一組がほんの短期間借りて住つてゐた家主も名前が覺へ出せない程の短い間で、間もなく西阿知方面へ行くといつて出て行つてしまつたといふのだ、で、隣の西阿知町の方まで探したがさうも判らない、たゞ一つの望みはこの飄然と來て飄然と立ち去つ

た一組の夫婦の行方にかけて  
られてゐる

### 岡山一の

## 怪力男

五寸釘鐵板を  
捻切つて平氣

(昭和十年四月廿一日掲載)

五寸釘二本を一度に指先  
で捻切り、厚さ三分、巾三  
寸の鐵板をグル／＼腕に巻  
きつける位はお茶の子、腹  
の上に大人五、六人を乗せ  
たり、二、三十人を積んだ  
トラックを口で引張るとい  
ふキングゴング顔負の怪力  
男が岡山に出現しました  
この怪力男は朝鮮生れの  
朴章鎬君といつて今年二十

五歳の白面の青年ですがこ  
れは單に力量が優れてゐる  
許りでなく岡山拳闘クラブ  
に籍を有するウェルター級  
の拳闘選手です  
同君は朝鮮全羅北道高尙  
郡石谷面生れ、七年前青雲  
の志を抱いて遙々來岡、中



學岡山費に入學して立派に  
卒業したインテリ青年です  
身長五尺六寸五分体重十  
九貫二百匁筋骨の隆々たる  
様は實に見事なもの、最近

朴君の怪腕を知つて各地の  
興行師が盛んに出場を申込  
んで來るが「俺は見世物ぢ  
やないよ」と頑張つて動か  
ない邊り一寸頼母しい限り  
です——(寫眞は朴君)

### 西大寺觀音院

## 内陣參拜

### “女人禁制”

を解く

(昭和十年一月三十日掲載)

天下の偉觀、備前金陵山  
西大寺觀音院の會陽は來る  
二月十七日(舊曆一月十四  
日)の夜に執行されるが觀  
音院では會陽準備始めとさ

れる會陽事始式が恒例によ  
つて舊曆十二月二十四日に  
當る二十八日早晩から内陣  
固、清水方、道具磨頭領、  
寶印、寺内取締ら關係者を  
招致して嚴かに執行し觀音  
院では既に會陽の前奏曲が  
奏じられ初めたが同院の僧  
正敍義算師の名案として本  
年度から西大寺會陽光贊會  
を新設し、この會員に限つ  
て内陣參拜、御福物の拜覽  
御福窓(寶木投下の窓)か  
ら裸群の見物なごを許すこ  
となつた、尙從來内陣參  
拜といふことは同院信者中  
の僅か少數の特別の者のみ  
に限つて許され、女人は一  
切禁制の掟を布かれてゐた

ものであるが今度組織され  
る光贊會は婦人も申込める  
れることになつた

### 蓮昌寺横の空家に

## 怪奇・幽霊の噂

### 怨靈潜む床下を掘り

### 見物人殺倒

(昭和十年二月十七日掲載)

エロ、グロ、テロの3口  
時代に相應はしい怪奇にみ  
ちた淺春夜話——岡山市東  
田町蓮昌寺本堂に居住する  
今様河内山宗俊と自稱する  
奇人三宅九一郎さんが今を  
去る四、五日前蓮昌寺東横  
の家を貸つたところ夜な夜

された九一郎さんが蓮昌寺  
内の不染院の院主を呼んで  
祈禱をして貰ふとその最中  
に突然祈禱者が源吾衛門、  
源吾衛門と呼び出したので  
九一郎さんが「源吾衛門が  
さうした？」と反問すると  
「片岡源吾衛門と申す者で  
す」と續けるので「片岡源  
吾衛門といへば忠臣蔵じや  
ないか」と面白半分にいふ  
と手眞似で腹を切り咽喉部  
を突く様子をして見せたり  
立上つて槍をしごく格好を  
するので、種々と問ひ糺し  
て見ると祈禱者に乗り移つ  
た片岡源吾衛門がボツリボ  
ツリと物語る處によれば……

### 文献に残る

## 切腹の事實

今を去る三百年前、武士  
道華かなりし頃寛永の昔岡  
山池田侯の一門池田長政に  
仕へ主君の身代りとなつて  
切腹したがこの誠忠が主君  
長政に認められず犬死とな  
つて徒らに埋もれ一基の墓  
石さへ建てられない無念か  
ら三百年後の今日まで成佛  
できず床下に住み誰れかに  
この次第を告げたいと思つ  
てこの家に住む者に告げ様  
としてゐるが皆恐れて逃げ  
出すので實は貴殿の様な方  
のお出でになるのをお待ち

してゐた様な譯です……  
と事情を語つたので「では  
お前は何處に居るのだ」と  
九一郎さんが尋ねると彼は  
立上り部屋の隅を指して  
「この下です」といふので  
「じゃあ池田家へ行つて調  
べて見るが嘘じゃないか」  
と聞くと「決して嘘は申し  
ません、ごうか調べて私が  
成佛できる様にして下さい  
」と嘆願したので流石の九  
一郎さんも不思議に思ひ早  
速前記の場所の下を探して  
見るとある一點が濕氣を帶  
びてゐる處から益々好奇心  
を深め池田家へ行つて調べ  
た處亡霊の物語つた通り今  
から三百二年以前の寛永十

年池田長政の臣に片岡源吾  
衛門といふ者が切腹して果  
てゝゐることが明かに記録  
されてゐたので早速例の地  
點を掘り下げてゐる  
九一郎さんのいふところ  
によれば確かに何かが埋  
めれてゐる形跡があるさう  
で一生懸命毎日掘り返して  
ゐるがこのことが附近一帯  
の評判となつて近來にない  
グロテスクな話題を提供し  
毎日見物人が黒山を築いて  
ゐる——

×  
×

## 風水害の

### 尊き犠牲者

井原 巡査に  
功 勞 記 章

(昭和十年一月二十日掲載)

大風水害の尊き犠牲者—  
岡山東署勤務巡査部長伊原  
重三郎(七四)氏に對して  
は曩きに警察官の最高榮譽  
たる内務大臣功勞記章を下  
賜されたが、同巡査が重傷  
のまゝ入院中のためこれが  
傳達式は全快後に行ふこと  
になつてゐたところ、岩上  
警察部長の榮轉と同巡査の  
傷が悪化したため十九日午

前十時突然傳達式を行ふこ  
とになり、多久知事、岩上  
警察部長、湯淺縣警務課長  
久保岡山東署長は同巡査の  
入院してゐる市内弓之町石  
本病院に赴き功勞記章の傳  
達を行ひそれと共に多久知  
事から特別表彰狀に金一封  
を贈つて勞を犒つた

同巡査は年末ごろ退院す  
るまでに傷も治療してゐた  
がその後はかくしくなく  
現在では膝關節が痛み退院  
の見込すらたぬ有様で傳  
達式當日もベッドの上此起  
上ることもできず臥したま  
、これを受け感激の涙を流  
してゐた——

## // 和製リンデー // 事件の

### 怪婦人捕はる

吉備郡  
岡田の

叔母の家へ立寄り

直ちやんは無事

(昭和十年一月十四日掲載)

取調の結果犯人は岡山縣吉  
備郡吳妹村ライオンタクシ  
ー營業三宅靜太妻ふみえ(三  
三五)と判明したので指名  
犯人として手配し廣島、岡  
山兩縣警察部で行方を捜査  
中十三日午後七時ごろ岡山  
縣吉備郡岡田村の彼女の叔  
母に當る丸山とも方に人質  
の直子(三ツ)を伴ふて立



廣島縣蘆品郡新市町に起  
つたリンデー第二世事件を  
地でゆく怪事件は府中署で

ち廻つた處をかねてから張

り込んでゐた同村駐在の三  
宅巡査部長が逮捕し取調の  
上午後十一時三十分總社署  
に連行留置したが同人の自  
白するところによれば橋高  
のため空株を擱まされたの  
に憤慨し、橋高方へ赴き談  
判を試みんとしたが、橋高  
は何時もないであり且つ同  
人妻絹代も隠れて面會を避  
けたのでますます激昂、數  
次出入してゐる關係から直  
子がふみえになつてゐる  
ので人質の意味で連れ去つ  
たものである、なほ二人は  
十四日府中署へ引渡すこと  
になつてゐる

——(寫眞は直チャン)——

## 一千圓の

### 人質!

誘拐犯人三宅ふみえ(三  
五)は原籍岡山縣小田郡美  
川村の者で、岡山縣上房郡  
有漢村教員養成所の出身だ  
が色々の噂があつて教員に  
就職することもできず、今  
より八年前岡山縣小田郡當  
時吉備郡吳妹村ライオンタ  
クシー營業主三宅靜太と關  
係を結び内縁の妻として同  
棲するうちにも、他の男と  
噂もあつて家庭には常に風  
波が絶へなかつた、またふ  
みえは株式にも手を出して  
ゐたが偶々廣島縣蘆品郡新



市の株式賣買業橋高から九百餘圓の損失を被らされたので度々その辨償方を督促したが橋高が言を左右にするので業を煮しかゝる舉に出たもので十二日は岡山縣小田郡矢掛町青物商片山峰

太郎方に直子と共に一泊し十三日別項の如く岡田村の叔母の家に立寄つて捕はれたものであつたが、直子はふみえによくなつてゐるニコニコよく遊んでゐた

人間さながらの

## 母性愛悲劇！

### 犬の血涙哀話

(昭和十年六月三十日掲載)

明暗ただならぬ今日此頃の梅雨空にこれはまた餘りにも相應はしいトビツクー偉勳赫々たる忠犬ハチ公が

見事な剝製となつて再見参し巷の話題を賑はしてゐる折柄今度は自動車に轢殺された仔犬の死を悲んで狂亂

する親犬の人間さながらの母性愛悲劇が傳へられて聞くものゝ涙を絞らせてゐる哀話の主人公は市内二日市吉田唐津店の飼犬マル公で車輪に秘められた彼女(?)の忘れぬ血涙哀話

×

マル公が何回目かの妊娠で玉の様な五匹の仔犬を産み落したのは一昨年の秋であつた

嬉々として乳房に戯れる仔犬の可愛い姿は苦しい陣痛を味つた後のマル公だけにこの上ない歡喜であつたに違ひなかつたらう

一四

母犬の愛の乳房に包まれた五匹の仔犬は日増しに成長して粉雪散る如月頃にはもう母犬を放れて愉快に遊び戯れる様になつて居たけれども悲劇といふものはいつそんな處から萌へて來るかも知れない、或日の夕方けたましましい悲鳴と共に一匹の仔犬が鮮血にまみれて自動車の下敷となつたこの突然の出來事に驚いて眞先に駆けつけたのは母犬のマリ公であつた

恨みは眞に骨髓に徹したのだ!!

子を思ふ

## 親心！

それ以來彼女(?)は附近通行の自動車を見れば直ちに形相を變へて猛然と襲ひ掛り、殆んど車輪と摺れふくになつて吠へ喚めき通行中の運ちやん連を魂消させて居る

しかもこの痛ましき交通禍の犠牲となつた仔犬への愛着の情は日と共に益々激化して昨今では全くの狂亂状態となつてゐる一方流石の運ちやん連も

これには手を焼き種々對策を練つて見たが何を言つても相手は畜生のこと、殊に自動車以外の物に對してはまことに柔順なので始末が

悪く、むしろ此頃では反つてマル公の切々の情に貫ひ泣きする有様だ世にうるはしきは子を思ふ親心である

二千五百圓の債務を

## 月五十錢のなし崩し

支拂ひ完了までに

四百十六年八月かゝる

### 津山區裁の調停裁判

(昭和十年一月廿九日掲載)

債務調停法の精神を極端に發揮した珍らしい調停が津山區裁判所調停部で行はれ一般人をアツと言はせて

小學校で

## 大賭博

長田校の不祥事

(昭和十年一月廿六日掲載)一時に五六十名も集つての賭博開帳は岡山縣下でも

一五

未曾有のことであるが而も神聖なるべき小學校の教室が賭場に使われたといふ全國空前の大不祥事が突發した——所は御津郡長田村同村長田尋常高等小學校の教室で去る廿三日午後十一時ごろ五六十名の男が集つて大賭博を開帳してゐる模様あるを聞知した金川署長田部長派出所平井部長は附近駐在巡查を召集して同教室を包圍、一齊に踏み込んだところ車座の一同は大狼狽し先を争つて窓硝子を壊し乍ら蜘蛛の子を散らすが如く逃走したが漸くそのうち上房郡上有漢村皮立梅吉(五六)同村皮立正一、同文

一、御津郡津賀村北谷爲治長田村森九十郎外三名を逮捕他はこれら八名の取調べにより廿四日朝來續々芋蔓的に引致してゐるが同夜は御津、上房兩郡内の博徒が集つてゐた模様である

### 博徒が

## 勝手に侵入

長田小學校は夜間宿直員もなく従つて博徒が勝手に入り込んだものらしいが恰も廿三日夜金川署長田部長派出所では舊年末の夜警中學校から明りが洩れてくるのを見て近よつて見ると賭博開張中なので直ちに本署

に通知し井上署長以下十數名の署員が急行して包圍し逮捕に努めたところ博徒は大狼狽して逃げ廻り窓硝子をき起した

### 岡山縣下農村の

## 借金の筆頭は地主

一戸平均二千八百四十八圓

(昭和十年一月三十日掲載)

岡山縣經濟更生課では十六負債整理組合における地主小作自作、自小作その他の種類別による借金方面を一戸當り平均について調べたところ  
地主は一般銀行から六百五十圓、農工銀行から二

母子講から二百九十圓その他から八百三十一圓合計二千四十八圓を借金してゐる、つぎに自小作人は一般銀行からはないが農工には百七十八圓、信用組合には二百五十五圓無盡及頼母子講には二百三十八圓その他からは七百四十六圓合計一千四百十七圓を借金し、小作人は一般銀行なく農工から七圓、信用組合から百二十二圓、無盡及頼母子講から百十五圓その他から三百八十一圓合計六百二十五圓を借金してゐる  
半商半農なごの其他は一般銀行から九十五圓、農

工から四十一圓、信用組合から百八圓、無盡及頼母子講から二十九圓その他から五百九十四圓合計八百二十二圓の借金をしてゐる  
といふ有様であつて地主の借金を筆頭に自作、自小作の順序に借金を重ねてゐるがこれは現下の農村の状況を物語る好箇のもので地主が漸次轉落して行つてゐることを證據立てるものである、而してそれらの使途は土地代、教育費、生計費といふ順序であるが特に地主では保證辨償が多く自小作、小作の間では冠婚葬祭費のため借金をしてゐる

の多いのは注目に價するところである  
岡山縣經濟部經濟更生課では農村から借金を撃退して朗かな農村を建設すべく負債整理組合の設立を奨励中であるが、この借金撃退については各地とも農村發展の痛としてかねてからの對策を練つてゐた折柄だけに何れもこれが設立に双手を擧げて賛成し今日までに既に十六組合の設立を見るに至つたので縣では伊藤新任課長の來任を俟つて一層これが擴充に乗出すべく準備中である

× × × × × ×

### 令嬢や夫人に

## 墮胎手術

勝山署の檢舉

(昭和十年一月廿四日掲載)  
數日前、岡山縣眞庭郡津田村字舞高、守廣淳平妻の(四〇)が不審な死をなしたので勝山署で取調の結果同所健次郎妻守廣一代(五七)が墮胎手術を施したのが原因となつて死亡したことが判明したので勝山署では同女を召喚すると共に落合警部補派出所平田警部補が主任となり同派出所管内の巡查を總動員して二十一日以來大活動を開始し墮

胎手術を受けた被疑者を續々本署に連行、二十三日は同署木庭警部補も應援して四十餘名の關係者を連行取調べると共に證據固めに躍氣となつてゐる

これらはいづれも眞庭郡の中南部から苦田、久米御津、上房、岡山、津山の各都市に亘りこゝ二、三年來の者のみでも百餘名に上つてゐるが、これらのうちには良家の夫人令嬢、仲居、富豪の情婦などあらゆる階級に屬し中には生活難から恐るべき罪を犯したのものもある墮胎魔一代は三十年前眞庭郡川東村宇赤野の某墮胎

婆さんから傳受をうけ爾來一回五十錢乃至十圓の謝禮で手術を施しその數も數百名に上つてゐるらしく、その方法も極めて戰慄すべきメスを振つてゐる

### 卅年前の先生を招いて

## 美しい謝恩會

### 感激の涙にむせぶ

東署 佐藤 豊吉 巡查

(昭和十年二月二十一日掲載)

やゝもすれば輕佻浮薄、師弟の恩義なき没却され勝ちな現世に聞くだけに胸のこみあげるやうな師弟美談がある——岡山東署の庶務

原始的なもので、それが原因で死亡した者も多數あり所轄勝山署ではこの弊風を徹底的に芟除すべく檢舉のメスを振つてゐる



學校で十二年間に亘つて教鞭を執つてゐた、その當時今から三十年近くも昔、一年生と四年生の時親しく教へた同町同前豊一郎氏始め同氏と同年の人が今年恰度不惑の四十二の齡を迎へた記念に三十年の昔を想起し當時の佐藤先生今の佐藤巡

西田樓に同巡查を招待して盛大なる謝恩會を開催した何分久し振りの顔のみで當時の教へ子も皆分別盛り成長し或は相當の地位にある人も多かつたが何れも昔の幼時代に歸つて當時を語り遂には感激の極袂をとらへ

て涙にむせぶ者もあり佐藤先生になつた同氏もあつた感激の涙に聲も出なかつたといふ美はしい集ひに一夜を過し記念品を贈つて謝恩の誠を表した

——寫眞は佐藤巡查——

近な處から求め、兒童達の實際生活の中から絶へず活きた修身資料を選んで子供達の實生活を靜かに内省させてゆくことが所謂百の説法よりごんなに効果的であるかといふ點が權威者の間に強調されたのである

### 童心を

## 鞭打つた

受難の憂愁——

朗話の主人公嘉子さんは現在出石小學校の五年生である

刀劍研師を生業とするお父さんの僅かな収入で家族六人の生活を今日まで漸く支へて來たが世智辛い昨今

### 病母を抱いて

## 雄々し！涙の苦闘

——出石校に咲いた可憐な孝養美談——

(昭和十年六月三十日掲載)

曩きに文部當局の手によつて行はれた修身教科書の改訂編纂に當つて特に主力を注がれたのは修身教育の

實際化といふ問題であつた餘りにも抽録的な從來の修身教育をかなぐり棄て、教科書中の例話を今少し手

涙と血で綴られた孝子節婦の苦闘縁が子供達の前途に大きな録明となつて呼びかけるならば修身教育の目

では父の収入は次第に減る一方、嘉子さんの家庭は次第に苦境に陥つていつた

殊に嘉子さんのお母さんは生來の病弱で、持病の喘息で殆んど一年中病床に苦んでゐる有様である

一家の貧困と母の病氣、嘉子さんの家庭に二重にはも三重にも不幸な暗雲が掩ひ被さつて來たのである

慘酷なまでに次々と襲ひかゝつて來る不幸を前にして嘉子さんは決然として奮起した——//よき子//としてまた//よき姉//として……

健氣な嘉子さんは一家の責任を双肩に擔つて朝は五時には起床し病母の介抱か

ら朝飯の支度、弟妹の世話等々と家事一切を一身に引受けて甲斐々々しく立働らるのであつた

病床に悶へ苦しむ病母を見る時、嘉子さんの胸はいつも刻まれる様な苦しさを覺へ、重い足取りで街へ出てゆく父の希望のない後姿を見ては目頭らを熱くする

嘉子さんであつた  
同じ出石校に通ふ二人の弟妹を送り出し病母に挨拶して始めて嘉子さんは「暗い家庭」から解放されるのである

寝不足勝ちな目に朝の太陽は餘りにも眩しかつた、多くの學友が嬉々として遊び戯れる様を見て嘉子さんの小さな胸にはともすれば悲しみがこみ上げて來る……

### 受持先生

### 心の脱帽

を送る

家庭におけるこうした苦しみには、嘉子さんの勉學振りには全く別人の觀がある過度の疲勞に兎もすれば倒れさうになる體をグツと引締めて熱心に先生のお話に聽入る嘉子さんのいちらしい姿を前に受持金谷先生は常に//心の脱帽//を送るのであつた

のかは、嘉子さんの學業成績は常に中以上で特に綴方讀方、修身の三課目は斷然甲である

わけても學友間の信望は極めて厚く學校における嘉子さんは快活そのもの、一少女としてその麗しい心情は常にクラスメートの話題の中心となつてゐる

家にあつては病母の味方となつて炊事一切は勿論のこと洗濯から掃除さては弟妹の世話、病母の介抱と小さな體に背負ひ切れない程の重責を持つ嘉子さんも學校にあつては實によき生徒として熱心に勉學を續けて病床の母をこの上なく喜ば

せてゐる

都會地の子供達が次第に柔順を失つてゆく時にあつて嘉子さんのこの美しい心情はそのまゝ、無言の教訓となつて多數童心にさんなに強く焼付けられてゆくことであらう——

### 岡山の

### 内鮮融和

衛生的な朝鮮村

(昭和十年二月廿八日掲載)  
岡山市山陽線旭川鐵橋附近から後榮園附近までの旭川堤防に數年前から朝鮮出身の勞働者が小屋掛を拵へて生活し彼等は主として砂

利取人夫をしてゐるがその家屋の見苦しいのと非衛生的なところからこれが立退き乃至改造が叫ばれてゐた折柄内鮮博愛會の暫丑性氏らの奔走で昨年八月以來縣補助二千圓と曹氏が二千圓を投げ出して舊岡山費前に敷地を選定し彼等の住宅建築を計劃したが九月の大洪水で一時中止となり、その後再び着工しこの程竣工したので廿七日社會課から係員出張検査を行ひ愈よ三月一日附近に假住の鮮人勞働者を收容することになつた、この住宅は二階建、半洋風で全部で八軒、各戸に玄關の三疊と六疊の日本間

### 親子の對面叶ふか

### 瞼の父を探す壯丁

(津山市役所へ眞情籠る問合せ) —— (昭和十年二月二十二日掲載)

津山市役所戸籍係へ二十一日福岡縣直方市明神町五二番地黒瀬吉太郎方大上時士といふ人から

私は幼い時父に生き別れ母と共に九州の各地を轉々してゐるうち昭和七年八月七日柱と頼む母とも

死別し現在のところ働いてゐますが、徴兵適齢となつたので検査を受けましたところ甲種合格、この三月戦車隊へ入營することになりました、しかしこの年になるまで、しかも非常時日本を護る一兵士になつても土地は作州津山といふことを母から聞いてゐるのみで本籍が何處にあるのか判らぬやうでは困りますし幼い時別れた父が懐しくてな

らりませんので何卒探して下さい  
といふまだ見ぬ郷里を懐しみ、暇の父を探す真情熱烈なる手紙が舞ひ込んだ、

同役所では早速戸籍簿を調査したところ同人は市内二宮大上はるの私生子として生れ父親の所在は目下不明であるが伯父に大上元助といふ人があり同人について極力調査、是非とも親子の對面が叶ふやう取計らうことになつた

### 一時間に

## 五人生る

岡山縣下昨年的人口動態

岡山縣總務部統計課ではかねて昭和九年中における縣下の人口動態調べを急い

でゐたところ七日午後四時すぎ漸く纏まつたがそれによると同年中に結婚した組数は一万一千二十二組、離婚九百九十四組であつて出生は四万一千三百八十一人、死亡は二万七千六百八十四人である死産は二千百三十一名で出生から死産を引いた残る一万三千六百九十七人は全く縣の人口増加となるわけであるがこれは恰度笠岡町の現人口と稍々同數である、これを八年に比較すると出生では四千二百六十七人、死亡では百六十三人の何れも減である、出生數は四万五千六百四十八人とあるから結局岡山縣では

一時間に五人強を毎日生んでゐるわけだ

## 電燈検査員に威しの拳銃

三發を發射

(昭和十年二月廿七日掲載)  
中國電氣株式會社岡山營業所和氣出張所の電工岡山縣和氣郡藤野村大字藤野七七八白重弘(三一)本莊村衣笠九〇二井上登(二四)の兩名は電燈調査のため二十五日午後七時ごろ同郡英保村南方農瀧川善七(四八)方を檢燈すると十燭光に延長器を附着し座敷八疊の間

に二十五燭光の電燈を盗用しなほ二階の休燈の分にも點燈してゐることを突き止め増燈を申込んでことを穩便に解決しようと折衝中口論となり善七はいきなり前記弘の左頬部を毆打し揉み合つてゐるうち善七は突如ブローニング八連發(實彈三發裝填)の拳銃を持出しこれを突きつけたので兩名は屋外に飛出したところ後方で俄然三發を發砲した、急報により所轄和氣署より浦上、石村、池田各巡查が現場に急行、證據品として右拳銃および實彈等を押收善七を同署に連行引續き取調中であるが善七はかつて

阪神地方及滿洲地方でクレ一事業を經營し相當成功を収めて歸郷、裕福な生活をしてゐたもので右所得してゐた拳銃も同人が渡滿の際その筋の許可を得て購入し

たもので實彈四十發を保管し前記三發を拳銃に裝填してゐたもので電工を單に威嚇するつもりであつたが興奮の餘り遂に發砲したものである

### 津山市疑獄が生んだ

## 小學生の友愛美談

父の罪知らず、母なき家庭

淋しく暮す二少年に瀝ぐ同情

(昭和十年二月十九日掲載)

津山市の上水道敷設、新市廳舎建築に絡まる疑獄事件は津山市空前の不祥事として市民に大衝動を與へて

あるが、この疑獄事件が生んだ涙ぐましい友愛美談がある——津山市田町、津山市戸籍主任尾崎俊次郎氏は

今回の不正事件に連座し、目下岡山刑務所に收容されてゐるが、同氏の家庭には長男増男君(一二)——津山男子校尋常五年生——と弟の道男君(七ツ)の二兒があり、母のない家庭に淋しく暮してゐたもので、一月三十日尾崎氏が突如縣刑事課に連行されて以來二人は父の收容も知らず、その歸る日を只管待ち侘びてゐる様は傍で見る目も哀れな有様だつたが増男君のあまりにも痛々しい窮狀を見かねた受持訓導平井茂水氏は同君の家庭を數回訪れて金品を贈つて慰めてゐたが、平井訓導の美譽と増男少年の氣

の毒な境遇を知つた同級生八名は相談して金三圓を醸金、その上家庭から米、味噌、醤油、大根などの日用品を貰ひ集め十七日も増男少年を訪問この数々の同情品を贈り、心から慰め激励

して、池上男子校長をして感激せしめた、またこの佳話を耳にした小沼津山市長も大いに同情し父の罪も知らずその歸りを待ち侘びてゐる兩少年の救済に乗出すことになつた

### 慰問が――

## 取持つた縁

――(急テムボの結婚式)――

(昭和十年二月十四日掲載)

慰問袋が結んだ縁――岡山縣都窪郡早島町田中隆君――假名一は曩きに第二十師團龍山歩兵隊に入隊、昭和

八年から九年にかけて滿洲國境警備の重任についてゐるうち内地から届けられた將兵への慰問袋、そのなか

ら田中君が手にしたのは鹿兒島縣鹿兒島郡谷山町川崎由紀子一假名一さんからのそれであつた、純情の乙女の贈物に心時めく田中君は早速由紀子さん宛にお禮の手紙を差出したことは云ふまでもない、度々文通してゐる二人の間には面識はな

### 躍動する

## 筋肉美

裸・裸・裸

(昭和十年二月十八日掲載)

天下の壯觀、備前西大寺觀音院の會陽は舊曆十四日の十七日いとも盛大に取行はれた、絶好の會陽日和に惠まれて遠近各地から西大

寺へ、觀音院へと押し寄せる善男善女は汽車で、バスで、徒歩で潮の如く流れ込む、夕暮迫ると共にいづこともなく現はれる裸群は三人、五人多きは數十名が一團となり白の禪に鉢巻きり

と締めてワツシヨノの掛聲勇ましく觀音院境内へ集まる、四本柱を中心にもみ合ふ裸群は次第に數を加へ、吉井川の清流に身を潔めてはまた肉弾戦に加はる

かくて定刻、數千の裸群が二本の實木を争奪する壯觀は數百年の傳統に輝くこゝ、觀音院ならではの見られぬ天下の奇觀、壯觀、絶觀である本堂東手の鐘樓に出張し

たK・Kからは小此木アナウンサーによつて午後八時五十五分から全國に放送されワツシヨノの聲は電波に乗つて全日本の夜空を震

### 九十歳以上の高齢者

## 岡山縣に二百四十人

――筆頭は浅口郡次いで小田郡――

(昭和十年二月二十六日掲載)

岡山縣秘書課では九十歳以上の高齢者に對し畏くも皇太后陛下から敬老の御思召によつて眞綿一包宛を御下賜あらせらるゝことになつたのでかねて各市町村に

調査を發し調査中のところ全部纏つたので二十五日發表をしたがそれによると縣下における九十歳以上の高齢者は苦田郡泉村友保へん(一〇二)邑久郡笠加村入江

もり(一〇四)浅口玉島町麻原春(一〇三)の三人で何れもお婆さんばかりで占められてゐる、高齢者の最も多いのは浅口郡の四十六人で次は小田郡の四十四人、第三位は兒島郡の三十五人、第四位は邑久郡の二十二人と

齢八十二才となつてゐるこ  
とが明かとなり御下賜品拜  
受資格も失格するに至つた

### 岡山醫大事務官ら

## 三名の公金横領

### 豫算分取の醜裏面

(昭和十年二月廿三日掲載)

〔本日記事解禁〕岡山検査局が昨年五月検査に着手した岡山醫大疑獄事件は去る一月中旬先づ豫審終結した岡山市國富文部省建築課岡山出張所主任技手菱木常吉(五〇)ら七名の岡山醫大關係建築工事に絡まる贈收賄事實の取調べから更に別

んぎ全国的に新聞記事の掲載を禁止して取調べを續行してゐたが、今廿二日午後一時を期して豫審終結と同時に記事差止を解除した

業務横領、詐欺、背任

本籍 福岡縣三猪郡川

口村

當時 京都市上京區小

山大野町二三

前京都帝大會計課長

横田春吉(三八)

業務横領、背任

本籍 靜岡縣小笠郡南

郷村

當時 岡山市國富一六

休職岡山醫大事務官

中山孝一(四〇)

業務横領、背任

本籍 岡山縣久米郡大

井西村

當時 岡山市内田

休職 岡山醫大會計課首

席書記

福島種次郎(四六)

横田事務官

## 積善會から

壹万圓横領

事件の内容は

横田氏は大正十五年四月岡山醫大事務官に着任、昭和七年二月京都帝大會計課長に轉じ、中山氏は横田氏の後任として検査當時まで同事務官、また福島氏は同會計課首席書

記として横田、中山兩氏とも同醫大の庶務、會計技術關係並に附屬病院事務を執掌中、横田氏は昭和三年四月から同六年十二月までの間に數十回に亘り福島氏と共に自己が理事長たる大學内財團法人積善會の公金一萬圓を横領しその穴埋めに苦慮した結果昭和六年七月着工の學生寄宿舎建築に際し設計、現場監督の任にあつた菱木と共に謀、不良材料使用などの設計變更によつて請負人の野崎正秀をして總工費一萬九千四百四十圓中から三千圓を捻出させてこれを領得し

たほか昭和五年十二月産婦人科病室建築工事に請負人の森田福市が建設した現場監督設所の建物一棟をその後大學に無償寄附して大學事務所に供してゐたものを、これまた菱木と共に謀、野崎をして請負はしめたもの、如く装うて改めてこれが請負金一千六百八十一圓を大學から請求させそのま自ら領得

中山事務官

## 請負人から

三千圓收受  
中山氏は前任の横田氏と同様手段で昭和七年三月か

ら同九年五月までに數十回に亘り積善會の金四千圓を福島と共に謀して横領したほか

昭和七年十二月菱木、福島らと共同の負債五千圓の辨償のため同大學風水害復舊工事費實額九千九百十六圓を請負人の松本

吉平をして一萬二千九百十六圓に不當見積させて差額三千圓を提供させこれを預得したものであるが  
不正の金の殆んぎは本省屬官の東京、岡山等における歡待、饗應等に散逸されてゐると

### 蛇軍襲撃に

## 必死の防護策

### 人騒がせな蛇屋敷

(昭和十年五月十九日掲載)

新緑の五月にこれは亦餘りにも獵奇的な蛇屋敷の話  
近代都市として燦然たる文化を誇る大岡山の眞只

中に怪談もごきの蛇屋敷が實在するといふ噂が最近バツと擴がつて街の話題を賑してゐる

しかもこの話題の本據が歡樂境をツイ目と鼻に控へた市内東田町の蓮昌寺附近だとのことで騒ぎは一層擴大するわけである

二昔前頃までは岸に並んだ柳の大樹と名物鱈汁で鳴らした昔戀しい柳川も今では全くその面影を失つて徒らに都塵の蹂躪に委ねられてゐる

従つてこの附近一帯に棲息してゐた多數の蛇群も文化の流れに押されていづこともなく影を沒した

安息の地を求めて移住する蛇群が必然格好の地として選んだのが蓮昌寺界隈の草地であつたのも無理はないかくて彼等はゾロゾロと文字通り長蛇の列をなしてこの邊り一帯へ蟠集していつた、遠い昔のこうした因果が禍ひして今度の騒ぎが持上つたのだから随分人を喰つた話である

境内を東へ抜けた隣接地域に「つたや」といふ小粹な料亭があり、すぐそれに連つて黒正別邸と門標を打つた宏壯な邸宅があるが噂の中心はさうやら此處らにあるらしい

粹な軒燈に打水までした

柳暗花明の奥座敷や豪華を誇るブルジョア邸を根城にする處なんか近頃の蛇君も一寸贅澤だ

天井裏、床下、庭先さては座敷にまで這ひ出して、蛇群の亂入には「つたや」の女將も全く頭痛鉢巻、殊に黒正別邸の宏大な庭園なご彼等に執つては全くのお

詭へ向の地帯で長さ三尺以上の氣味悪い奴がゾロゾロ這ひ廻つて石燈籠なぎに絡みつき庭掃除の女中に悲鳴を擧げさせるなご飛んだ悲喜劇が演ぜられてゐる

出來ようとの話

これはズツと以前の事であるが、かつて天瀬の佐藤質店が永年住馴れた家を取潰した折にも數百匹の蛇軍が現れ人夫達を魂消させた例もあるのだから滿更嘘と許り笑つてもゐられまい、文明の今日全く嘘の様な實話である

陰鬱な夜空の下に暴威を揮ふこれら多數のギヤングを前に附近の人々は色々防護策を練つてゐる

五月の宵を騒がせたグロテスク異變—蛇軍襲撃はさてどこまで進展するか??

X X X

### 西阿知町に

## 將棋の天才

十三才で初段

(昭和十年二月十三日掲載)

岡山縣淺口郡西阿知町大山護氏長男康晴(一二)君は七、八歳の頃から將棋を覚え初め現在では實力初段以上、天才兒として將來を囑望されてゐるが今春義務教育を終了すると同時に大阪の木見八段(倉敷市出身)の門に入り指導を受けることとなつたので西阿知町有志間では大山後援會を組織し十四日同所合同運送店で盛大な送別將棋大會を開き康晴君の前途を祝福後援することに決定した

### 昨年中の火事

## 六百四件

年末の記録を破る

(昭和十年二月廿三日掲載)

岡山縣保安課の調査による昨年中(昭和九年)の縣下の火災は六百四件に上りこれが損害見積額百二十五万六千餘圓に上り、數年來の記録を破つてゐることに昭和五年以來の統計を掲げて見ると

年	件數	損害額 (單位千圓)
五年	四七〇	七四二
六年	四九〇	四八七
七年	四七四	四七三
八年	五二七	七七九
九年	六〇四	一二五九

即ち件數に於て例年より約百件、損害見積額は約五十万圓増加してゐる次に昨年中の火災を原因別に見ると六百四件中放火が四十二件

失火が五百二十件、不審火が三十七件あり、その他に雷によるもの等が五件あつた、また月別に見ると一月

中に五十九件、二月が六十

九件、三月七十七件、四月七十五件と春先に至るに従つて増加しそれから又漸減して七月には二十八件九月は二十七件になつてゐるが十月以後又増加して十月三十二件、十一月三十六件、十二月五十一件になつてゐる、これによると火事は冬期が多く夏は少いといふのが常識であるが冬よりも三四の春先が一番多かつたことになる

### 市内の流患

## 一萬突破

(昭和十年二月十二日掲載)



こゝ數日來の氣候の激變を獎勵してゐる一方市衛生課でも各家庭に豫防方法の徹底について注意を喚起することゝなつた、なほ本年の流感は氣候の變化に基くもので感染力は弱く性狀も悪性ではないが一般の注意を要望されてゐる――

### 岡山赤十字病院に凱歌

## 忽然消へた

二千圓のラジウム

科學の驚異

驗電機の威力で發見

(昭和十年七月廿八日掲載)

岡山赤十字病院秘藏の時ムが去る十二日取扱中の一千圓也の治療用ラジウム看護婦のフトした不注意か

ら忽然として姿を消した、モナ、リザの失踪ならぬラジウム氏のこの飛んだ雲隠れは同病院に俄然大きな騒動を捲起したが、そこはお手の物の現代科學陣が時を移さず總動員されて探偵小説をつくりの大捜査が開始された、前後七日間、血道を上げての大捜査は驗電機の驚異的威力によつて見事奏功し、探し求めたラジウムを前にして赤十字病院にワツと歡聲が擧つたといふ珍事件――

去る十二日岡山赤十字病院で入院患者に對して治療用ラジウム針(時價二千圓)を使用中、さうした機みか取扱中の看護婦がガーゼに包んでゐたラジウムを見失つてしまつた

驚いた右看護婦は早速かくと係員に急報し色を失つて百方手をつくして見たが見當らず困惑してゐた處、かつて岡山醫大附屬病院で同様のラジウム紛失事件が起つた際、汚物を焼却する焼却爐中の澤山の燒滓灰等を熱心に検査した處ある部分に僅か許りの反應が感ぜられるので一同雀躍りして喜び、捜査の主力を此處に集中したが何分多量の燒滓の事とて容易に見當らず、次第に撲別して反應の強い部分を殘して漸次に捜査範

圍を縮少し遂に盃一杯程の最も反應の強度な燒滓抽出に成功した、だが折角抽出した盃一杯程度の灰を徹底的に肉眼で探したにも拘らずラジウムを發見することができず、遂には//驗電機信するに足らず//といふ悲觀説まで持上つてラジウム捜査の前途に一抹の暗鬱を投げかけたが從來の經驗から見て驗電機の性能を疑ふわけにも行かず、一同勇を鼓して更に一つ一つの燒屑を注意して見た處ラジウムの針を包んであつた銀のケースが熔けて黒くなつてゐるのを發見したので尙も捜査を續けてゐると遂にコー

クスの屑と殆んど判別のかぬ程黒くなつたラジウム針と思はれる物を探し當て驗電機で檢べた處まがふ方なくラジウムであることが判明、一同科學の力の偉大さに今更乍ら驚嘆、期せずして歡呼の聲を擧げた、然も發見されたラジウムは燒却爐の高熱にも影響を受けず赤十字病院では直ちに元通り使用して一ミリグラム百圓也の眞價を發揮して萬丈の氣焰を吐いてゐる

空にはロケット、地には流線型、現代科學の大自然克服の觸手はさて何處まで伸ばされることか??

### 西大寺高女講堂

ステージ墜落

## 八十餘名負傷の慘

校内は阿鼻叫喚

(昭和十年二月二十二日掲載)

二十一日午前九時二十分ごろ岡山縣上道郡西大寺町岡山縣西大寺高等女學校の講堂で來る三月三日の文藝會の豫習を三年生のイ、ロハの各組全部の生徒百五十名を集め音楽教諭宮武多賀治氏が練習のためステージに全生徒を並べ合唱に移らんとした刹那突然大音響と共に同ステージが墜落、そ

のうち約百名は雪崩れを打つて階下の研究科教室の教壇に落ちたので物音に驚いて駆けつけた教諭達の手によつて同町藤原、浮田、原青山、中藤、木畑、渡邊の七醫師の手で各教容に收容手當を行つてゐるが判明した負傷者は岡山縣邑久郡今城村蟻正克子が人事不省に陥り重傷を負ふた外約五十

名はそれ〴〵治療一週間内  
外の傷を負つ三十数名の輕  
傷者を出した

### 風水害で

## 繼目緩む

事件をひき起した西大寺  
高女講堂は大正十五年工費  
四萬六千圓をもつて縣土木  
課營繕係小林、大森兩技手  
が監督して工事を進め昭和  
二年完成したものである、  
縦十四間、横八間で天井と  
ステーヂの間には縦二尺二  
寸横一尺の四角な梁が通し  
てあり、その繼目には二本  
のボールドで締てあつた、  
階下は研究科特別教室、五

年生教室になつてゐた、昨  
年九月には同地青年團千名  
が体操をしたことがあるが  
何等異状なかつたのでその  
後風水害が繼目が緩んだか  
或は白蟻のため腐蝕した、  
めではないかと縣土木課で

は語つてゐる  
宮地同校長は顔色蒼ざめ  
狼狽しながら  
大變なことが出来まして  
何んとも皆様に申譯があ  
りませぬ  
と多くを語らなかつた

ミセス・エリザベトとの  
仲は岡山醫學界にあまりに  
も有名だ

氏はまた〴〵博士號のない  
博士〴〵として滿天下〴〵異名  
を謳はれてゐるといふ變り  
種で、學位賣買なんて忌は  
しい事件が續出してゐるけ  
ふこの頃の醫學界にあつて  
ごこまでも一介の學徒とし  
て満足し、名譽慾なき朗ら  
かに蹴飛ばして「君イ、博  
士なつたにからつて一体ご  
れだけの利益があるんだ、  
僕は生來さうも無性で不可  
んよ、學位論文の様な面倒  
なことは眞平御免だ！」と  
空嘯いてすきなエア・シツ  
プの輪を吹かすといつた調

## 「結ばれた戀 縁は異なもの味なもの」 岡山醫大林教授の 國際愛ローマンス

（昭和十年十月六日掲載）  
國境を越へて結ばれたう  
るはしの國際愛ローマンス  
林道倫氏と〴〵碧眼マダム〴〵

子だから一寸人間放れがし  
てゐる同氏は生粹の江戸ツ  
子で東大醫學部卒業後は同  
大學の精神科に立籠り、傍  
ら松澤病院に勤務して大い  
に研鑽を積み、大正十一年  
一月留學を志して遙々萬里  
の波濤を越へて醫學の本場  
獨逸へ乗出したのである  
爾後二年半に亘るハンブ  
ルグ生活こそ氏にとつては  
好ましき數々の傑出の種と  
なつてゐる  
マロニエ茂る首都伯林の  
街頭で現エリザベト夫人  
と奇しき邂逅をしたのも矢  
張その頃の〴〵絢爛たる思出  
話〴〵である  
記「失禮ですが、奥様は今

おいかつてせうか？」  
と無遠慮な質問をすれば  
教「三十二歳だよ、僕はウ  
ンと上で五十一だ」  
とキツパリした打明け話  
記「先生とミセス・エリザ  
ベトは最初ごんな機會  
でお知合になつたのです  
か」  
と國際愛ローマンスの急所  
に觸れれば、流石の教授も  
心なしか一寸顔を赫らめて  
教「別にないよ、君あまり  
苛めるな、こゝらで和協  
しようじゃないか」  
と逃げるところを、すかさ  
ず  
記「では誰かの媒介ですか」  
と追撃すれば

教「君イ、西洋に媒介はな  
いよ、勿論僕らの場合だ  
つて……」  
とツイ口を割つて、後は  
教「ワツハ、ハ、ハ、」  
と意味シンの爆笑でカモフ  
ラージュするあたり、教授  
も相當な曲者だ  
〴〵  
〴〵縁は異なもの味なもの〴〵  
異郷に遙々「醫學ニッポン」  
を背負つて研鑽を勵む學徒  
と清純白百合にも似て美し  
き伯林娘との戀の花は、そ  
の後立派に實を結んで今年  
の正月には早くもミドリさ  
んといふ可愛い嬢ちやが儲  
けられて、教授夫妻を喜ば  
せてゐる

エリザベト夫人も今で  
は全く日本の生活に馴れ切  
つて和服にフェルト草履、  
食事も殆んど日本食で押通  
すといふ有様で純然たる  
〴〵ニッポン黨〴〵を發揮して  
國際愛有終の美を結んでゐ  
る――

## 感心な 少女

（昭和十年三月卅一日掲載）  
南兒莊内に咲いた香ぐは  
しき學園美談――岡山縣兒  
島郡莊内小學校尋常科本年  
度卒業兒童近藤美恵子さん  
（一四）は四歳の時父に死別

し、ついで母に去られ祖母  
マスさん(七〇)の老の手一  
つに育てられたが、またも  
小學校尋常一年生に入學の  
頃から親と頼む祖母が中風  
を病んで起居の自由を失ふ  
や同女は健氣にも老祖母を  
看護しながら爾來六年間學  
習を続け今回漸く同科卒業

### 平和な果樹園で

## 邪戀の 人妻 血たるま

—愛妻を寝取られた

四十男の情痴兇及—  
(昭和十年九月廿九日掲載)

血肉を分けた弟に、最愛  
の妻を寝取られたと邪推し  
た揚句遂に愛妻殺害の意を

島の兄から仕送つてくる毎  
月幾何かの金で漸く生活を  
續けるといふ有様で彼自身  
は相變らず無能力者として  
村民から嘲笑されてゐた  
處へもつて來て物好きに  
も彼に嫁を世話しようとい  
ふ話が持上つて、昭和六年  
四月結婚したのが現在の妻  
シゲ子(二九)である  
三十七歳であつた當時ま  
で女心の温さを未だ味はつ  
たことになかつた彼に執つ  
てこれはまた大きな歡喜で  
あつたに違ひない

### 同情が

## 戀 に

遂に越へた一線  
それからの毎治夫婦は傍

の喜びを得たが、學業の成  
績は良好で一年生以來優等  
を續け老祖母への孝養と共  
に一般の模範とするに足る  
ものとして今回同校卒業式  
に際し同校獎學會から同女  
を表彰してその善行を讃へ  
た—

決し、剃刀を片手に平和な  
果樹園を血で染めた都窪郡  
菅生村農宇野每治(四一)に  
かゝる殺人未遂事件の公判  
が去る二十三日岡山地方裁  
判所小林裁判長係りで開廷  
され脱線だらけの流線型//  
桃色及傷事件//の全貌をぶ  
ち撒けて多數傍聽者を顔負  
けさせた—

郡菅生村淺原の實家を飛出  
し神戸、大阪方面を行商人  
として轉々流浪の旅を續け  
てゐたが、商才のない彼に  
とつてあまり芳ばしい結果  
が得られよう筈がなく、遂  
に失敗して郷里菅生村に舞  
戻つたのが昭和三年の春で  
あつた

情痴の兇及を揮つて邪戀  
の愛妻を殺害せんとして果  
さず、殺人未遂といふ忌は  
しい罪名を被せられて裁き  
の庭に立つた被告宇野每治  
を中心としたこれは//狂つ  
た一頁//である—生來薄  
馬鹿の被告每治は青年時代  
から早くも郷里である都窪

で見られるも羨ましい程圓滿  
でもなく二人の子供まで  
儲ける間柄となり文字通り  
「狭い乍らも楽しいわが家」  
といふ團欒ぶりで明け暮れ  
の果樹園生活を樂んでゐた

「兄さん久し振りですな  
あ」或る日こういつて訪ね  
て來た男がある、彼には忘  
れることのできないたつた  
一人の日蔭者の弟増夫(三  
九)が刑期六年といふ勤め  
を了へて懐かしい兄每治を  
訪ねて來たのである、彼は  
窃盜累犯といふ罪名で六年  
といふ永い間岡山刑務所で  
呻吟し本年四月十三日釋放  
と共に菅生の兄を頼つて一

先づ厄介になる事になつた  
裁「増夫が來てからは果樹  
園の仕事は殆んど同人と  
お前の妻が引受けてやつ  
てゐたのだね」

被「左様です」  
裁「お前は一体何をして居  
たのだ」  
と問返せば  
被「飯焚や、子供の守をし  
てゐました」  
と洒々としてノントウ振り  
を發揮して滿廷を失笑させ  
た後、愈よ増夫と妻シゲ子  
とが情交關係を結ぶに至つ  
た本筋に入る  
肉身相喰む  
邪戀の 火遊び

果樹園で共に働らくやう

になつてから彼の妻シゲ子  
と増夫の間は次第に接近し  
ていつた、肉身相喰む邪戀  
の火遊びは青白い業火とな  
つて二人の理性を焼きつく  
しあらぬ噂まで立つて近所  
の話題を賑すやうになつて  
來た

裁「二人の情交關係は單な  
噂ではなかつたのか」  
被「滅相もない、大分しと  
つたらしいのです」  
と大真面目に答へた後  
裁「現場を見たことがある  
か」  
被「女房が増夫の首へ抱き  
ついてゐたところを確か  
に見ました、さうも變で  
したから狸寝入りで見

ゐたら足をチャンと組合せて……」  
と際しい處まで陳述して流石の裁判長を苦笑させる  
裁「果樹園でも屢々變なことをしてゐたのか」  
被「さうです、日蔭者だと

思つて辛抱しておれば、山にゆくのまで一緒です  
私は子守ばかりさせられて、殆んど一日留守居です」  
とゼスチュアよろしく愁嘆場を見せ満廷を失笑さす

### 夜陰の墓地で

## 女房肅正祈願

——(薄のろ男の脱線陳述)——

けふは八月十二日である  
「盆禮に行つてくるから」と言殘して弟と共に早朝家を出た女房が夜に入つても歸つて來ない、乳呑兒を抱へて今日も亭主毎治は一人

淋しく留守番であつた  
十二時近くなつても歸らないので彼は愛妻の身を心配して同村籠池の邊りまで態々出迎へに行つた  
裁「結局女房が歸つたのは

十二時過ぎだつたか」  
被「左様です」  
裁「女房を叱つたか」  
被「私が叱られました、帯を解いてやらうといつても肩を揉んでやらうといつても一言の返事も致しませんので私は情なく思つて……」  
と女房が喧しいのでいつそ死んでしまへと裏の溜池へ乳呑兒を抱いて急いだが弟に止められ、今度は裏山の道通神社に參詣して「不運な私をお救い下さい」と念じたがこれも弟に發見されて家へ連れ戻されたが、またも今度は墓地で大聲を擧げてお祓を上げ、女房の氣

嫌が直る様に、と祈念した  
なご他愛もない一場面を身振り手振りで示し乍ら陳述して裁判長を魂消さす  
裁「それからお前が愈よ決心して家出をしたのは事實か」  
被「出るといへば女房が止めて呉れると思つたのですが……」  
と未練タツプリーな打明話をした後  
被「私は全く夢中で表へ飛出し村山といふ居酒屋で焼酎を二合引つかけて更に同村の宮原トメ方で酒を一合一息に呑み、家へ歸つたところがまた、女房が口汚く罵るのでッ

イ嚇ツとなつて自宅の膳棚にあつた剃刀で女房に斬りかゝりました  
裁「女房が逃出したのでお前はなほも執拗に追跡して遂に一町許り先の田圃道で女房を祖伏せ一突きに殺さうとする處を近所の人に止められたといふがこの點さうか」  
と追究すれば  
被「さうでせう」  
と他人ごとのやうに空嘯いて横を向くので  
裁「この點はさうだね」と勵聲一番すれば  
被「ハッキリ覺へませんがと犯意を否認する  
裁「殺す考へからやつたの

だらう」  
被「脅かす心算でしたが、ついあんなことになりましてまことに申譯ありません」  
裁「さうだ今では圓滿にやつてゐるか」

被「それはもう、至つて仲よくしてゐます」  
と結んで愈よ審理を終り、ついで檢事の論告に入つた  
が立會吾野檢事は「殺意は充分だ」と峻烈に論じて懲役三年を求刑した

### 嚴格な父を

## 毒殺した青年

流石肉親の情に蘇り

法廷でよゝ泣く

(昭和十年三月廿八日掲載)

家庭愛の貧困がまねいた人生悲劇——  
女給の誘惑に陥落し、遂に戀に盲いて小學校長上りの愛に見はなされた一少年が

嚴格な實父を毒殺した尊屬

殺人事件の公判が廿七日午前岡山地方裁判所小林裁判長係り八廣檢事、山村辯護人列席で開廷された  
被告は岡山縣後月郡明治村農、佐田竹光(二八)で土地の小學校、公民學校とも成績操行優良であつたが昨年から同郡井原町驛前カフエー・ライオン女給文子(二五)に深く思慕し結婚を希望してゐたが頑固な父岩次郎(六〇)存命中は到底不可能と知り十月十八日から廿日まで三回に亘つて肋膜炎で病臥中の岩治郎の服藥中に昇汞を混じて遂に數日後絶命させた

事實を綺麗に是認し  
母親存命中は母の愛に甘  
へてゐたが、これが病没  
後は冷酷な父だけとなつ  
た

と教育者に有り勝ちな嚴格  
主義による//家庭愛の貧困  
//を想へ

女給に溺れてからは父な  
ぎてんで頭になかつた  
と當時の狂戀振りから更に  
病床の父に毒を盛りながら

「この父は自分の眞實の父  
だらうか?」といふ疑問さ  
へ頭をかすめたと陳述して  
滿廷を慄然とさす

自分の犯行を父や兄に看  
破られて臨終の父の枕頭  
に詫びたが父は怒らず

「お前さへ改心すれば父  
は何も言はぬ」と平素の  
父に似ず優しく言はれて  
答へる言葉がなかつた  
と流石に肉身の情に蘇りよ  
くと泣いてゐた、ついで岡  
山醫大遠藤博士に毒物の致  
死量につき鑑定を命じたの  
ち實兄と加賀醫師を證人喚  
問することにして午後一時  
一先閉廷した

### 全國で

## 第四位

岡山縣下の  
定期刊行物

(昭和十年三月廿五日掲載)

文化縣岡山を語るパロメ

「ター」岡山縣下の新聞  
、書籍、雑誌などの定期刊  
行物は縣に納本されるもの  
が現在約六百あるがその傾  
向を見ると六、七年前まで  
は左翼物が斷然多かつたの  
が滿洲事變を境にして皇道  
中心のものが激増し全體の  
數も著しく殖えてゐる、つ  
いで農民運動、農村青年の  
研究物、宗教書籍などが漸  
次増加してゐる、殊に新し  
い傾向としては在岡朝鮮同  
胞間の定期刊行物が五種類  
も出來たことである、現在  
農民運動に關する刊行物は  
約四十種これらのうちには  
農村青年の研究發表機關と  
して生れたものが多く、一

方では修養雑誌として生れ  
たものも相當數ある、宗教  
雑誌は三十種程あるが金光  
教徒金光青年、カトリック  
會報、日進等相當部數を出  
して居り、また津山市で發  
行の修養雑誌//幸福//など  
も相當部數を發行してゐる  
そしてこれらのうち發賣禁  
止或は削除等所謂發行事故  
といふものは可成多く取締  
りも容易ではないが出版物  
の多いことは全國でも東京  
大阪、北海道につき流石に  
文化縣の貫録を示してゐる

× ×

## 風水害が織る

### 縣下の小作爭議

## 遂に百七十件突破

本年に入り既に

百四十六件發生

(昭和十年三月廿九日掲載)

風水害が齎らした深刻な  
一斷面——岡山縣下におけ  
る小作爭議は縣農務課小作  
係りの調べによると本年一  
月一日以來廿八日まで百  
四十九件といふ驚くべき多  
數に上り縣の記録を破つて  
ゐる、この内容は爭議面積  
四千四百五町四段、關係者  
地主二千二百四名、小作一

萬二百七十二名であるがこ  
のうち三件を除いては全部  
が風水旱冷害の小作減免要  
求に端を發してゐるもので  
ある、この關係方面は眞庭  
郡を除く全縣下で、殊に山  
陽線その他鐵道沿線が多數  
を占めてゐる、未解決で現  
在繫争中のものは五十四件  
であるが全體から見ると解

決率は上乘である、これは  
風水害を始め、旱害冷害に  
ついて地主がその被害のあ  
ることを一般に諒得してゐ  
ることに基く結果と見られ  
てゐる、なほ風水、旱冷害  
による小作爭議へは昨年末  
發生の二十五件を加へると  
今日まで同關係の爭議は初  
發以來百七十一件といふ多  
數に達してゐる

### 火さ燃ゆ

## 同胞愛

和氣聯合青年の美舉

(昭和十年三月廿二日掲載)  
同胞相愛の純情にたぎる

青年代表者が愛生園に十坪  
住宅一棟寄附を決議したと  
いふ快ニュース——岡山縣  
和氣郡聯合青年團では二十  
日長島愛生園の視察に赴い  
た十八ヶ町村青年團長達は  
光田團長を始め係員から愛  
生園の經營について懇切な  
説明を聴取、具さに視察  
した結果同胞相愛の純情に  
燃え慰問の實を結ぶべく永  
久の贈物を捧げようと協議  
忽ち纏まり一握會を組織、  
歸郡の上、郡内各戸に呼び  
かけてお隣りの同胞を慰藉  
しようとい握の米、些細な  
淨財を四月までに取纏め資  
金五百圓に達した際は十年  
度内に住宅十坪一棟を愛生

園内に建築してこれを寄附することに方針を確定し直ちに各町村青年團では實行運動に着手するに至つた

### 貧困児童へ

## 温い

### 贈物

(昭和十年三月三十日掲載)  
大風水害に打ちのめされた貧困児童への温い贈物―岡山市社会課では昨秋の水害に遭遇し、被服並に教科書學用品さへ購入できない罹災學童に對し一般國庫より支給された貧困児童への學齡勵金五千四百二十八圓

をもつて被服男子百八十九名、女子二百九名、計三百九十八名、新學年用教科書學用品男子二百八十一名、女子二百六十五名、計五百四十六名に對し各小學校を通じて、教科書、學用品は三十日被服は數日中に給與することになつた

採算して見て呉れ〃〃

## 工場主帳簿を投げ出す

### 早島の輸出向紙布

### 製織會社の労働爭議

(昭和十年三月十九日掲載)  
業界不振を理由に賃銀三割方引下を斷行した工場主が従業員のストライキに面喰つて〃それでは採算して見てくれ〃と帳簿を投げ出したといふ悲喜劇がある―岡山縣都窪郡早島町にある輸出向紙布製織太田、溝手

山崎、原、三谷、栗坂(實)の七工場では業界不振に陥つたため申合せて十六日朝突如賃銀三割方引下げを職工に發表、職工側百余名は結束してこれを不當とし直ちに同盟罷業に移り、代表者として

廣畑、上木、佐藤、藤原、石井、溝手、廣内、谷本、石山、大森、原、内田の十二名を委員にあげ工場主側に交渉したが埒があかず、十七日は同町背後の城山に籠つて氣勢を擧げ、工場側も結束して對策を協議した

山籠りの職工は十七日夕方下山して協議をつづけ、十

### 傍聴者

## 市議

### 議場で亂闘

(昭和十年三月十二日掲載)  
十一日午後三時四十分岡山市豫算市會の開議中同市南方名畑市議(四二)が發言してゐた際傍聴席にゐた同市西田小田居男(四七)が人身攻撃の彌次を飛ばしたので憤慨した名畑市議はつか／＼と傍聴席に出で木柵を振りあげての大亂闘を演じ議場總立ちとなつたので伊藤議長休憩を宣し各市議、傍聴人ら兩人を引分けて漸く議場を整理、議事を繼續

八日にはなほ罷業のまゝ委員をして工場主側に交渉してゐるが、工場主側は帳簿を投げ出してこれで採算して見て呉れといふ態度を執つてゐるためなほ解決に至らない

工場主側の言ひ分は、紙布輸出は不況ではないが他に有力な動力使用の製織工場が續出し、生産費が格安となつたため早島地方の手織を主とする工場では工賃の点で打ち負かされる状態に陥り、神戸から製品値下げを報告して來た、工賃(請負制度)三割方の値下げでもなほ引き合はない

また職工側では

一時に三割も引下げするのは生活の脅威だ、平均五十錢も値下げとなるから今少し引率下を緩和し労働者の生活を保證して貰ひたい

といふので要求條項は簡單である、紙布は早島町の特産で年産數十萬圓に上つており、すべて神戸の輸出商の請負工業となつてゐるもので収入の多いものは一ヶ月百圓にも上つてゐた

蛇にあらで

## 大鰻

### 七十尾

(昭和十年三月二十日掲載)

姫津東線第八工區(岡山縣英田郡土居村より兵庫縣佐用三日月村に至る)の播美兩國に股がる万能トンネル(延長六百メートル)の幅員擴張、据立工事はこのほぎ着手、晝夜三交替で土工數十名が作業を行つてゐるが十八日午後三時ごろ同トンネルの中央部の清水の湧き出る個所に蛇のやうな動物の集團を發見したので大いに驚きよく調べたところ重さ七、八十匁前後の耳の生えた鰻七十尾餘りが棲息してゐたのを發見土工連は大喜び、同箇所は土井川から八町ばかりも遡つた箇所文字通りの鰻上りには一同驚嘆してゐる

### 岡山市を騒がした

## 稀代の放火魔

### 一夜十數ヶ所から出火

(昭和十年三月十五日掲載)



したがこの亂闘で名畑市議は眼鏡のレンズの破片で左頬から頸部にかけて長さ三寸治療一週間の切創を受け小田は頭部、顔面を殴打され着衣を破られるなご流血の不祥事を演じ關係者は所轄東署で取調べを受けた、なほ不祥事の原因は小田は市會市政派の院外團として反對派名畑市議と犬猿の間柄にあつた處へ過般市議一行が市内の實地視察を行つた際小田も加つたが、名畑市議のため資格がないと面責されたのを遺恨とし市會議場で聞くにたへない彌次を浴せたのに名畑市議が憤慨したものといはれてゐる

去る十二日拂曉岡山市下田町三五建具商森米一方はか五軒に放火した事件は岡山東署で全署員を動員して極力犯人捜査に努めてゐたが十三日午後三時頃同署下之町派出所勤務三宅實惠、

福瀬壽男兩巡查が岡山市天瀬一・二一・生れ當時同市紙屋町八二鮎鮎店若葉内平岡政治(二七)を容疑者として引致取調べの結果遂に同夜十一時ごろまでに一切の犯行を自白したがなほ昨秋市内西大寺町を中心一夜三ヶ所の怪火につき一夜七ヶ所の怪火ありいづれも同人の仕業らしいことが判り引續き取調べを進めてゐる

同人は昭和二年十九歳で海軍に志願し吳海兵團に入團し幼少より非常な秀才であつたところから昭和四、五年頃海軍經理學校の入学試験を受け二千數百人の志願者に伍して堂々試験にパスしたので同僚と祝賀の意味で酒宴を催したその際泥酔の余り某家に侵入妻女に怪しからぬ行爲ありまたその時品物を持つて歸つたことから窃盜その他で軍法會議に廻され十月の刑を受けその後昭和六年一等水兵となつて除隊、實家に歸り兄の經營してゐる鮎鮎店の手傳ひをしてゐたが除隊後は往年の秀才も全く自暴自棄

になり性質も次第に悪くなつて来た、今回の犯行の原因も社會を呪ひ事毎に腹を立てた結果だといつてゐる

### 瓦斯……

## コンロを

### 床下へ

同人の自白による十二日の犯行は次の様なものである

午前三時半ごろ市内下田町三五建具商森米一方に侵入ガスのコンロを床下まで引っぱりこれに火をつけて飛出し更に四時十分ごろ西大寺町三七飲食店和田梅造方に入つて炊事場のガスコン

ロの上に鍋の蓋を置いて火を放ちすぐ附近の天瀬山下實三郎方の裁縫寄宿舎の塵箱に放火、今度は内山下四四バナナ商淺田耕夫方の炊事場に侵入同様ガスコンロの上にバナナ籠を載せてガスに火をつけ西大寺町二二電氣商竹井元八郎方倉庫の入り口に放火、午前五時ごろには東中山下藤田悦子方の鍵を壊して侵入同様ガスに火をつけたもので以上六件のうち四件まではガスに火をつけてその上に傍にあつた焼けさうな物を置いて逃げ歸つてゐた、このうちでも森米一方は二疊の臺所が燃へ上り家を半焼してゐる

同人はマッチは持つて行かず侵入後そこにあるマッチを使用してゐるが右のほかに天瀬邊で三軒侵入したのも、炊事場にマッチがなかつたのでそのまゝ逃げ歸つてゐる

×

何分一夜數ヶ所の怪火で市民は不安に戦き夜警をしなければといふ議さへ起つてゐた有様で東署では十三日久保署長が俄かに他行しなければならぬことになつたため全署員を集めて本日中に何とか目鼻をつけるやう努力されたいと訓辭して出發したがその夜遂に眞犯人を検擧することができ

四三

署員は雀躍した、始めこの事件は犯行の目的が全然判らず變質者が精神病者か或は警察に極度に怨みをもつてゐる者かといふことになつてゐた、然も昨秋二回の時は窓のカーテンや廣告ビラ等に火をつけてゐたので十二日のは一軒を残し他では全部屋内に侵入してをり四軒まではガスに火をつけて自然に燃へ上らしめてゐる手口等可成進んだ手口になつてゐるので萬一犯人が逮捕されない場合は事態を愈よ重大にする虞があつた

×

三宅、福竹兩巡查が犯人を検擧するに至つた動機は

始め前記和田方の發火の際 たところ一切を自供したものである

家人が窓下を逃げる犯人を目撃してゐるがその男は革製の運動シャツに黒の帽子を着、顔の圓い體格のいい、男らしかつたことおよび同家の炊事場にあつた使ひ残りの味の素の罐が紛失してゐることの二點が有力な素線となつてゐた、そこで兩巡查はこの二點について捜査を進めて行くうち、フト以前味の素を窃取したことのある平岡政治のことを想ひ起し同人を注意すると常に革製の上衣を着て黒の帽子を冠り和田方で見たといふ人相が匹敵してゐるので直ちにこれを引致し取調べ

### 演習ゴツコで

## 友達二人を射殺

### 苫田郡芳野の慘事

(昭和十年三月九日掲載)

勇ましい青年訓練の發火演習を見た小學生が父の獵銃を持ち出して兵隊ゴツコの最中誤つて友達を射殺した戰慄の事件があつた  
岡山縣苫田郡芳野村字眞加部行雄長男同村小學校第二學年光吉直(九ツ)は

八日午前中同村小學校附近で舉行された同村外附近數ヶ村青年訓練所の合同發火演習を見學し同日午後二時半頃自宅に歸り同所同校三年生坂口與茂一長男平(一〇)同所同校二年生光吉光信長男重一

(八ツ)同所同校三年生坂口節次郎三男順(一〇)らと演習ごつこを始めたが直君は自宅の土間にあつた父行雄の十八番口径元折獵銃を持ち出し實彈を裝填して弄んでゐるうち誤つて引金に手が觸れ發射、銃口の前にゐた坂口平君の腹部を貫通即死せしめ銃口に左手を出してゐた重一の薬指を第二關節から切斷したので大騒ぎとなし急報により津山署から易司法主任が現場に急行關係者を取調べ中である

×

×

×

## 獄舎に咲く麗話

### 被害者の冥福を祈り

賞與金全部を贈る  
岡山刑務所の無期囚徒

(昭和十年三月七日掲載)

岡山市後樂園裏で十二年前に老婆を斬殺した無期囚徒が冷い刑務所へ轉落して被害者の冥福を祈ること既に十餘年、更にその間、苦役によつて得た賞與金の全部を被害者の近親者へ贈つて罪業消滅の一端とするといふ獄舎に咲いた麗はしい物語り――

五日夕刻、廣島縣三次署の三木署長へ宛てゝ一通の親展書が投げ込まれた、差出人は岡山市原尾島、才崎敏雄、佐藤猛の二人で、この二人は現在殺人罪で岡山刑務所に服役中の無期懲役囚佐藤茂太郎の實家の近親者であるが同書信によれば

茂太郎は十二年前、既ち大正十二年八月岡山市の後樂園裏で折柄同所を通行中の廣島縣双三郡三次町の原本キクノ(當時五十歳)を斬殺しこれがため同人は同年十月岡山地方法裁判所で無期懲役を言渡され服役したが

爾來十餘年間、犯した罪の苛責に堪へかねて罪業消滅と被害者キクノさんの冥福を祈願し只管獄則を遵守して三度も表彰され模範囚として待遇をうけてゐたがこの程獄中から自分の實家へ獄則を守り肉體の苦痛を忍ぶのみが被害者の靈を安んずることとは思つて



なほ茂太郎の實父は五年前に死亡し實母は七十歳の高齢で病床に横はつてゐるとのこと同署では

直ちにこの囚徒の願望を叶へてやるべく早速キクノさんの近親者を探すとになつた

又本人の老婆が病床に臥つてゐると聞いて看病も囹圄の身の悲しさから出來ないと積立てた賃銀の

一部を贈りたいと申出てるのでこれだけは近日中に取計はれるわけである

左の人差指を切つて

## 只管冥福を祈る

別項煉獄に咲いた麗しい話の主人公について岡山刑務所官本戒護主任は語る  
本人受刑後前非を悔い至極真面目に獄則を守つてゐる、あの犯罪も生來の粗暴が禍ひしたものでこの粗暴の氣を匡正せねばならないと左の人差指を切斷邪念の起ることに人

差指をながめて自己修養にふけるとともに老婆の冥福をひたすらに祈りつづけてゐる、被害者の内縁の夫の行方が知れば苦役の大功によつて得た僅かの金でも贈つて罪障を消滅したいとの希望を抱いてゐるが、行方が知れずまだ達せずゐる、

津山市會の痛ましき犠牲者——津山市會は廿八日午後四時十分から開會されたが午後六時少し前各議員の質問に對し答辯をなすべく市土木課長兼水道課長丸山

悲壯なる答辯最中に

手當の甲斐なく遂に絶命

(昭和十年十月廿九日掲載)

津山市土木課長

## 市會の壇上で卒倒

を絶叫してゐた最中、午後六時三分突如丸山課長は叩頭するがやうに壇上に打ち伏し言葉がなくなつた、事の意外に近くゐた寺阪助役、中島議長を始め各參與員は壇上に駆け上り氏を抱き起さんとしたが既に顔色蒼白となつてゐるので議員は總立ちとなつて參與員室に昇ぎ込んで市會議員中の醫師中島、渡邊、森の三氏が應急手當を加へたがその効ひなく約一時間の後に心臟麻痺で絶命した

氏は昭和八年縣土木課技師から津山市水道課技師長として招聘され津山市未曾有の大事業である上

水道の工事を美事に完成し同九年六月三十日退職し一時閑職にあつたが同年八月再び市役所に入り土木、水道兩課長を兼務して今日に及んでゐた稀に見る硬骨漢であつた

を敷くことさへ出來なくなつたので遂に市長と衝突し辭職を決意し今回の市會で自己分の信するところを議場に發表せんとしたが昂奮のあまり心臟麻痺を起して斯の如き結果を招來したも高まつてゐる

土木費削られ  
市長と

意見衝突

氏は日頃心臟が弱く數日來風邪で市役所も休んで静養中のところ市會があるので無理を押し出席したのと一方土木費のうち三千余圓を豫算不足のため市役所費なきにとられ道路に砂利

懐ろから路上へ

## 一年に五萬余圓

縣保安課で調べた

一ケ年間の遺失高

(昭和十年三月三日掲載)

岡山縣保安課の調査によると物品は九千三百十點、現金は五萬三千七百七十九圓に達し、現金のみでも一日平均七千四百五、このうち

均百四十餘圓が行人の懐中から路上に落ちてゐる勘定になる、一方拾得届出たものは件數七千七百九十一件

このうち物品は一萬三千四百二十八點、現金は二萬四千七百六十九圓で現金を除いては遺失物届出より遙かに多いつまり現金は拾つても届け出る者が少く落した方では比較的よく届け出てるが品物になると落した方は届け出る者が少く拾つた方がよく届け出てる、このあたり人情の機微が窺はれる、なほ右のうち落し主の手に戻つて来たものは現金が一萬六千六百三十六圓餘物品が三千六百九點あ

り結局落し主の判らなかつたものが九千七百十九點と八千百三十三圓あつたことの収入になるものである

### 冷い家庭から

## 十一少年のひとり旅

### 優しい叔母を尋ねて

#### 岡山から大阪まで

(昭和十年三月三日掲載)

温い家庭愛に飢へた十一歳の少年が寝込んでゐる少年が叔母を尋ねて遙々大阪までひとり旅したといふ考へさせられる事件がある——二日前零時ごろ大阪驛上り三等待合室のベンチの上に小學服を着た十一、

家に歸つてから姉や父親達がよそよそしくするので家庭の冷たさに堪へ切れず、幼心に覺えてゐた大阪の叔母谷本ニエを尋ねて二十八日夜自分の貯金二圓九十八錢を持ち出し家出し、姫路まで来たが旅費がなくなり姫路から只乗りして大阪についたが尋ねる叔母の住所が判らず市内をうろつき廻つてゐたところと判明したなほ同少年には京都博物館に井田貞四といふ叔父がゐるといふので直ちに照會することゝなつた

岡山市下市町

### 林漆器株式會社

電話(長)二三二七番

大阪市西區京町堀通三丁目

### 林漆器株式會社

大阪營業所

電話土佐堀一〇四四番

齒科  
一般

## 井上齒科醫院

岡山市弓之町

電話六三四七番

# ト=ラ=ン=ク



## 藤原鞆袋物店

岡山市西大寺町  
電話四八五番

禁

岡山市城下

會

急

命

酒

出

細

太

で

前

行

る

と

酒

電話 3852  
5825

館

## 武野醫院

内 腦脊髄病科  
理 學療法科

醫學博士 武野一雄  
岡山市東中山下三丁目  
電話四九七二番

公會堂食堂

感じの長い……

茶話會は

宴會と

株式會社  
中國銀行

本店  
岡山市内山下  
電話六八〇一番

頭取 大原孫三郎  
常務取締役 中村純一郎

岡山市濱田町

入具  
一式  
嫁道

田ス  
黒ン  
夕

電話二九二七番

頭取 星島儀兵衛

# 岡山縣農工銀行

本店 岡山市弓之町  
電話六八四一番

## 愛兒貯金

千圓月掛貯金表

拂込期限	三年	五年	十年
毎月掛金	二六、二〇	一五、一〇	七、一〇
積金合計	九四三、二〇	九〇六、〇〇	八五二、〇〇
利子	五六、八〇	九四、〇〇	二四八、〇〇

◆百圓以上いくらでもあります

公益社団法人 岡山市相互金庫

電話 二四九七六八番

設立  
組合員  
拂込出資金  
貯金現在高

昭和二年二月二十五日  
千八百余名  
拾万余圓  
九拾余万圓

東出張所 津山市川崎  
西出張所 津山市宮脇町

# 津山市信用組合

津山市山下

組合長 刈田 静二郎  
専務理事 上原 敬  
理事 植月 俊雄、石坂 徳二、百濟 秀太郎、  
山田 輝吉、下山 美登、前田 榮藏、  
甲元 胤一、小池 寅二郎  
監事 小林 康太郎、香山 親雅、長澤 三郎、  
片山 太七

津下醫師宅から

## 名刀現る

七千圓の訝え

(十、三、廿四掲載)

名も無き古刀として筐底深く藏されて居た一振の長刀が花咲く春に時を得て春宵千金も何のその時價六千五百圓の古今の逸物として世の愛刀家連をウヘいと驚嘆せしめた朗春のトビツ

×

岡山市内山下、齒科醫師津下臣太郎氏は本月十七、八日の兩日津山市に於て開催された日本刀劍鑑定大會に、斯界の第一人者本阿彌光遜氏が招聘されて來岡せ



表徴として劇に浪曲に普く知られ

る機會に、數年前買求めたる儘空しく長櫃の中へ放り込んでゐた無銘刀の鑑定を乞ふた所端なくも此の無銘の一古刀こそサムライ日本の正宗の父、相州の住人藤三郎行光の鍛え上げた稀有の業物と折紙付けられたものである、鑑定人本阿彌氏も珍品として感嘆久しふし所有主津下氏の喜びはもとより多數參集せる愛刀をして垂涎丈餘に及ばしめたと云ふ、日本精神の昂揚につれて刀劍熱華やかなの昨今亂

漫の春に魁けて此處刀劍界に一段とゴールドフラワア一は狂ひ咲きして居る、因に藤三郎行光は今から凡そ五百年の昔にさかのぼる觀應年間の刀匠であるが、前記行光はかの源頼朝が鎌倉に幕府を創設する砌り全國から著名なる刀工を鎌倉に招聘したがこれに應じて馳せ參じたる備前一文字國宗、同助、眞栗田口國綱、新藤吾國光、豊後國行平、等は當時最も傑出せる代表的刀匠であつて行光は栗田口の系統を引く新藤吾國光の弟子であつた、この藤三郎行光こそかの有名な相州傳の創始者として將又日本刀匠

の代表的人物五郎正宗の父であり、正宗はこの父行光に師事して後年その名聲を博する素因を作つたものであつた、藤三郎行光の鍛へ上げたものが如何に今日刀劍界に於いて珍重がられてゐるかはこれに依つても明らかであらう、名刀の主、津下醫師を訪へば喜びに相格を崩しつゝ語る、あの刀は今から六年程以前、市内柳川筋の刀磨師西村貞雄氏が持込んだもので、長さ二尺四寸一分の無銘だがなか／＼の逸物と見受けられ五十五圓で買ひ求めたのだが斯程までの名刀とは思はなかつた本阿彌

氏の言に依れば「行光のもなかノ」見當らず時價六千  
ので今日銘のあるのは皆無 五百圓程するがそれでも容  
と云つてもいゝ位で無銘で 易に入手困難なものである

### 靖國神社へ合祀される

## ほまれの岡山縣人

### きのふ陸軍省で發表

(十、四、二、掲載)

東洋平和の礎石となつて 發表したが、そのほか戊辰  
忠魂永久に芳しく来る二十 の役、二本松、二本松藩士  
六、七兩日行はれる靖國神 三浦權太夫義彰も維新殉難  
社臨時大祭に合祀される満 者として合祀されることゝ  
洲事變殉難各部隊將士及び なり、目下上奏の手續中で  
外務省、朝鮮總督府、關東 ある、なほ合祀される岡山  
廳警察官並に滿鐵社員ら八 縣出身の勇士は左の如くで  
百十三名は一日陸軍省から ある

五〇

倉敷市囑託日下繁夫△眞  
庭郡二川村一等計手片山  
秀三郎△勝田郡豊並村工  
兵伍長宇野一朔△岡山市  
航空兵大尉赤松良太△邑  
久郡邑久村同服部清△阿  
哲郡菅生村軍曹村上楠明  
△勝田郡北吉野村歩兵伍  
長鷹取十郎△吉備郡吳妹  
村三等着護長田名定雄△  
後月郡芳井町歩兵上等兵  
森下治△邑久郡鶴山村松  
尾要藏△倉敷市同鳥諷清  
△勝田郡湯郷村同尾高政  
一△小田郡今井村同山下  
哲治△小田郡中川村同佐  
藤正△後月郡青野村同三  
宅常市△英田郡吉野村同  
小林東助△御津郡津賀村  
輜重兵伍長清水文雄△横  
井村砲兵上等兵前原顯利  
△吉備郡服部村歩兵上等  
兵服部平一△眞庭郡二川  
村同三崎英男△川上郡平  
川郡同藤原健市△阿哲郡  
豊永村同井闕厚△小田郡  
金浦町同高橋平内△和氣  
郡藤野村同大田原勇△吉  
田郡阿波村同林文雄△吉  
備郡岡田村同藤田郁郎△  
赤磐郡五條村瀧田清市△  
久米郡稻岡南村同大野治  
△川上郡大賀村歩兵一等  
兵神崎優△久米郡大井東  
村歩兵二等兵山岡正美△  
赤磐郡高月村砲兵上等兵  
戸田久佐加△久米郡稻岡  
南村歩兵少尉磯谷貞一△

## 秀才揃の一家

### 末弟の一高合格で

### 津山市中に喧傳さる

(十、四、三掲載)

末弟の一高合格により初  
めて知られた秀才揃ひの一  
家を紹介する——津山市川  
崎田口多六君(一九)は昨春  
津山中學四年生終了後上京  
第一高等學校へ入學すべく  
血の滲むやうな獨學を続け  
てゐたが一日長兄爲好氏宛  
首尾よくパスした旨の通知  
があつた

三君(二二)他家に嫁してゐ  
る長女秋子さんの六人兄弟  
で多六君は末弟である、次  
兄時四郎君は小學校卒業後  
秘かに専檢を目指して獨學  
、めでたくパスしたのち上  
京今春多六君とともに貧  
しくも不自由な自炊生活を  
続けながら日本大學を卒業  
六月の高文に備へつゝある

× 同家は爲好氏以下時四郎  
君(二七)房子さん(二四)正

× 正三君は昭和七年津山商  
業を首席で卒業、目下台灣

銀行に在勤し昨年の全島珠  
算競技會には群雄を退けて  
優勝、また多六君も津中在  
學中は常に級長を勤めてゐ  
たが五年となつて上級學校  
入試の準備をなすには級長  
としての難務は勉強の妨げ  
だと許り敢然上京、高等學  
校中の最難關一高を目指し  
て獨學、遂に今回好成绩を  
もつて合格したものである

房子さんは津山高女を首  
席で卒業したのち大阪阪急  
デパートの女事務員となつ  
て末弟のために婚期をよそ  
に精勵し長兄爲好氏は市内  
川崎で製粉業を営みながら  
愛弟達のために眞に身を粉  
にして盡してゐるが市民は  
理解ある長兄と秀才揃ひの  
田口家の輝しい前途を祝福  
してゐる

### 「妾腹の子」ご證言され

## 家邦管長憂鬱

### 社會の視聽を集めて

### 確認訴訟開く

(十、九、一二掲載)

金光教のお家騒動に端を 發して、同教前内局古川隼

五一

人氏によつて岡山地方裁判所に提起された金光教管長金光家邦氏等十氏の弟妹を相手取る身分關係確認訴訟は社會に異常な衝撃を與へこれが歸趨は管長金光家邦氏の鼎の輕重を決すると共に延いては革新金光教の興廢にも關する重大問題なりとして全國五百萬の同教信徒は素より、各方面から多大な興味を繋れてゐた、愈よ去る十九日午前十一時より岡山地方裁判所民事部法廷に於て、該訴訟事件に關する第一回口頭辯論が安藝裁判長係り原告側野中(大阪)被告側山村、吉田吉岡の各代理辯護士列席の

下に開廷され、身分關係確認を繞る論戰の火蓋は茲に華々しく切つて下されたかくて息詰まる様な緊張と傍聽席を埋め盡す多數金光教關係者の一喜一憂の裡に審理が進められたが當日の證言は家邦管長に執つて不利に展開し管長は妾腹の子なりといふ重大ポイントが立證されて早くも今後の大波瀾を約束付けるに至つた

### 聖地金光町に 渦巻く

暗流

金光教に渦巻く二潮流—  
聖地木綿崎山を中心として



演ぜられた管長派對副管長派の醜争は、所謂金光教のお家騒動となつて全國的に擴大され五百萬信徒の大動搖と前後二回に亘る恐喝事件まで織込んでさしもの金光教を支離滅裂の危地に陥れたが、仲裁は時の氏神と許りに乗出したわれ

光内閣改組も高橋新教監を始め著々として整備され聖地深く閉ざされた暗雲もサラリと拭はれて久方振り仰ぎ見る「廓清金光教」の神域を前に金光町民が安堵の胸を撫で下したのも束の間、またも今度は金光教前内局古川隼氏によつて管長金光家邦氏外九氏の身分關係確認の訴訟が別項の如く岡山地方裁判所に持出されて、今様天一坊を地でゆく名門金光家の内情を遺憾なくさらけ出した。

即ち當日は劈頭先づ原告側の申請による岡山縣淺口郡金光町大西ヒデさんが證人として法廷に立ち初代管

長金光大陣氏と愛妻赤澤古満さんの最初の關係について詳細に當時の経緯を物語り、管長家邦氏外九氏はまさしく古満さんの子に間違ひない事を明確に證言して被告の立場を極めて不利にさせた後、ついで金光町金光トヨさん(初代管長大陣氏の實兄金吉氏の妻)並に原告古川隼人氏の實弟である姫路市西吳服町金光教々師武部壽男氏の兩名が證人として喚問されたが何れも前記大西同様家邦管長が妾腹の子である点を種々有力な例證を擧げて細々と陳述し原告に有利な證言をした。(寫眞は管長)

離籍問題で

### 前田子爵

喚問さる

金光教管長金光家邦氏を相手取る身分關係確認の訴訟は前記の如く大西ヒデさん外二名の證人が口を揃へて家邦管長が大陣氏の愛妻赤澤古満さんの子であることを立證したので茲に管長派としては極めて不利な立場に置かれることになつた。

然も該訴訟事件の後を享けて、これまたかねて岡山地方裁判所に金光福子さん(家邦管長の實弟金光別弘氏未亡人)が管長を相手取

つて提起してゐた離籍無効確認訴訟の第一回口頭辯論が同日午後二時より民事部法廷に於て安藝裁判長係り原告側代理熊谷直太(東京)佐藤茂(東京)兩辯護士、被告側代理衛藤恒彦(東京)辯護士列席の下に開廷され、證人とし貴族院議員前田利定子爵全蔭田廣城



子爵、岡澤子爵清浦奎吾伯爵令息垣道氏等々華胄界の歴々が相ついで法廷に立ち

福子未亡人の離籍問題についてそれらの立場を明かにして大体家邦管長に不利な證言をするなき重なる御難續きに家邦氏の立場は愈よ窮地に陥り流石の管長もこの處全く泣面に蜂の形である。(實眞は副管長)

注目さる

### 今後の

成行

家邦管長打倒の側面攻撃として別項の如く去る十九日岡山地方裁判所に於て開かれた前後二件の訴訟事件が何れも家邦管長に不利となつたことは金光教關係者



に大きなセンセーションを捲起し、成行如何では再び全國千二百余の同教々會が一齊に起つて「家邦管長排撃」の猛運動を捲起さんとする氣勢を示してゐる。

一方管長派では四圍の狀勢が漸次自派へ不利に展開するのを察知してか數日來家邦管長を中心として種々對策を講じ、曲りなりにも折角確保することのできた管長の榮職を副管長派の策動によつて奪取されるが如きことあつては一大事と許り慎重防備の策戦をめぐらしてゐるが、副管長派にあつても該訴訟事件と歩調を合せて一氣に年來の宿願を

達成し、生神様（副管長金光攝胤氏）を主體とする金光教の徹底的建て直し運動に乗出さんとする模様で、早くも該訴訟問題を繞つて

兩派の間に必死となつての潜在運動が開始され事態の推移は各方面から多大の興味を以て迎へられてゐる

### 神庭の瀧を背景に

## 悲戀の男女が心中

男は遂に絶命、斷髮の女は重態

### 胸の病を苦の二人

(十、五、二七掲載)

天下の名勝岡山縣真庭郡勝山町神庭の瀧の山林中で同病相憐む青春の男女がカトルモチン心中をはかり男は絶命、女は重態である、

神庭の瀧を舞臺としての心中、それは始めての出來ごとで名瀑のそれと共に悲戀の語り草となるであらう――二十五日午後一時ごろ岡

山縣真庭郡勝山町神庭の瀧上の遊覽道路を同町字星山森田利太郎氏が小學校兒童數名と共に通行中二十歳前後の斷髮美人が苦悶してゐるのを發見、瀧下の旅館竊樂館に昇ぎ込んで手當を施すと共に所轄勝山署に急報した、同署から福島部長らが、現場に急行取調への結果右の女は同縣勝田郡植月村字植月中、山田小一次女すみえ(二二)で『津山市院ノ庄、後藤照夫(二六)とカトルモチン心中をなした』と苦しい聲の下から語り男の名を呼びつづけるので、勝山消防組、青年團員らが山探しを行つたところ、同夜

十時ごろ虫の息となつた照夫を山林中で發見し前記旅館に收容手當を加へたが男は二十六日午前四時ごろ遂に絶命した、女は重態のまま同四時半親族の東儀太郎山田郁作氏らに連れられ實家に歸つた

すみえは小學校卒業後農事の手傳をしてゐたが昨年五月ごろから胸の病で同縣和氣郡片上町の片上保養院に入院中、同じ病で入院中の照夫と懇意となり何時しか同病相憐み戀におち十月中旬ごろから文通によつてやる瀬ない悶々の情を訴へ相慰めてゐたが本月二十一日すみえは無斷家出して照

夫をたづね共に手をとつて家出し作備線中國勝山驛に下車勝山町岡野屋旅館に宿泊二十三日死場所を求めて湯原温泉に赴き油屋旅館に投宿、心中の場所を探し求めたが適當な場所がないので二十四日同旅館を出で午後二時ごろ神庭の瀧に赴き同瀧上の遊覽道路の傍らの山林中で豫ねて用意のカルモチンを嚥下しものである

### 久田村に

## やもめ會

### 慰め合ひ

朗かに暮しませう

(十、五、二一、掲載)

柱と頼る配偶者を失つて

憂鬱その者のやうな日を送つてゐる寡婦が互に慰め合つてもつと朗らかに暮しませうといふモットーのため「やもめ會」といふ珍らしい會が岡山縣勝田郡久田村に去る二十九日天長の佳き日をとし同村安養寺で午後二時から發會式を擧げた、先づ同會の主唱者で昨年父君に先立たれた酪酒鶴川醸造所の女主人公廣戸澄野さんが同會の趣旨から今後の目的等をいとも雄辯に述べて開會の辭に代へ斯くて座談會に入り互に隔意なき意見を交換したのも同會は三十歳以上六十歳までの寡婦をも

つて組織、互に慰め合つてもつと朗らかにこの世を暮さねばならぬといふところから春秋二季に總會を開いて茶菓や食事を俱にしました時として出雲大社詣りや敬老會の催しその他津山にいゝ芝居や活動寫真がかゝつた時にはそれ等の觀劇にも團體で出掛ようと流石はやもめ達に相應しい申合せが纏まり役員選舉の結果、會長に廣戸澄野副會長に元同村郵便局長未亡人本庄八重野兩女史が當選し和氣霧々裡に同午後五時散會した

### 三保村一番の資産家が

## 立海灘へ投身自殺

津山検事局と税務署長宛の遺書

(十、五、十五掲載)

十四日朝下關着の關釜連絡船德壽丸二等船客一名が行方不明になつてゐるのを發見、調査の結果岡山縣久米郡三保村甲元照次氏は同村の村會議員等をしたことがあり田地山林等多くの不動産のほか廣島電氣、倉敷紡績、中國銀行等の株を有し村一番の資産家としてその名を知られてゐた人である、照次氏の長男甲元經哉氏を十四日の午後實家に訪へば愁然として語る

今朝關釜連絡船德壽丸の船客として乗船中行方不明

なほ同氏は十四日午後八時五十七分中國鐵道高尾驛發列車で親族に當る津山市伏見町浮田芳氏とともに下關に向つた

甲元照次氏の行方不明事件について近所の者は語る  
照次氏は多數一流會社の株を持つてをられる最が近津山税務署からそれ等の株や不動産等につき問ひ合せがあつたとかで税務署が何か自分に疑ひをかけてゐるのではないかと常に口走つて氣に病んでをられる様でした

×

×

×

### 天晴れ 薙刀の守屋女史

## たた一人の「教士」

岡山、倉敷、玉島三縣立高女の武術教師

### 夫君はこれまた柔道四段

(十、五、十五掲載)

去る九日まで六日間に亘つて京都に開かれた大日本武徳祭演武大會に出場し薙刀術に駿腕を揮つた岡山の守屋くの女史は天晴れ諸剛を壓して、總裁梨本宮殿下から教士の稱號を授けられることになつた、蓋し本年度薙刀術で教士の詮衡にパスしたのは全國で守屋女史がただ一人だ

守屋さんは昭和四年縣立岡山高女の武術教師となりついで縣立倉敷高女、玉島高女の三校かけもちで薙刀の教授に努めてゐるが宅は岡山市一番町にあり夫君はこれまた柔道四段の猛者で岡山縣警察練習所の武道教師を勤めてゐる守屋一氏だ『教士』號は五段以上でしかも人格高潔なもので

なくてはもらへない、薙刀には段は無いがまさに守屋さんは五段以上の實力精練證は昭和八年にもらつてゐるといふ女丈夫だ、しかも全國を通じて薙刀術で教士號を獲てゐる現存者は山内候爵夫人らを合せ男女を通じて十三四人しかないといふその中の一人だから凄い



守屋さんは岐阜縣安八郡墨俣町の生れだがすつと京都で成長し明治四十五年の

京都高女卒業、體が弱かつたのを健康にしたいために十二歳の時京都の武徳會本部に薙刀を學びだしたのが始まりで、天道流の達人美田村範士の指導下に一心に技を練り、技が進むにつれてめき／＼と健康な體になつた、十八歳の四月には武徳會本部の助手に進み、その年縣立和歌山高女の武道教師に招かれて、自分より年上の生徒にまで薙刀を教へた、同校には五ヶ年勤め一時家庭の都合で教師を止したが縁あつて現在の夫君守屋氏と結婚、八年前に岡山に移つて武徳會支部の教授となり現在の武道生活に

及んだものだ、本年四十一歳の守屋さんは幼い時の虚弱さはごこへやら、身長五尺四寸體重十八貫武道で鍛へてゐるだけにお年より五つ六つ若く見える緊張さだ『まだ詮衡に與つたといふだけで教士の證書を戴いてゐないのでから困りましたねえ……』と頗る謙遜しながら

天道流は最も眞剣を揮ふ氣持ちで立打つので女學校あたりの生徒のために立派な精神教育となり一面姿勢が良くなります私は日本婦人らしい婦人を養成するといふことを第一信條として薙刀術を教

へてゐますが、他のスポーツよりも一段と嚴肅な精神の緊張が得られるので姿勢なごは不知不識の間にも正しくなるやうです『大試合の思ひ出とか、武勇傳はごさいませんか』

御前試合に度々出場いたしましたぐらゐるで自慢話はいりません薙刀は元來型をやつて行くうちに自然試合に上達して行くものでございませう

『夫君が柔道四段、あなたが精練證から教士といふ強剛揃ひでは、ちよつと強盗も尻込みするでせう』

強盗も強盗ですが、家の中ががたびし荒つぽくは

無いかと心配して下さる方もございませうが、それが妙なもので、元來武術をやりますと細いところ

### アチラの土産だ

## 少いが取つごきな

### 師走に描く黄金朗話

也 十萬圓土產アメリカ

(十、十二、八掲載)

押し迫つた年の瀬を前に水松助氏(六一)で同氏は今から三十年程前に大望を抱いてハワイに渡り更にアメリカ本土へ進出して園藝場を經營してゐる内、友人に進められて十年前シンシナチーに約六エーカーの土地

を買収して整地中變な水が湧き出すので不審を抱き専門家に鑑定させた處意外にも重油の油田と判明、しかも可成廣大な地域に亘つて無盡の油田であるを知つて思はず狂喜し油田主として納まつた

爾來幾年一介の渡航者は忽ちにして數百萬の富豪となり油田の權利を賣却して懐かしの日本へ晴れの錦を飾つたのが本年十月十六日だ歸朝後は東京目黒に宏莊な居を構へてまさに素晴らしいゴールド・ラッツユ振りを示してゐるが、氏は最近生れ故郷の福山市を訪れ餅行商をしてゐる不遇な實

兄前記福松さんへ手の切れる様な札束二萬圓更に親戚である清水旨市氏ほか三名へ各二萬圓宛、合計十萬圓也をボンと投げ出して「ア

### 酒津//中の島//山頂で

## 青年の心身を鍛鍊

### //中洲郷皇武武道場//を建設

(十、四、十三、掲載)

高梁川の大改修で人工の島ミなつた倉敷市外酒津の中の島(妙見山)は櫻の名所水の名所に取圍まれた景勝の地として、従来いろいろと利用計畫が樹てられたが

ら山頂に於て盛大な起工式を舉行する、當日は中央から皇道武道(大日本武道)の主唱者植芝守高氏をはじめ同氏を師とする海軍大將竹下勇、陸軍少將三浦眞、平田晋策の諸氏も出席することなつた

氏らが熱心に奔走した結果萬事順調に運んだものである  
第一期の事業としては一萬圓の豫算で建坪七十坪御殿風の武道場と合宿所を建設しこれに子弟を宿泊させて

## 二匹の蠅に黴菌が

# 勿驚八億一千萬

蠅取デーでとつた蠅の調査  
岡山醫大細菌學教室の  
大きな收穫

(十、六、十二掲載)

岡山醫大細菌學教室では、岡山市衛生組合主催のもとに行はれた蠅取デーで捕獲

日本精神の養成と特殊武道の鍛錬を行ひ、旁々高梁川の河原で體操や教練をやらうとするものまた時々中央から名士を聘して講座を開くことにもなつてゐる

に至り遂にその恐るべき蠅の行狀ぶりをすつかり調べあげた

即ちそれによると二匹の蠅(試験の都合上二匹宛で行はれてゐる)が運んでゐた黴菌數は口吻、肢、羽なきの體表で最も多かつたのは驚く勿れ八億一千七百萬八十九萬一千個といふ多數に上り、最も少いといはれるもので十八萬九千個といふ巨數に上つてゐること

が判明した、その平均は二千五百二十九萬五千四百個でその内譯は肢及び吻で最大七千七百四十九萬一千個、最小五萬四千個、肢及び吻を除く羽なきの體表面で最大七億四千四十萬個、最小は八萬一千個であるが、そのほか腸管内に潜んでゐた菌は最も大いもの蠅二匹で八千七百七十六萬個、少いもので十萬八千個といふ夢想だにせぬほどの夥しい黴菌をもつてゐたことが突き止められた

證明された譯である蠅の運んでゐた種類は病原菌では

デフテリー菌、肺炎菌、

大腸菌、化膿球菌、綠膿

菌、カタル性球菌

などその他では

乳酸菌、變形菌、腸球菌

枯草菌、黴菌等の多數に

上つてゐる

病原菌の證明率は化膿菌

九六パーセント大腸菌九三

パーセント肺炎菌一五パー

セント、デフテリー菌屬一

〇パーセントであるがこの

うち人間に最も關係の深い

大腸菌が高率に證明され

たことは將來、一朝傳染病

が発生した場合、その病菌

を蠅の活動によつて傳播さ

れることが出来ることを推察せしめるものであつてこ

細菌學全教室をあげて

## 不眠不休の研究!

愈よ明かになつた恐るべき蠅

## ぜひ共蠅の絶滅に

鈴木教授を始め岡山醫大細菌學教室を擧げての不眠不休の研究活動によつて蠅の恐るべき行狀は完膚なきまでに暴露されたが右について鈴木教授は十一日午後七時職員室に、村上助教授を始め

全教室員を集め立會せしめた上、次の如く語つた統計の結果は例數も少い

れは貴重な研究の收穫である

からして勿論完全なものといふ譯にはゆかない、従つて捕獲地別による黴菌の數の發表は各方面に及ぼす影響が多いだけに内容は我慢して貰ひたい而し何々學區が總體に少かく何々學區が總體に少かつたといふことはいへるであらう、私共はただこれによつて市民はもとより

一般大衆があつたものが體大いに關心をもつて撃滅に努力されることを衷心望むものである  
蠅に對する防禦對策として第一に塵芥箱の蓋を勵行すること、次には便所の汲取口を密閉すること、これを忘れてはならない、それと同時に便所に落板をなし使用に際してはこれを上げて使用するようになつて肝要である、それなれば經費も大して掛らず一方蠅の絶滅に非常に効を奏する、また、下水なきもよく清淨にすることは必要でこれについて協力當ること

無情の夫を恨んで

## 哀れ！ 死の抗議

見事酬いられた

——// 暇の父 // の弔合戦 ——

(十、十二、一掲載)

新婚まもなく不治の病を理由に捨てられた若妻が、せめてもの復讐にと夫の醫學士を相手取つて婚姻不履による慰籍料及損害賠償の訴訟を起したが、心に受けた傷手のもとで事件の解決を見ぬ内遂に淋しく死んでしまつた運命とは言へ余りにも惨酷なこの事實を見せつけられた實父は薄倅な娘

へ弔合戦のため決然起つて必死の繋争を續けた結果遂に見事に獲得し近く送達される判決書を携へて寂しく地下で心待ちしてゐる娘の墓前で讀み聞かせ長恨を霽らせた上更にこれを娘の母校である津山高女へ贈つて全女性のため活きた教材に資さんとする聞くも涙の人 生哀話——

佳人が

## 歩んだ

// いばらの道 //

この薄倅な佳人は岡山縣久米郡神目村字山手、大山佐十郎氏次女温(二四)さんで彼女が若くして辿つた// いばらの道// に對して誰か一掬の涙を惜しむものがあらうか? 温い両親の手許で何不自由なく育てられた温さんは津山高女を卒へると共に更に京都同志社大學女子専門部英文科へ入學勉學を勵んで昭和六年三月めでたく同校を卒業したインテリ女性である

才色共に優れた温さんへの求婚は歸郷と共に各地から雨のやうに注がれたかくて愈よ彼女の意中の人としての選ばれたのが岡山縣苦田郡一宮出身の後藤榮治氏といふ青年醫學士であつた、同氏は津山中學出身で卒業と共に一高へ入學更に同校を経て東大醫學部へ進み極めて優秀な成績で卒業した新進醫學士で當時勤務してゐた東京泉橋慈善病院を退いて近く津山で開業の豫定にあつたもので兩人の結婚話は急速度に進み、昭和八年十一月の吉日を選んで早くも華燭の典を擧げ

極度の

## 心勞で

肺結核に

結婚後の温さんは極度の心勞と生活の激變に禍されて間もなくバツタリ病床に倒れてしまつた彼女の容態は日に悪化して暫くの後は全く別のやうに衰弱してしまつた、不審を抱いた夫が彼女を診断した處、意外にも肺結核に冒されてゐることが判明した、肺結核、恐ろしい肺病であることを知つた彼女は新婚の喜びも瞬間にケシ飛んで目の先が眞暗になる思がした死の宣

告を前に彼女の希望はズタズタノに引裂かれた娘の病狀を氣遣つた両親は早速津山市の婚家へ馳せつけた、病床に横はつてゐる



る愛娘のヤツれ果た姿を見ては流石の佐十郎氏愕然としたそれにも増して両親に

がその頃からの後藤氏らの態度は愈よ冷酷さを加へ入院當時夫の榮治氏が二、三

意外なのは後藤氏一家の温さんに對する白々しい態度であつた、心痛した両親は早速同市の中島病院へ病める娘を入院せしめる事にした

回見舞に來ただけでその後

はバツタリ寄りつかぬさいふ有様だつた

// 悪魔 // ミ叫び

ベツトを染めた

眞紅の核血

越へて二月上旬頃、今度は// 話がついたら早く荷物を取りにきて呉れ// さいふ意味の手紙が矢繼早に大山氏のもこへ届けられた、大山一家にこつてはまさに最後の時が迫つたのだ、憤慨した佐十郎氏は再び後藤家を訪ね種々折衝してみたが望みは全くないらしい殊に意外なのは温が結婚當時醫師と相談して肺結核を極秘

にして結婚したものだ。意外なこころを出して無理矢理に離別を強要した、大山氏に執つては實に思ひもかけぬ話であつたが温さんの全快に一縷の希望を抱いてチツミ齒を喰ひしつたそれから約一ヶ月許りの後の或る日である、大山氏は意外なこころを耳にした、相手の榮治氏が愈よ新しい嫁を買つたといふ事實である相手の女といふのは勝田郡黒坂村の醫師岡猛氏三女薫(二四)さんで呪はれたこの第二の結婚は温さんが病院のベットを真紅の核血で染めてゐた三月十日に行はれた大山一家は仰天した、ま

さに致命的的人生悲劇であつた然し萬一このこころが病院に在る本人に知れては温の病状が急變するであらうこころを極度に警戒した佐十郎氏はこの事情は絶対に温さんには知らせなかつた然し病床の温さんの神経は敏感であつた殊にこの事實を知つた彼女の友人達は續々こころして病床の温さんへ同情と激励の手紙を贈つた、両親も今では全く隠し切れず遂に彼女に總ての事情を打明けた。まさか。こころ思つた豫感が的中して彼女は幸福の絶頂から奈落の底へつき落される思ひがして聲を立て、泣いた「悪魔!!」彼女

の口からはまたも鮮血が流れて眞白いシーツを眞紅に染めた

長恨を

呑んで

遂に悶死

大山氏は温をこのまゝ津山の土地へおく事は反つて精神的に悪い。考へ病状は余り思はしくないが中島院長と相談して昨年の四月六日一先づ退院して温を郷里神目村へつれ歸つた、身も心も破れてしまつた彼女に對しても故山の風物だけはいつとも變らない温さで彼女を迎へて呉れた、暫く故山

で悶々日を送つてゐた温さんは遂に意を決して岡山の柚原辯護人を代理として夫榮治を相手取り婚姻不履行による慰藉料並に損害賠償の請求訴訟を五月上旬津山支部裁判所へ提起した、かくて弱い女性は敢然としてこの暴戻あくなき後藤へ挑戦の矢を放つたのだ、然し極度な精神的傷手は日ご共に病勢を昂め同年九月頃には明日をも知れぬ重態となつた男性を呪ふ彼女の病床日記には  
血液型に若しA型B型があるのならば後藤の血液はキツト悪魔型です  
これまで記されてあつた

かくて温さんは訴訟の結果をまつまでもなく夫榮治氏へ長恨の血涙を呑んで九月十四日淋しく死んでいつたのである  
「キツト勝つて見せるぞ安心して浄土の人になつて呉れ、お前の仇はお父さんが引受けたぞ」愛娘の亡骸を前に佐十郎氏は絶叫した

墓前で

読む

判決文

十一月二十四日待望の判決の日は来た、然し第一審の結果は意外にも  
社會萬人の嫌悪する肺結

核を隠して結婚し乍ら豫約を要求するは不當である  
こころいふ理由で温さんの敗訴となつた、余りにも惨酷な審判に接し佐十郎氏は愛娘の弔合戦のため直ちに断然廣島控訴院へ控訴して第二審で再度の黑白を争つた  
爾來およそ一年、愈よ本年十月三十日最後の審判は下された、それによれば  
肺結核は不治の病にあらず、治療方法によつては治癒する病である殊に被控訴人は醫師であり乍ら手當を加へず離婚するは正當にあらず  
といふ原審とは正反對の

理由で温さん勝訴となつたのだ、勝つた、勝つた、娘よ喜べ佐十郎氏は文字通り狂喜亂舞した、娘の父の一念は遂に報ひられて茲に宿怨後藤への復讐が成つたのである、餘りにも波瀾に富んだこの人生悲劇の全貌は間もなく大毎紙その他によつて社會へ傳へられた、薄倖な佳人へ寄せる同情の手紙は彼女の生家へ殺倒して今父佐十郎氏を感泣させてゐるのである  
聞く處によれば佐十郎氏は近く送達される判決書を携へて娘の墓前を訪れ、聲高らかに讀みきかせて地下の靈を慰めた上、更にこれ

を彼女の懐しの母校津山高女へ贈つて全女性のため活きた教材に資さんとしてゐる娘の父の温いこの思ひやりを前に地下の温さんも定めし咽び泣きしてゐることであらう……  
(寫眞は温さん)

死の

母性愛

火中に飛び込み  
幼児を救ひ出す

(十、六、二十二掲載)  
岡山縣赤磐郡豊田村大字  
小瀬木岡山驛車號掛主任花房豊太氏長男清さん(五ツ)

は二十日午後七時ごろ自宅  
附近の丘で子供数人と遊戯  
中高さ一間餘の崖から誤つ  
て田圃で焼いてゐた麥稈の  
なかに轉落してゐるのを母  
親石野さん(四四)が発見、  
狂氣のやうになつて燃えて  
ゐる麥稈のなかに飛び込み  
清さんを救ひ出したが清さ  
んは全身に大火傷を石野さ  
んは兩手足に火傷を負うた  
ので直に岡山赤十字病院に  
收容、應急手当を施したが  
清さんはあはれな姿となつ  
て間もなく絶命、石野さん  
は全治一ヶ月を要する見込  
みである

## 蕨狩の學童慘禍

突如岩石落下  
三名負傷一名絶命

(十、五、四掲載)

岡山縣苫田郡東一宮村東  
一宮小學校生徒約二百四十  
名は三日行前八時半河原次  
席訓導以下六名の男女教員  
に引率されて學校を出發、  
日本に三ツしかない虚空藏  
様を祀る海拔八百メートル  
の同村黒崎山の山頂へ蕨狩  
りに行き正午過ぎ五、六年  
生徒十數名が虚空藏様を安  
置せる萬福寺の下四十メー  
トル、三十度の傾斜面で蕨

機一髪のところ危難を免  
れた、楽しい蕨狩りが一瞬  
にして意外な椿事を捲き起  
したので付添の教師は勿論  
上級生徒多數が倉皇として  
駆けつけ武川專太郎方と萬  
福寺へ前記三名を擔ぎ込み  
後藤、宮本兩醫師を招いて  
應急手当を加へたが西村す  
み子は頭部、右耳上を強打  
出血甚だしくて二時間後に  
死亡、葉狩しづ子は右肩を  
強打、人事不省に陥り頻に  
嘔吐を催して一時危険状態  
にあつたが生命は取り止め  
るらしく神田笑子は足部に  
輕傷程度である、一方津山  
署では急報に接し岩藤部長  
江見巡查等が現場に馳せつ

け實地檢證を行ふとともに  
原因等の調査に當つたが落  
下した岩石は萬福寺境内直  
下で遊んでゐた同校高等科

二年生春名虎吉(一五)一假  
名一が過つてか面白半分  
動かしたのが傾斜面であつ  
たため思はぬ方角へ急轉落  
下したものらしく見  
られてゐる

今朝は楽しんで  
出掛けたのに

言葉も途切れ  
る遭難者の父  
死亡した西村すみ子  
さん方を訪へば父の



善六氏が  
今朝は「學校から蕨狩り  
に行くのです」と非常に  
楽しんで出て行きました  
のに夢にも思はぬこんな  
姿になつて歸らうとは……  
と一寸言葉がとぎれ  
でも今年の正月愚妻が易  
を見て貰つたところ今年  
中に子供に死別れるかも  
知れぬこいはれたので非  
常に氣にしてゐました、  
これがこんな事實になつ  
て現はれやうさは何とい  
ふ不思議なことせう  
現場にゐた  
小川訓導談  
更に現場に居た小川訓導は

語る

校長の留守中にこんなこ  
とが出来て何とも申譯あ  
りません、何分にも廣い  
所へ多數の生徒がゐたの  
で十分眼が届かず大へん  
だといふので駆けつけて  
見るとこの始末、それか  
らは負傷者の手當に夢中  
でした

寫眞―遭難現場と擔架で  
運ぶ負傷者

## 母戀し

孤獨の少女

倉敷署へ涙の願  
(十、五、四掲載)

十一年前に家出した母親

を探してもらひたいと孤獨の少女から涙の保護願が二日倉敷警察署に到達した、願ひ出たのは備後鞆港の肥後町二葉農園出張所に働く池田澄江さん(二〇)で手紙の文面によると

今から十一年前に母親の清子が澄江とその姉と父親(夫)を置き去りにして家出し行方不明となつた父はそれを苦にして八年前に死亡し、姉はその後他へ嫁入つたが夫に死に別れて、いまは所在さへ判らぬ、自分はただ一人になつて鞆の農園に働いてゐるが、風の便りに聞くと家出した母の清子が

倉敷市の竹内東洋といふ者と一緒になつてゐるらしいので、何とかして探し出してもらひたいといふのだ

倉敷署では大いに同情し早速市内はもとより管内心當りを探したが竹内東洋といふのが既に判らない折角の少女の切なる願出も空しくなつたが、或はこの男名前が藝名で旅稼ぎにでも出ていつてゐるのではないかなほ心當りを探してゐる

× × ×

### 「再生」の希望を

## 愛兒の成長に求め

世の迫害を闘ふ

小川巡查の遺族

(十、十二、十五掲載)

昭和八年六月二十八日深更治安維持の第一線に起つ身も忘れ、堂々制服制帽の警官の服装で安田銀行玉島支店大金庫を襲撃し、折柄居合せた同支店長渡邊卓氏を腕に覺への柔道の手で絞殺、現金三萬八百三十六圓を強奪して満天下の耳目を聳動させた稀代の兇惡漢ギ

かつた在住三ヶ月またも悪夢に追はれるやうにして求めた第二の安住所こそ現在の芳野村廣谷である。

綾子未亡人、晃史君それに小川實母菊野さんを加へた三人家族の生活の資源としては僅かに針仕事によつて得た一日五十錢足らずの収入だけである。一日五十錢しかもこれで三人が生活してゐる事實に對して世間の人には餘りにも無關心だ。生

來病弱な綾子さんはただ愛兒晃史君の生長と亡夫郁夫の冥福を祈る以外に何物もないのだ。  
寂經淨往信士(小川の戎名)と靜かに口ささむ綾子  
綾子さんは倉敷市の人、昭和四年小川と結婚し、間

處へ? 薄倅綾子未亡人の今此頃は? 忘れ形見晃史君は? 記者は「更生の家」綾子未亡人の住居を岡山縣上道郡芳野村に訪ねて偽らぬ心境を打診した。

……×……

上道郡芳野村の舊縣道を少し南へ入つた處へ形ばかりの茅屋が折柄の木枯を受けて寂しく震へてゐる。

人目を避けてか流石に門札は掲げてないがまさしく綾子さん達の住居である「御免下さい」不意の闖入者を迎へて綾子さんの面にはサツと狼狽の色が流れたそれで仕立物の針を休めて靜かに記者を迎へた。若く

て美しい綾子さんの顔には世の迫害と蔑視に疲れに苦闘の跡が歴然と窺へる

現在の綾子未亡人にとつて唯一の希望は愛兒晃史君(五ツ)の生長である。

強盜殺人といふ大それた罪を犯して夫小川郁夫が檢舉されてからの綾子さん達一家の生活は實に悲惨なものだつたギング警官の妻だ殺人強盜の子だ、と社會の迫害は餘りにも酷かつた。當時住んでゐた赤磐郡葛城村に居堪らなくなつた一家は追はれるやうに岡山市に逃れ市内濱野へ人目を避け



もなくあの悲劇に會つた薄倅な女性である。

小川が白日の夢を見た例の玉島藝妓お多福もその後不幸續きで今では滿洲へ渡り雪の曠野を放浪してゐるといふ噂さだ。

記「渡邊さんの御遺族から弔慰金云々といふ噂がありました」

と問へば

綾「世間の噂だけでした」さ淋しく答へた。

心白裝束の母親の氣持も知らず庭では晁史君が近所の子供と嬉々として遊んでゐた

記「では御健闘を祈ります」

綾「え、戦ひますわ！」送つて綾子さんは再生の希望を力強く誓つた。

## 母娘二人心中

### 一人を背負ひ一人を抱いて

### 池に飛び込んだ女

(十、四、二十七掲載)

岡山縣苦田郡東一宮村山間池にでも入つて死んだの形一七三六の三農仁木園一(四一)が二十五日午後十二時ごろ部落の集會から歸つたところ納戸に寝てゐる妻綾子(三四)二女節子(四ツ)三女君子(一ツ)の姿が見えず夜具等は既に冷く藻抜の殻になつてゐたのでその隘

てゐたので急を聞いて駈つけた附近の者とともにヤツト引揚げた、綾子の背には二女節子、また腹部には三女君子を抱いて飛込だらしく二人とも兵古帯で自分の身體にシツカと縛りつけてをり

死體が同池の土手に引揚げられた時には園一を始め附近の人々は餘り悲惨な様に眼をそむけた引揚げられた時には白臘の如く全く冷え切つてしまつてゐたがそれでも望みを断ち難い園一は死體を焚火で暖めらる種々手をつくしたが遂に蘇生するに至らなかつた、同村駐在巡查が檢視の上三つ

の死體は同家に收容された綾子が何故母子三人心中をはかつたかについては家庭的に何等これといふ原因はなく同女の實家は代々精神異狀の血統を汲んでゐるらしく現に同女の父岡田喜代三(假名)も發作的に精神に異狀を來すことがあるといふことである

## 附近の人語る

附近の人々は右について語る

綾子さんは長女朝子さん(七ツ)を分娩した時には一週間も意識不明で大へん難産されたので常にお



人も家も街路もすがくしい薫風に包まれて潑刺息吹する躍動の初夏……

サンサンと降りそぞぐ陽の下に、白い砂ぼこりを浴

## 無軌道に描く

## 孝子美談

岡バスの模範車掌・串田浪子さん

(十、六、九掲載)

木の芽立といふ時候の關係からでないかと思はれます

びて乾からびたメン、ストリートを颯爽と馳驅する無軌道車に咲いたバスガールの涙ぐましい孝行美談、年老いた父母、不幸な姉、幼き弟のために、誰れしもが描く乙女時代の桃色の夢

かすのの懼れを捨て、七年間雄々しき姿で今日も模範車掌として岡バスに勤めて居る串田浪子さん——

岡バスに入社當時の親しい友や小學時代の友達がい人去り二人去り皆んな結婚してしまつた寂しさから白いカンノ帽と美しい繪日傘がかげらうの様に車掌臺に映える時「二十四にもなつた妾が」ミツイ何かしら涙ぐむこころもある浪子さんだそうですが

初夏の陽光が舗道に反映する晝過ぎ學校から勇んで歸宅する小學生の可憐な姿を點見する時、市内北方小學校へ通學して居る尋常二

年生になつたばかりタツタ  
一人の弟重チャンの無心な  
姿を胸に描き、一度結婚し  
て悲境の綻に會ひ今年又も  
妊娠四ヶ月の身重で破婚の  
浮目を見てトウノ、氣の狂  
つた可愛想な姉さんを想ひ  
出し、市内北方の自宅で姉  
を案じ自分の婚期のことを  
心配しつつ自分の収入を唯  
一の糧として待ちもうけて  
居られる年老いに父母の貧  
苦に寒れた姿を睨に浮べる  
時、弱々しい憂鬱も甘スツ  
ボイ青春の憧れもサラ・サ  
ラミ車窓を掠めて飛ぶ砂埃  
りミ共にサラリミ發散させ  
るのだそうです  
少しの怨みも無い、不平

も不満も無い、天から與へ  
られた當然の職務として入  
社以來七年……一日の如  
くに雄々しく真面目に夜勤  
までして働いて居る努力は  
模範車掌として昨年表彰せ

られ社内の信望も非常に厚  
く、浪子さんの平素を知れ  
る近隣の人々や友人間では  
涙ぐましい孝養振りに絶讃  
して止まない有様である。  
寫眞は浪子さん

仰げば尊し

わが師の恩

地下に眠る教へ子に

手向ける涙の香花

(十、十一、十七掲載)

かつての教へ子である一  
少女の死に痛く同情した小  
學教師が、爾來彼岸や盆、  
命日には幾坂越へて必ず墓

参し人知れず涙の香花を手  
向けて地下に眠る//幼き魂  
//を慰めてゐたこいふ聞く  
も美はしい師弟愛美談があ

仰げば尊しわが師の恩  
朗話の主人公は岡山縣邑久  
郡牛窓尋常高等小學校訓導  
柴田利男氏で、かつて氏が  
和氣郡三石小學校に奉職し  
てゐた當時の教へ子三村豊  
子(一一)さんを繞つて描か  
れたこれは不滅の純情哀話  
だ

煉瓦ミ洋灰で有名な和氣  
郡三石町はお隣りの兵庫縣  
をツイ間近に控へた縣下最  
東端の工場街である、晩春  
の陽は麗しく映へて船坂峠  
に遅咲きの櫻が美しかつた  
三石小學校尋常科四年生  
の豊子さんは多くの級友ミ



切ですが病氣なごして両親  
を心配させてはいけません

共に今日もまた楽しいドツ  
チボールに夢中であつた  
温い両親の膝元でスクス  
クミ何不自由なく育つた豊  
子さんは若鮎にも似て潑瀾  
・快活な少女で學業成績も  
常に優秀、輝く級長として  
多數級友の信望を博してゐ  
た



生は突然の辭令で邑久郡牛  
窓小學校へ轉任することに  
なり愈よ今日はお別れの日  
である  
「皆さん體に氣をつけてよ  
く勉強なさいよ、先生も遠  
くからお祈してゐますから

よ、よく氣をつけなさい」  
こういつてヂツミ慈愛の  
目で見守るのは豊子さんの  
受持訓導柴田先生であつた  
間もなくわれらの柴田先  
生は突然の辭令で邑久郡牛  
窓小學校へ轉任することに  
なり愈よ今日はお別れの日  
である  
「皆さん體に氣をつけてよ  
く勉強なさいよ、先生も遠  
くからお祈してゐますから

「お母さん豊子にはお大師  
さまがついてゐて下さいま  
す、キツミ治りますから心  
配しないで下さい」  
我子の身を案じてヂツミ  
覗き込む母親を勵ますやう  
に豊子さんは態さミ微笑ん  
で見せた  
それから數日後の六月十  
七日には豊子さんは全く危  
篤に陥つた、運命の神は余  
りにも慘酷だ!!枕頭に馳せ  
つけた近親者に最後の微笑  
を残した豊子さんは「お母  
さん豊子は元氣です、柴田  
先生はお達者ですか、私は  
お慈悲な如來様につれてい  
つて戴きますの……」

子供に似合はぬ立派な態度で夢多い少女の身は遂に果敢なく散つてしまつた、思出深いクラスメートに心惹かれながら……

×

「豊子さん先生が来たのが判りますか、一人ぼつちでお山に居ては淋しいでせうね淋しい時には先生を呼びなさい、先生はいつでも来てあげます、ほら豊ちゃん好きなもなか//だよ、皆んなで楽しく食つたね」涙と共に香花を手向けるのは懐しい柴田先生である

冥明境を異にした麗しの

恩師の心情を前に幼い魂は地下で嬉泣きに泣いたこころ

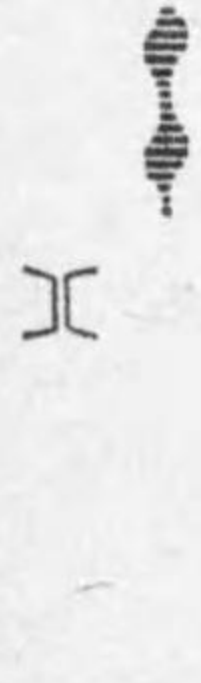
だらう

×

爾來豊子さんの命日、彼岸には決つたやうに遙遙幾坂越へては教へ子の墓を訪れ人知れず冥福を祈る柴田先生であつたがこうした事實は間もなく人人の知る處となり、これを耳にした豊子さんの兩親達をして今更のやうに感謝の涙に暮れさせてゐる、げに美はしきは至純の師弟愛である

寫眞は柴田先生(上)と

豊子さん(下)



### 逆様に吊つて打ち

### 顔一面に焼火ばし

倉敷市の繼子いちめ

瘦せ衰へた先妻の子三人

(十、十、五掲載)

倉敷市新町大工職植田林蔵(三八)及び内縁の妻末野とよ(二七)の兩名はかねてから繼子いちめの風評が高く近所の人もみるにみかねてゐるが遂に三日夜、倉敷署川西派出所に林蔵夫婦を呼び出し取調べの上、同夜は一應歸宅を許し四日午後更に倉敷署に召喚南葉司法主任かゝりて嚴重取調べ着

手した

林蔵には先妻きよさんと間に長女文子さん(一)一)長男盛夫君(八ツ)二)女小夜子さん(五ツ)の三人の子供があるが昨年きよさんを無理やりに迫ひ出し大阪で娼妓稼業を勤めてゐるとよを後妻に入れたが

とよは妻先の子供三人が憎

粒を手に受けて喰つたり、生米を嚙つて空腹を凌ぐ有様で身體はやせ細り、はたのみる目も哀れであるといはれてゐる

尙ほ子供三人の戸籍の手續きも放たらしめて、長女文子さんの如きは未だ小學校にも行つてゐない

女學校長よしのさん(五二)

は夫小野氏が苦戦のため手助けをしてゐるが投票買収容疑から二十八日午後四時ごろ所轄倉敷署に召喚されて長時間取調べをうけ、二十九日午前零時半ごろ一先づ釋放され、自動車で倉敷から岡山の宅へ歸り寢室に入つたまゝ朝になるも起きぬので家人が不審を抱き寢室に入つて見ると、よしのさんは豫てから用意してゐたのであらう鋭利な剃刀で左頸動脈を切斷して自殺してゐるのを發見、騒いで醫師を迎へて應急手當てを施したが遂に施す術もなかつた、届出により岡山東署か

### 肅正選與の悲劇

### 候補者夫人自刃

警察署から家へ歸つて剃刀で

### 小野造山女學長

(十、九、三十掲載)

肅正選舉が生んだ悲劇！岡山縣都窪郡から立候補し次點となつた現在岡山市内山下石山、前岡山縣會議員小野嘉四郎氏夫人私立造山



近くは盛夫君が言ふことを聞かぬといふのでしめ出しを喰はせ、ために盛夫君は二晩も附近の空地で夜明しをし、なほ食事をろく、與へぬため子供達は水道端に行つて近所のおかみさんが飯櫃を洗ふ洗ひ流しの米

ら係官が、岡山検事局兒玉  
検事が共に同家に出張して  
行政檢視を行った

× ×

小野よしの夫人の死の動  
機は全く肅正選挙に對する  
自責の念からであるといは  
れてゐる、別項の如く去る  
九月二日岡山縣都窪郡中庄  
村の高塚廣次(三八)がかね  
て立候補の噂のあつた小野  
氏を岡山市内山下の自宅に  
訪れ夫人に面會して一票二  
圓で投票の賣込みを持ちか  
け、よしの夫人は十圓を高  
塚に渡して歸らせたといは  
れその翌日内山下小學校で  
開かれた選挙肅正の講演會  
を聞きに行つて内心自分の

行爲を恥ぢ次いで去る二十  
一日倉敷市萬壽小學校に開  
かれた婦人團體聯合の肅正  
講演演には小野氏夫人が校

長となつて經營に當つてゐ  
る都窪郡加茂村の造山女學  
校の生徒八十名を引率して  
出席、多久知事や上代女史  
の講演を聴くに及んで愈々  
自責の念が募り小野氏は不  
幸選挙に破れ違反は各地で  
檢舉され不安と焦躁に驅ら  
れてゐるところへ高塚の檢  
舉から遂に二十八日學校か  
ら倉敷署へ連行されたので  
自分は教育者としては身の  
破滅であり生徒にも相濟ま  
ぬと深く思ひつめ肅正選挙  
の前に死を以つて申譯をし

たものであらうといはれて  
ゐる

× ×

倉敷署で小野よしの夫人  
を加茂村造山女塾から召喚  
したのは二十八日午後四時  
ごろでさきに同署に檢舉し  
た同郡中庄村高塚廣次にか  
ゝる投票賣込事件について  
約三時間に亘り井堀刑事部  
長が取調べ、午後七時ごろ  
本人の要求で二時間近く休  
憩したのち南葉司法主任が  
調書を取り、午後十時半こ  
ろ岡山検事局から岡本検事  
が出張し來り直ちに取調べ  
に着手したが、十二時前に  
は検事の調べも終つたので  
、同夜は倉敷署の保護室に

一泊せしめ翌朝歸宅させる  
ことにしてゐた然るに十二  
時過ぎになつて夫の小野嘉  
四郎氏が岡山から任意出頭  
して來たので入れ替りにそ  
の自動車によしのさんを乗  
せ、なほ途中萬一の事があ  
つてはと、岡本検事と同行  
して來た花房書記が附添ひ  
岡山市内山下の宅へ送り届  
けたもので、警察でも『こ  
こで調べは済んだのだから  
餘り心配しないやうに』と  
言ひ花房書記も車中で『心  
配するほどの事ではないか  
ら』と力づけたほぎだつた  
といふ

一方夫人と入れ替りに出  
頭した小野氏は夫人には

會はず簡単に取調べを受  
けたのち、警察署の前の  
旅館に引取り一泊したが  
二十九日午前七時頃にな  
つて岡山から電話で夫人  
の急變を知らせて來たの  
で、取るものも取りあえ  
ず自動車で岡山に歸つた

× ×

右につき守安倉敷署長は語  
る

全く豫期しない事が出來  
て驚いてゐる、吾々とし  
ても實にお氣の毒に堪へ  
ない、小野候補にかかは  
る違反容疑事件があがつ  
たのでそれを調べるため  
二十八日午後四時から夫  
人に來てもらつたのだが

相當身分のある人だし、  
殊に婦人であるため取調  
べにあつた南葉司法主  
任も井堀刑事部長も至極  
穏やかに扱つた途中で考  
へさせてくれといふので  
二時間近くも休憩したり  
して遅くなつたので相手  
が婦人であるところから  
即日検事にも來ていた、  
いて取調べを済まし二十  
九日午前零時過ぎ小野候  
補が任意出頭で來たので  
その自動車で岡山へ送り  
返したが、その際も警官  
が送つてゆくと目立つの  
で岡本検事とも相談して  
検事と同行の花房書記が  
付き添ひ内山下の宅に送

りとごけたやうな次第で  
ごうも死ぬなごといふや  
うな思ひつめた態度は少  
しも見えなかつた

× ×

政友會支部では小野夫人の  
死に對して次の様に語つた  
大變御氣毒なことです、  
女學校長として自他共に  
ゆるしたよしのさんの高  
潔なる入格が、生徒に合  
はず顔がないと死へ導い  
たものに違ひありません  
自殺に使つた剃刀は學校  
で常用してゐるもので生  
徒の前を引かれて行く校  
長の心境としてすでにそ  
の時死を覺悟してゐたも  
のと想像出來ます、學校

から引致した倉敷署刑事  
のとつた處置は名譽、人  
格ある教育者に對して餘  
りにも沒常識です、政友  
會としては本部から適當  
な人を派遣してもらつて  
事件の真相を調査したい  
と思つてゐます

× ×

造山女學校を訪へば居合す  
人は涙ながらに語る  
小野校長は二十八日正午  
すぎ御茶の稽古日だつた  
ので多くの生徒に教授し  
てゐられました際、倉敷  
署の刑事がこられて『兎  
に角同行せよ』と連れ行  
かれましたが、その時身  
は多くの子弟を預る校長

として、生徒の面前で警察署に連行されることを非常にはちて泣いてゐられました、校長は『身に何等疚しいころはないが只一學校長として子弟へ

對する責任は大である』と語られてゐたから、校長はその時既に覺悟をなさつてゐられたのではないかと思ひます

(寫眞は小野夫人)

### 孝子の母殺し裁判

法廷で具さに申立てた母が嫁虐め//の數々

つひに堪忍ならす櫂の棒でなぐり殺す

#### 検事は無期懲役を求刑

(十、十、二十三掲載)

知事から表彰までされた孝子が何故に生みの實母を惨殺するに至つたか孝子が——母殺しの大罪を犯すに至つた原因は世間にありふ

て本人同志は互にすゝんでゐたが母の嫁いぢめの事實が先方に知れ破談となつたあんなにまでして孝養を盡してゐるのに自分の可愛い妻を次から次へといびり出す、——あゝ自分ながら俺の母には愛想がつきたと思つてゐた矢先き、本年二月九日午後四時ごろ長男忠敏君(一〇)のことで口論したので前後の辨へもなく櫂の混棒で惨殺したうへ犯跡を藏はんと附近の土取場に遺棄した岡山縣久米郡龍山村大字下柵六九二、同村消防組小頭水島清にかゝる尊屬殺人及び死體遺棄事件の公判は、同村の村會議員全員

が僅かながらも辯護料にと齧出して『あの孝行者の罪が少しでも軽くなるやうに』と香山辯護士に同辯護方を依頼したので同辯護士も義侠的に列席し廿二午後零時三十分から岡山地方裁判所津山支部で田中裁判長山田檢事係り川邊小學校六年生六十名の傍聴裡に開かれた、孝子が實母を殺すに至つた罪の経路は一大悲劇であり聞くも涙である

私は實母はる(七四)三長男忠敏の三人家族で實父は八年前死亡したので母親とこもに一町歩の小作をよして生活してゐました、しかし私は妻に不運

で二人は母が難しいため離縁となりまた二人は私の家で死亡しましたと實母の嫁いぢめの點をつぶさに申立てたのちいよいよ兇行當日の模様に移り私は本年の二月九日朝から大字下柵字長谷に近所の者二人と本炭の俵装に行き午後三時ごろチアスの注射がありますため歸りまして『婆さんをるか』と外から問ひましたが返事が無いので私は自分でお茶を沸かして御飯を食べてをりましたら、長男の忠敏が歸り、ともに食事を濟ませて出ましたら

母が納屋のところろから歸りかけてをつたので私が母に『子供には飯を食はせて今遊びに出した』と言ひましたら『またお茶もろくに沸かさず飯を喰はしたのだらう、子供にはお茶をよく沸かしてやらねばいけない』といふので私も『いゝくらゐにやつてゐる、私の子だからさばたるな』と言ひました、母は元來耳が悪かったので繰り返して言ひました、その時厩がづるいから厩いれをしてやると私が言ひましたら今朝したのだからせぬでもよい私がいゝくらゐにしてを

る、さばたるなど何事にも私がしたことには役に立たぬやうに言ひますのと私の妻のこゝについても平素から内心母を怨んでをりましたので一時に腹が立ち一層母を殺さうと思ひ母が本宅と納屋との間を裏へ行つてゐるのを私が厩の戸口にもたせかけてゐた櫂棒を右手に持ち『おのれ待て打ち殺してやるぞ』といひ母が私の方へ向きなはりましたところを力一ばい母の前額部を目がけて一度毆打しましたところ何一つ聲を立てず横に倒れまし

取つてをり、死體の始末をいかにしようかと思案のはて土取場に墜死したやうにして片づけやうに決心しましたが、母がかむつてゐた日本手拭に血がついてをりましたので外の西洋手拭を被せ尙ほ私は肘まで衣類を捲くりあげた上、死體を二十間距つた土取場に運び恰も墜落したやうにしておきました

と終始軍隊式にはき、事實を認め香山辯護士からの補助訊問により妻の辨當の中に母のはるが啖つばを吐き込んでゐたこと、また嫁達の蚊張

を破つて蚊を追ひ込んで  
ゐる點、嫁に朝飯を食は  
せぬため附近の同情によ  
つて辛うじて食へさせて  
貰つてゐたこと等が明ら  
かになつたが

立會山田検事は

被告が母親の頭部を殴打  
したため死亡しその死体  
を附近の土取場に遺棄し  
た點については明らかで  
あり、犯行そのものを見  
れば一點情狀酌量の餘地  
はないが原因は母がひそ  
く嫁いじめをやつたから  
でこの點情狀酌量の餘地  
がある

と死一等減じて無期懲役を  
求刑香川辯護人の辯論があ  
つて午後二時半閉廷した、

「瞼の母」にそむかれて

## 哀れ・死の旅行

邪教「人の道」が生んだ

痛ましき犠牲

(十、九、十五掲載)

「質物横行時代」の世相  
に投じて最近素晴らしい發  
展を遂げてゐる例の「人の  
道教團」に對しては從來兎  
角の風評が傳へられこれが  
行動に對しては社會各方面  
から多大な疑惑がかけられ  
てゐたが最近またも邪宗「  
人の道教團」を妄信する頑  
迷無智な母親の犠牲となつ  
て、急性肺炎といふ重態に

起してゐる――。  
岡山市網濱上西町手藝材  
料行商鴨井重雄(三〇)並に  
同人妻ミチ代(二七)の兩名  
は本年三月頃から不圖した  
動機で「人の道教團」に入り  
爾來熱心に同教を信仰して  
岡山市下西川の同教團岡山  
支部へ通つてゐたが最近で  
は益々信仰の度を深めて座  
敷内に神棚を設け朝夕禮拜  
を行ふと共に暇さへあれば  
毎日前記支部へ入浸つて極  
端なマニア振りを發揮して  
ゐたものである。

## 笑殺

醫藥を

處が去る八月二十五日頃  
から前記重雄の長男壽雄(當才)が高熱に襲はれて急に苦悶し始めたので容態を氣遣つた近所の人々は母親ミチ代らに對して至急醫師の診察を乞ふべく進言したにも拘らずミチ代は頑こしてこれを聞容れず「人の道教團」の教理である處の所謂「御振替」を楯に執つて奇怪にも「人間が苦痛を受け

に全快する」を豪語して病  
床に呻吟する可憐な壽雄に對して何等の手當も加へないといふ始末なので近所の人々は大いに駭き、八方家人を説き伏せて見たが邪教に幻惑された兩人らは容易に聞容れようともせず重態の我が子を放任して徒らに日を過す許りであつた。

かゝる内にも壽雄の容態は次第に險惡な状態となり、數日に亘る高熱のため極度に衰弱して今は聲すら立て得ないといふ有様なので頑是ない乳兒の苦痛を見るに見兼ねた附近某らが同家に再度母親を訪ねて「此際早く醫師の診察を需めるこ

ミが必要である」をいふ旨を力説したが頑迷なミチ代は依然として「御振替」を楯にして醫藥療法は一切を拒絶してしまつた。

## 苛酷な鞭

涙を絞らせた

壽ちやんの斷末魔

かくて頑迷無智な母親の犠牲となつた乳兒は邪宗の下した苛酷の筈「御振替」につきぬ長恨を残して發病一週間後の九月一日遂に一命を奪はれてしまつたのである。

愛兒を亡くした場合の世の親達の歎き悲しむ様に較

べて彼等の態度は實に洒々たるもので「折角の御振替が神様に聞届けられなかつたのはあの子が神意を外れてゐたからだ」を空嘯き、萬一このこゝが近所に知れた場合は反つて面倒だといふので亂暴にもその夜の内に壽雄の死体を抱いて前記重雄の郷里である廣島縣某所に向つて雲隠れしてしまつた。

夜陰に

## 死体を

廣島へ！

教祖の御振替云々を理由として近所の忠告を盡く斥

「この苦痛を教祖の肉體へ御振替して頂けば醫者も薬も必要なくして病氣は立處

早く醫師の診察を需めるこ

けて最後の息を引取るまで一滴の薬も與へなかつた手前流石のミチ代らも壽雄の死を世間に告げることは出来なかつた。

仄聞する處によれば前記の如く彼等は既に死亡してゐる壽雄を亂暴にも無斷で列車に乗せその夜の内に廣島縣の郷里へ向つて出發してしまつた。

翌日壽雄の容體を氣遣つた隣家の人々が鳴井方を訪れて見るに鳴井夫婦は勿論重態である筈の壽雄の姿も見へないので大いに心配し留守を預つてゐる重雄の實弟勇二(假名)に問合せた處意外にも前夜死亡した事實

が判明したので吃驚したが何分にも夫婦共に行衛不明なので安否を氣遣ひつゝ歸宅を待構へてゐた。

一方重雄夫婦はその後數日間を経た去る九日飄然として歸宅したが壽雄の死亡については未だ一言の挨拶も近所へせぬといふ有様で附近の疑惑を愈よ深めるに至つてゐる。

殊に奇怪なのは壽雄の死亡當時に於る事實の喰違ひで重雄夫婦は壽雄が危篤状態に陥つてゐるたまゝを汽車に乗せて郷里に歸つたが間もなく死亡したので早速この旨を岡山市花畑木本醫師に打電して診斷書を郵送し

て貰つて葬儀を行つた如く言つてゐるが一方木本醫師では鳴井の宅で既に死亡してゐたので診斷書を與へた

### ラヂオドラマの主人公に

## 病める 伊原老巡查

美談、美行、逸話の七十四年を脚色して

AKから全國へ中繼放送

(十、四、十一掲載)



久二年生れ、當時七十四歳の一巡查を題材にラヂオドラマの脚色を中野實氏に依頼して完成次第 AKから『老巡查』の題名で全國に中繼放送する、現存の人物を主人公としたラヂオドラマ

を放送するのはAKにして、日本放送協會としてもこれが最初である――

この考巡査といふのは岡山市東警察署勤務の伊原重三郎さんで警察官として抜群の功績をあげたばかりでなく

人間味にとんだ數々の逸話の持主で七十四年の生涯はドラマに脚色すべきあまたの劇的要素を含んでゐる AKが伊原巡査をドラマの主人公に選んだ譯は、同巡査が昨年九月の岡山縣の風水害で人命救助のため努力のあまり激流にのまれてあやふく溺死しかかつた際日頃同巡査の

恵を被れる町民達が恩恵を被れる町民がその恩に酬ゆるため敢然救助したといふ事實からで

即ち昨年九月二十一日

岡山市一帯を襲つた大暴風雨で旭川の増水丈餘に達した際、伊原巡査はその派出所管内の町民避難に盡力し、同市内山下櫻の馬場北方堤防が決潰して派出所は流出の危険にせまつたので胸部を没する濁流中を歩行して重要書類を搬出しやうとした際濁流に押し流されさうになつたのを同派出所西方の高臺でこれを目撃した町民に救助されたが、その後一家五人のものが屋根

に上つて救ひを求め聲をきいて

小舟を漕ぎ出し救助作業中小舟が顛覆して伊原巡査は又も危く濁流にのまれ老齡の身で精根もつきはてて溺死しやうとしたのをこれを日ごろ同巡査を崇拜してゐた一町民が身を挺して救つたがその際膝關節その他に重傷を負ひ岡山市弓ノ町の石本病院に入院した、全快してもびつこは免れず不具となつて無資産の身に老の行末を案ぜられてゐる 伊原巡査はこの風水害における活躍で警察官として模範となるべき 美談を残したばかりでな

く、明治十二年郷里の小學校に俸給一圓五十錢で代用教員に奉職したのを振出しに郵便局員となり礦山業や織物業に轉向して失敗し明治二十年巡査を拜命して京都五條署に勤務してゐたが母が病氣して『京都に死に來たのではない郷里で死たい』と洩らしたので孝心故に辭職し郷里に歸り、母が死んでから明治二十二年から三十三年まで岡山市で巡査をしてゐたが、同年辭職して同市磨屋町郵便局長代理を勤め、三十六年三度巡査を拜命し水争議に一身を

犠牲にし解決したり放火犯人に金をめぐんで生業に就かしめたり、六高の學生で金に困つてゐるもの郷里から送金が後れてゐるものに金を融通し六高生から『ひげのおぢさん』と呼ばれて親しまれてゐたなご美談、美行は數限りなく

こんな按配なので財産といつては何もない、道樂といつては酒が唯一で毎日六合宛晚酌を平げてゐたが月給三十圓の時なごは二斗の酒を買つて月末に三十五圓の請求を受け流石に困つたものと見えそれ以來節酒するやうになつたといふ逸

話がある同巡査は勳八等の持主で一昨年特別表彰を受けて巡査部長となり稀に見る人格者で岡山縣警察部から「我が國警察界の國寶的存在」と折紙をつけられてゐる、さきごろ小野AK文藝部長が九州視察旅行の途中、この話を聞き込んだのでこれをラヂオドラマとすべく岡山警察協會に伊原巡査に關する一切の材料提出を乞ひ中野實氏に脚色を依頼したものである

## 病床で語る

### 伊原巡査

岡山市弓ノ町石本病院の

一室に愛娘富子さん(二七)の手厚い介抱を受ながら静養してゐる伊原巡査は語る左足がまだ癒えきらず充分歩行も出来ません、今月一ぱい位では退院したいと思ひます、當時の話ですか——私たゞやらなければならぬことをやつたまでです、それにもかゝらず色々皆様から御同情を受けて却つて心苦しく思つて居ります、九月の風水害の時恐ろしい勢で丸ノ内詰所北方の堤防が決潰し附近人家を押し流しアットいふ間もなく一帯が水浸しとなり、そこでお濠につないでゐた

小舟に青年團在郷軍人と乗込み救助に向つたが狼狽した人々は注意するのも聞かず屋上から舟に飛込んで来たがその拍子に舟が引つくり返つてしまつたのですが私は多少水泳の心得があつたので浮きつ沈みつ難を逃れ救助に努めんとしたがその時モウ濁流のため身體が自由にならずさうすること出来ませんでした、今でもまだ水が眼の前に流れてゐるやうです、この私がラヂオドラマになるのですか、一度聴きたいです

## 捨てたか殺したか

### 行方判らぬ少年

倉敷市に奇怪な事件

夫婦を召喚、厳しく取調

(十、六、七掲載)

九つになる次男を捨兒にしたか殺害したか判らぬといふ怪奇な事件があり、倉敷警察署では數日來真相を探査に苦心してゐる

倉敷市船倉植木職橋秀男(四一)は内縁の妻フキ(四〇)との間に長女清子(一六)次女花子(一四)長男幸夫(一二)三男三郎(五ツ)以上何れも假名と事件の

主人公である次男一男(九ツ)の五人暮しであるが生活難と秀男が素行不良のため家内に常にごたごたが絶えず去月十五日には妻のフキが次女花子と三男の三郎をつれて家出し行方不明となつたので保護願を倉敷署に出してゐたが同月三十日夜五才の三郎のみ飄然と家に戻つて来た

然るに妻と次女の花子がなほ行方不明のまま、である最中に同日又復次男の一男が行方不明となつた奇怪な事件が持上つたので倉敷署では秀男および三郎を召喚して取調べたところ、一男の家出について、妻が三十日の夜三郎をつれてひそかに帰宅し三郎と入替へに一男をつれて再び家出したものと申立てた越へて五月四日の夜妻のフキが單身家に歸つたので事件愈よ獵奇の裡に飛び込み、井堀刑事部長は早速秀男夫婦について嚴重に追求したところ

フキがつれ出した十四才の花子は福知山へ五十圓で酌婦に賣り飛ばしてゐたことは自白したが、一男の行動については妻が三郎と入れ替へに連れ出したことを否認して實は秀男が三十日午後二時頃自轉車に同乗させて岡山市に行き榮町の繁華街に捨て、かへつたものだと言ひ出した

倉敷署では更に岡山市方面を捜査したところ同市大供植木職宗忠吉光方へ三十一日午後二時頃かねて知合の橋秀男が息子の一男を自轉車に同乗させて來り自轉車を宗忠方に預けて親子連れ



で市内の見物に出かけたが同四時半頃父親の秀男のみ戻つてきて自轉車に乗つて倉敷へ歸つたことが判明、この間の行動について秀男の自白によると

一男を連れて町の見物をさすため午後四時ごろ同市榮町關場八郎次氏方の表入口に來た時一男に對して『家にゐても食ふや食はずだからこんな立派な家の前に立つてゐれば幸福な人に救はれて出世が出来るかも知れぬ、しかし親の名前は言ふなお前の名前も變へて言へ』と因果を含めると一男は『それぢやあ人が聞いた

ら一男と言はず安ちゃんと言ふから』と納得したのでそのまゝ親子別れをして倉敷へ戻つたといふのである

一男は年に似はぬ小柄な子供で霜降りの學生服に烏打帽を冠りゴム靴を履いてゐたが捨てられたはずの一男の行方について捜査したものの、誰に拾はれたものとも判らず今に行方不明で或は京橋下のルンペンの群に投じたものかさもなければ東山邊りの山林の中でも殺害されてゐるかも知れず同署ではこの事實が明白とならない限り遺棄罪で處斷も出來ず殺人罪に問ふ譯に

もゆかない結局安ちゃんとも乗る一男の行方を掴むことに懸命となつてゐる

一方秀男の家庭は全くの亂脈で五人の子供は何れも無籍者にしたものであり食ふものも食はさずほつたらがしにしてゐることも珍しくなく長女の清子は去る八年十一月に五十圓で福知山に酌婦に賣り飛ばし今度妹の花子も酌婦に賣つて終ひ秀男は前科こそないが強姦未遂窃盜その他の容疑で十回も倉敷署の留置場勤めをしたことがあり、ついこの間も前神派出所で暴れて三村巡査の制服を破つ

た男である  
第一審の懲役五年が

### 罰金二百圓

津山の債券魔に判決  
(十、四、二十八掲載)  
岡山縣下は勿論附近數縣で百萬圓近い債券詐欺を働きた債券魔といはれた岡山縣苦田郡香々美北村當時津山市南新座新免操(二八)は津山支部の公判において懲役五年の判決をうけ更に廣島控訴院に控訴の結果懲役一年拘留三百日通算の言渡しがありなほこれを不服とし

て大審院に上告中のところ二十七日最後の公判開廷で詐欺の點は無罪唯債券賣買の點が違反に問はれて罰金三百圓といふ意外な軽い判

決言渡しがあつた旨終始同人の爲無罪を主張し大審院の公判に立會つた津山市田町北村辯護士から留守宅へ電報があつた

## 不可思議な 人生行路

十八年ぶりに肉親に遭つた  
//サーカス女王//は嘘だつた

### その記事が縁で本物邂逅

(十、六、一掲載)



二十三日午後岡山市兵事課の窓口立つた労働服を着た二十二、三歳の青年『本年は徴兵検査の通知狀がまだ來ませんがさういふ理

由でせうか』との間に係員がよく聞き質して見ると此青年は岡山市網濱一八四生魚商石原新吉の弟清吉(二三)で昨年十一月ごろ紙上で『サーカスの女王が十八年ぶりに肉親に遭遇——女装斷髮姿の青年石原清吉』として報導された女装の青年とは何の縁もなく真正正銘の石原清吉であり、従つて女装の青年は全く別人であるといふのだ——清吉はその五歳の時實母しんが死亡し、四十九日も濟まぬ間に他人の手に轉々と生育してゐたが、昨年十一月福岡縣下の某自轉車店に勤務中新聞紙上で前記の記事を見

て幼いころの記憶を辿ると永年探し求めてゐた自分の運命と相似てゐるので去る三月一日岡山に來り新吉に面會して見ると清吉の左の眼に残つた衝傷で眞の肉親の兄弟と一目で判明、十八年ぶりの再會を懐しみ現在は市内西大寺町中村自轉車店で實直に働き主人の信用を博してゐるが、今一人の清吉は再びサーカスに入り行方不明で女装青年のお蔭で肉親の兄に廻り合へた感謝の言葉を述べようと探し求めてゐる清吉の意志も空しくなつてゐるたゞこゝに不可思議なことには清吉本人はもとより戸主新吉も全然

知らないうちに二月二十五日附で同人の戸籍は分家した清吉の次兄廣島縣安佐郡原村大字西原官有林一三八石原玉吉の戸籍に入つてゐたから徴兵検査の通知状もその方へ發送されてゐることである

× ×

その青年と云ふのは一度も會つこともない人ですが、その人のあつたがために現在の肉親とも廻り會へたのですから探し出してともに兄弟として手を取り合つて進みたいと思つてゐます原籍地も判明したこととて一人前の男子として立派に徴兵検査

査も受け得られると喜んでゐましたのに今年に限つて通知状が來ぬとのことで兵事課で調べて貰ひましたら廣島縣の兄の(玉吉)の戸籍内へ私の戸籍が移つてゐるとのことと驚いた次第です

× ×

最初の女装の青年は肉親の弟としての實感は來ませんでしたが清吉と會つた時は初顔と云ひ左眼のつき傷と云ひ一目見てすぐ肉親の弟と感じましたしかし女装の青年も假にも弟として取扱つたのだから同様の氣持で迎へんと希望して眞の弟の歸つ

たことも内密にしてゐたので清吉の籍が玉吉の戸籍内に移つたことは全く初耳です

### 驛頭に描く人世哀話

## 瞼の妹を尋ねて

神戸から岡山へはだして歩く

哀れな啞に警官の涙

(十、六、二十五掲載)

廿四日午後岡山驛前派出所に跣足の青年が、身には垢染みしたシャツにズボンをつけ『神戸から歩いて來ました』といつて訪れた同人は啞者、筆談でやつと青森縣生れ身寄はなく京都の盲啞學校を卒業その後大阪慈

高齡でもあるのと話の内容が浮世ばなれのした今様姥捨なので取へず岡山市北方友樂園に收容したが驛で別れたはるさんは岡山驛から人力車に乗つたといふのでその行方を探す一方關係方面に身許紹介中であるが果して捨てられたものか或は老婆の出駄羅目かこのごろの天氣の様にはつきりしない話である

### デカンシヨ節で練る

## 六高生團を拔刀して阻止

// 狂態何事ぞ // と現役將校が説教

六高生反抗し盛り場一ト騒ぎ

(十、五、十九掲載)

十七日午後九時半ごろ岡山市西大寺町十字路を六高生一年生約四十名がデカンシヨ節をなかりつゝ街を練つてゐると現役將校二名が // 此の非常時にかゝる狂態は何事 // かと拔刀して六高生を止め懇々と説教を始めたので六高生も // 何をぬかすか // と喰つかゝらんとした

て跣足となり岡山に來たもので『妹を探して下さい』と頼む意味が解るので署員はいたくこの青年に同情、妹を探することに協力してやることを約束、『兎に角ご飯でも食べ給へ』と五十錢渡してやると青年は喜んで出て行つた

### 岡山驛の

## 今様姥捨

迷子? 八十五歳の老婆 警官も當惑す

八幡市立町二細森うたさん(八五)は同所に住む娘、時川はるさん(六一)と相携へて岡山驛前の藤堂末吉と

稱する人に嫁してゐるはるさんの娘しづさんの病氣見舞に去る十二日岡山驛に着いたが驛で甥の細森靜馬に逢つて來いと云はれて金六圓を受取つてはるさんと別れたが大阪へ行つても靜馬の居所は知れず直ぐ岡山に引返したが驛前には尋ねる孫娘の嫁入先藤堂なる家もなく一方別れたはるさんからはその後頼りもないと云ふ調子で驛待合室なごに寝て人の情で數日送つたが遂にたまりかねて二十二日岡山西署驛前派出所に到りさうにかして下さい署員の同情にすがつた派出所では本人が何分に八十五才と云ふ

が附近の者が仲に入り漸く納まつたが盛り場のこまゝ、一時はなか／＼の大騒ぎであつた、右將校は岡山歩

### 加茂の百萬長者に

## 慰借料請求

### 處女を奪はれた

### 女中が涙の訴へ

豪農の七十爺に尊い處女を奪はれて遂に妊娠し、果ては流産の身となつて病床に呻吟させられた貧家の娘が當の老爺を相手取つて二十六日津山區裁判所へ慰借料一千圓の請求訴訟を起し

さんはその後身に變調があるのに驚き加茂町只友醫師に診断を求めた處十二指腸といふことであつたがさうも氣掛りなので更に津山市赤堀産婦人科病院で二回診断をしてもらつた結果愈よ妊娠してゐる事實が判明し本年七月一日から實家にかへつて静養してゐた處、遂に同月二十六日遽かに流産するに至つたものである、然るに卯一郎氏は彼女を弄んでおき乍らその後は怙として省みずいままさんに對して一言の挨拶もない始末なので流石の同女も大いに立腹し、種々家人と相談の結果愈よ決心して柴田辯護

兵第十聯隊の某軍醫で當夜宴會歸りで六高生の暴狀を見兼て説諭せんとしたものらしい

女工手として働いてゐたがその後郷里にかへり家事の手傳をしてゐる内、附近の人の世話で本年四月一日同郷の豪農久永卯一郎氏(六九)の許へ女中として雇はれてゐたもので同人の家庭は文字通り赤貧洗ふが如き悲惨な境遇にあり現によしの(五一)さんと兄幸雄君の三人暮しで漸くその日の糊



口を凌いでゐるといふ實狀であつた一方卯一郎氏は資



産五十萬圓を有する地方切つての資産家で現に地主並に高利貸しを業としてゐるもので同人はいままさん等に對して將來は身を引受けてやるなごの甘言で糠喜ばせてゐるうち、或日家族の留守中をねらつて『薪木を取つて来てくれ』と命じていままさんを裏山へ連れ込み矢庭に同人を押へつけて暴行を加へ遂に尊い處女を奪つてしまつた處がいま

### 愛なき結婚から

## 逃れ 出て 毒をのむ

### 伯父と伯母遺書

(十、五、二十六掲載)

倉敷市新町旅館武藏屋へ二十四日午後七時ごろ投宿した若い女客が二十五日朝九時ごろになつても起床しないので宿の主人が様子を探ふと昏睡状態に陥つたまゝ意識不明となつてゐたので驚いて倉敷署に届出た、同署から田邊部長が臨検取調べの結果、カルモチンを

倉敷の宿屋に泊つた十九の女 多量に嘔んでゐる形跡があり直ちに中央病院に入院させ手當中だが生命には別状ない模様である

同人は岡山縣上房郡巨瀬村字六名三村静子(一九)で本人から伯父に當る三村新一郎氏とその妻清子さんにあてた萬年筆で走り書きの遺書があつたが

それによると静子の両親と兄弟は南米にあり静子の伯父夫婦に預けられてゐたが本人には外に藤一といふ相思の男があるのに強いて他の男と結婚させられたので身の處置に窮し厭な

結婚生活を死によつて清算すべく二十四日夫のもとをとり出し倉敷に來り服毒したものと判明した、目下原籍地に照會保護者を呼び寄せ中である

### 瞼の母を迎へて

## 名門澤田家に春來る

### 別れて十有餘年

### 令ぞ迎へるこの歡喜

(十、十、二十掲載)

かつては百萬長者の未亡人として榮華の夢を玉樓の奥深く結んでゐた未亡人が

に數奇な人生行路を弄ばれること十餘年にして今また温い子供の愛に再生させられ復籍が叶つて愈よ近く瞼の母として輝く家庭入りをするといふ聞くも美しい人情奇譚がある——  
物語りの主人公は人も知る岡山市内山下百萬長者澤田家の未亡人いわさんで同人は今から十餘年以前までは百萬長者の未亡人として羽振りを利用せ何不自由ない朝夕に子供の成長を楽しみ乍ら余生を送つてゐたが邪戀の悪魔に魅られて大原王國の利権者として當時華々しい活躍を續けてゐた故榎昌氏とあらぬ噂を立て

### 可愛い娘が七十一

## 曾孫の子が一人

### 岡山市最高齢者に

### 昔と今を聴く

(十、十一、十掲載)

泪を拭ふ有様で落魄の母を前に娘も思はず貰ひ泣きする程最近のいわさんは氣弱い心境になつてゐた  
月日は流れた……!! あれから十餘年……愛兒達は期かに成長して今温い手を老いたる母に差伸べんとしてゐる、市内西中山下に今宏莊なる邸宅を新築中の當主澤田正君(長男)は新築落成と共に寝た間も忘れられぬ唯一人の瞼の母いわさんを双手を上げて迎へんとしてゐるのだ、母よかへれ!!  
今正君の胸は素晴らしい人生設計圖の完成に歡喜亂舞してゐる——

// 人生四十から// さいふ言葉が最んに流行してゐる  
昔はよく「俺も五十の坂を越へた……」なごといつて五十にでもなれば既に// 人生の旅// を終つたやうに悲觀せられたものが昨今ではなか// // 人生出世双六// の振出しは先づ四十からといふ「通り相場」になつてきたやうだこの寸法で行けば

これからの生活戦士は猛烈な競争場裡にあつて健康第一主義以外に到底大成は望まれないといふ結果になるだから不老長壽こそはまことに近代人に缺くことのできない金科玉條であるのだ  
さて現在岡山市に在住してゐる九十歳以上の高齢者は?と社會課で調べて見るとナント三十四名もあるそ

の内男が漸く六名を數へる程度であるのに反し女は最高九十六歳を筆頭に堂々二十八名といふ多數を占めて// 健康岡山// のためダンゼン氣を吐いてゐるのは實に頼母しい記者は岡山市における不老長壽のレコード保持者阿部竹さん(九六)を岡山市下西川町のお宅に訪問して種々長壽の秘法と過去一世紀の思ひ出話を承つた  
× ×  
花の岡山での最高齢者としてその名を讃へられてゐる岡山市下西川一三七阿部釜太郎氏母堂竹刀自(九六)さんは有名な黒住教々祖黒住宗忠氏の孫として遠く天

保十一年八月十日に見島郡梶岡村(現在の胸上村)に孤々の聲を擧げた

竹さんの生家は地方切つて大酒屋で村名主まで勤めた名門長田家で同人はその長女として恵まれた人生のスタートを切つたのである天保といへば今では昔語りとして傳へられてゐる例の天保銭が華やかに通用してゐた時代で、世はまだ封建のさなか、映畫で見るやうな劍劇が毎日の様に繰返されてゐた頃である

父長生喜一郎氏の手許で何不自由なく生長した竹さんは漸く年頃になるに及んで同郡の名家阿部家へ華々

しく入嫁し、當時の深窓の佳人竹さんに始めての人生勉強が始まつた

間もなく竹さんにはちよ、つた、釜太郎と三人の子供



寫眞は阿部竹さん

さんは既に七十歳の老齡に達し現在見島郡莊内村で幸福な月日を送つてゐる

次女つたさんは不幸にも五十三歳の折病死し、長男

が儲けられ阿部家の礎は愈よ磐石の重きを加へた三人の子供の内長女ちよ

釜太郎氏(六一)は現に竹さんと共に下西川の自宅での起居を共にしてゐる

釜太郎氏は警察官として二十數年間本縣警察界のため盡瘁した功勞者であつたが今から十五年許り前に、不圖した病がもとで腦を冒され、それが原因兩眼共失明してしまつた

### 嬰鑠たり!

その超人振り

「お婆さんにはお孫さんが澤山居られることでせうね」と問へば「ちよに四人、つたに一人それから釜太

郎に三人と八人です、それに生れた曾孫が」と指折り數へて「十七人、も一つおまけに鶴孫(玄孫)が二人ですオホ、」と鮮かな明答振りて先づ記者を魂消させた

世の老人連が六十そこそこでもうろくしてゐるのに較べて竹婆さんまことに嬰鑠たるものである

記憶力のよいといふ點も全く超人的で昔話なごして減多に誤りがないといふ元氣振だ

家族の人の話によれば竹さんは若い時分から人一倍體が弱く五十歳頃まで十日にあけず猛烈な胃瘵に悩

されて、當時ではとても長生は覺束ないささへいはれてゐたものであつた

それが六十才を越へる頃から別人の様に健康になり九十六の今日まで病氣一つせぬといふ健康体になつてしまつた

「何か長生する秘法があればこの際御教示願ひたいですナ」ミ水を向ける「秘法なんかあるもんですか、何でも好きな物を食ふことです、私なき餅や赤飯が大好きで今でも食べてゐますそれに私はお壽司が大好きでして時々嫁に無理を言つては腹一杯戴きます、まあたつて申上げれば早寝、早

起き神信心が長生のもとでせうがけふ日の若い者はなか／＼そんなことは氣に入りませんでナ、ホ、ホ、」とこのお婆さんの心底まで見すかしたやうなこころをいつて記者の肩を叩いた

たつた一本残つてゐた齒が最近ボロッと抜けてからは竹さんは今では全くの齒なし婆さん、しかし眼なき達者なもので今でも眼鏡なしで針へ糸も通せば自分の着物なき若い者の手を借りないでドン／＼縫上げてしまふといふ有様だ

「お婆さんのお若い時に較べて世の中が随分變つたでせうぬ」と伺へば全く夢のやうですナ、」ミ冒頭して昔は實に酷いものでした

### 初めて

見る汽車

「お婆さんのお若い時に較べて世の中が随分變つたでせうぬ」と伺へば全く夢のやうですナ、」ミ冒頭して昔は實に酷いものでした

士なき一旦許さぬ//と言つたが最後ごんなこ武  
ごがあつても逃れられませ  
ん、それ、芝居なごやる  
無禮打です、あれは事實  
ですよ、往來を鎗や刀を  
持つた大きなお武家が歩  
き廻つてほんとに恐しか  
つたです、辻斬なんか言  
ふ者も毎夜の様に現れて  
町人、百姓は全く斬られ  
損でした  
と當時を追懐するやうに語  
つた後更に話題を轉じて  
十年一昔と言はれますが  
私なご九十年以上もたつ  
ご世の中はガラリと變つ  
てしまひます  
お天子様も五代様に仕へ

戦争なごの話もよく聞か  
されました、今の汽車や  
飛行機それからラヂオな  
ご全く夢にも思つてゐま  
せんでした  
汽車を始めて見たのが五  
十才の時です、大元へ明  
治大帝が御巡幸相成つた  
時、お詣りする途中でポ  
ツポと煙を吐いて走るも  
のがある//あれはなんだ  
らう、あれは岡蒸氣だ//  
//いやあれが汽車ちうも  
んだ//と口々に騒いでゐ  
る人の頭越しに始めて汽  
車を見ましたよ、それが  
今日の山陽線です、電燈  
も電車も私らにはほんこ  
に最近の事です、庭瀬口

から兒島ゆきの馬車がボ  
ーボーと笛をならせて走  
つてゐました、岡山市中  
も今では立派ですが、そ  
の頃は田浦ばかりで狐が  
出る様な處でしたよ  
と話はなかりつきさうに  
ない竹さんは九十六といふ  
に筆も却々達者で暇さへあ  
れば色紙、短冊等へ得意の  
筆を振つてゐる  
これは今年のお正月に書  
いたものであるこいつて記  
者に示した//壽//といふ書  
初なごは老人とは思へぬ元  
氣な筆勢を見せてゐる  
芝居も人一倍好きらしい  
が一人ではごうも心配でな  
らないといふ家族の言葉に  
今ではすつかり断念してゐ

る家庭の折合は至極上々で  
竹婆さんを中心とするスキ  
ート・ホーム振りは傍で見  
るのも羨ましい位だ  
最後に「お婆さん、今頃  
の娘とあなたが若かつた頃  
の娘とは格段の相違でせう  
ね」と問へば  
「それは大變ですよ、昔  
の娘さんは綺麗でした髪  
は高島田に結つてほんと  
に花のやうでした、今頃  
の娘さんの格好はなんで  
す髪を切つて、黄色いお  
化粧なんか塗つてまるで  
化物です、あれが儉約に  
なつていゝのかも知れま  
せんか、昔でしたら差づ  
めお手打でせうナ」  
こいつて朗らかに笑つた

### 学校からの歸途

## 少女行方不明

### 津山女子校の六年生

金は少しも持たず、全くの謎//



誘拐されたか、それとも  
無邪氣なるまゝに何處かを  
彷徨つてゐるのか學校から  
の歸途行方不明となつた少  
女のために家庭は勿論學校

(十、六、六掲載)  
當局、近所の人々は心當り  
を捜してゐる、津山女子校  
に起つた——津山市細工町  
原田重貴氏(三六)の長女で  
津山女子校の六年生良子さ  
ん(一三)が登校したまゝ四  
日の夜となるも歸宅せぬの  
で家人を始め近所の人々が  
騒ぎ出し山内の親戚知己と  
心當りを捜査したが立ち寄  
つてゐないとの事に或は誘

拐されたのでないかと夜の  
鶴山や衆樂園等を五日午前  
二時頃まで捜したが判明し  
ないので引續き捜査を行つ  
てゐる

良子さんは四日午前七時  
半過ぎごろ平常の如く登  
校、午後二時まで授業を  
受け放課後の掃除當番を  
済ませて同三時半ごろ歸  
途につき級友の土井久子  
さんと津山市元魚町砂田  
病院前で別れその後同四  
時ごろ良子さんが同市京  
和書籍店照文堂の前で雜  
誌の立讀みをやつてゐた  
のを見たものがあり、ま  
た同四時三十分ごろ津山  
驛に至る今津屋橋を通つ

てゐたのを同様見たもの  
があると云ひその後の足  
取りは全く不明なので良  
子さんの伯父に當る大阪  
市北區善源寺町六丁目五  
六吉田亀一氏方塚本武夫  
氏に宛良子さんが若しや  
同家を頼つて上阪したの  
ではないか電報照會中  
であるが五日正午に至  
るも何等の返信に接しな  
い  
家庭は勿論學校當局では  
同女の身の上に異變がなけ  
ればご念じてゐる

×  
良子さんの家庭は四人暮  
して父重貴氏は津山市今町  
のサクラ豆腐製造所の店員

を勤めまた母五月さんは同市伏見町の浮田製糸工場の女工として共に朝早く出勤して夕刻帰宅するのが常で両親の不在中は祖母タマ(七〇)と妹との淋しい生活を送つてゐる

行方不明となつた四日朝は祖母のタマさんからこの間買つたばかりの夏服が汚れるから着て行かないやうにご注意されたのでその夏服の上から秘かに黒サージの冬服を重ねランドセルを背負ひ裁縫箱や雨傘を携へて登校したもので金は少しも持つてゐない

(大阪にも行つてゐない)

良子が頼つて行つたのではないかと情報を照會した大阪市北區善源寺町、塚本武夫方から五日午後零時半ごろ「良子はこちらに來て居ない」この返電があつた

右につき津山女子校の吉本擔任訓導は語る

良子さんはごちらかといへば内氣な方で四日は恰度掃除當番だつたので午後三時半ごろ掃除を終つて級友と共に歸途についたらしいが當番の際にも何等變つた様子はなく掃除をしなくてもいゝところまで自ら進んで掃除してゐたといふ風に常にも

なく朗かであつたといふことである昨夜(四日)一ごろ宅から良子さんが歸らないといふ報せがあつたので自分も直ちに同家を訪問、五日午前四時ごろまでに心當りを捜したやうな次第で學校當局としてはこの上何と手の下しやうがない、同家では両親が常に仕事のため不在勝ちであるのでお祖母さんから勉強せよと常に口やかましく言はれてゐたと言へばそんな事には原因を發してゐるのではないかとも思ふ

行方不明となつた良子さ

んの擔任教師吉本原氏の談により同児童の行方不明の原因は祖母が常に勉強せよと、勉強せよと言つてゐたからそれを苦にしてはなからうかと云はれてゐる際良子さんの同級生で同日掃除をした某児童の談ではそれは全然相違してゐる、同児童の語るところによると「良子さんは四日の日は掃除當番には當つてゐなかつたが算術の答案が出来ないので後に残され先生から鶏舎の掃除をさせられてゐたので大變沈んでゐた」とのこと受持教師の「掃除の時は何時になく朗かであつた」と児童との話とは全

然相反するものがあるがその真相については目下のところ明確でないが或は算術の答案が出来ず後に残されたのでそれを苦にして今回の擧に出たのではないかもみられてゐる

津山女子校々長青井荒一氏は語る

算術の時間に答案を出させたところ出來ないものが三十名ばかりあつたので五時間授業が濟んだ四日午後一時半ごろ擔當教師が出來ない児童だけを殘して答案を見、又面倒をみてやること、なりそ

の待つ時間を利用して残つてゐた三十名ばかりの児童に掃除をやらせ原田良子さんは鶏舎を掃除してゐたさうでこれは出來

### 傍聽席の婦人會員も

## みんな貰ひ泣き

二兒と共に服毒して助かつた

### けふ「殺人」の裁き

(十、十、十六掲載)

病身の夫の看病と生活苦に疲れて二兒と共に自殺を企てたが自分だけ死を免れた高知縣高岡郡窪川町生れ當時岡山縣兒島郡宇野町宇

野島田菊代(三二)にかゝる殺人事件の公判が十五日岡山地方裁判所中澤裁判長、神保檢事立會で開廷被告は夫浪治との間に十

一才を頭に四兒があり夫の僅かな日給のみでは生活が困難で百數十圓の借金を生じ夫は去る二月以來肺炎を患ひ漸く全快したものの、神經痛でぶらぶらしてゐる有様、斯うしたところから去る九月五日附近で購つた殺鼠劑を餅の中に入れて入れたものを長女晴恵(一)長男保(九ツ)と三人で食つて二兒を遂に絶命させたもので傍聽席には岡山市宇野の婦人會員百三十名が傍聽してゐるうちを女學校出の被告は終始ハンカチで涙をふきながらすら／＼と事實を認め、二人の子供に自殺を

うちあけたところ『お母さんと一緒に死ぬる』と決心をうちあけられ一緒に死ぬ決心をしたと述べ

裁『二才と四才の幼時を殘して大きい方の二人を道連にしたのは』

被『幼い兒は今後繼母に育てられても實母の記憶がなく後の母を眞實の母と思つて大きくなるものと思ふが大きい方の二人はそれと反對で悲しむ事と思つて二人の意志を聞いたところ死にたいとの事で一緒に自殺した』

「病身の夫に世話のかゝる幼い兒をまかせて死ぬる事の間違ひなる事は判つてゐる

ながら」とその間の心境をのべ裁判長は被告の書いた遺書を読み聞かせ更に二兒の書いた「私達はお爺さんのところに行きます、お父さん丈夫に暮して下さい」との意味の遺書を読んでこれは指圖して書かせたものかき聞かれ、被告は子供が勝手に書いたものさ答へる、この間傍聽席からは啜泣の聲がもれる、斯くて立會檢事は

二人の子供が死を覺悟して共に自殺したといふが二人の年齢からみて死に對する認識の程度が頗る疑はしい、被告の事情は同情するが病夫を捨てて幼

した老人、この變つた有様に總てが不思議であつたが文字通り

餓鬼である老人は先づ握飯を鷲掴みに頬張つた、その時二人連れの少女が再び家に入つて『まだ御飯なんか焚いたこゝろがないのでまづいでせう』と聲を懸けた、まだ世の人の親切をまともに受けたことのない老人の曲んだ心に始めて少女の純眞さ、人の心の温さがわかつた

大粒の涙がこめぎもなく膝に落ちた、そしてこの善行は雨の日も風の日も續けられたさうして天使のやうな救助の手は一人増し二人

兒を殘して自殺するといふ事は今少し考慮しなればならなかつた事だらう

この意味の論告をなし被告に懲役二年を求刑して吉岡辯護人の辯論で閉廷、判決言渡しは二十二日

曲んだ一つの魂を

元 返した 純情少女

伊部家政、同小學上級女生徒

六十名の奇篤な行爲明るみへ

(十、七、二十掲載)

天使のやうな純眞な奇篤な少女の行爲に曲んだ一つの魂が満足して天國に去つた麗しいニュース——岡山縣和氣郡伊部町に本年三月

頃から流れ流れた揚く齒替へを業とする

一老人久米郡神目村生れた麗しい犬を貧しい堀立小屋を

止むなく少女達は學校が休みとなつて家に歸り刈取りに田植に働んでゐたが老人が氣になるので遂に町當局を煩はして岡山の

立ててゐたところ四月下旬

ふもした事から病魔に襲はれ誰一人世話するものもなかつたが或る日伊部家政女

學校生徒數名が打連れて登校の途中小屋から漏れる空腹と疲勞にあへぐ聲を聞きつけ乙女心をいたく刺戟したその翌日學校から歸りに

彼女達は遂に意を決して一步小屋に踏み込んだ忽ち來る一種異様の臭氣の中に健氣にも彼女らは散亂した不潔物を處理し病床を掃除してやつたのち持寄つた白

米で飯を炊き何時起きても喰べられるやうに握飯を作つてやり家の周圍まで掃除して歸つた時ふと眼を醒ま

増ししかも米、野菜、鹽醬油、玉子などが持寄せられ約三ヶ月間こゝろした善行は續けられた、或日生徒が遅刻して登校したので受持先生が質すと『悪うございまして、これから早く來ます』と云つた限りこの老人の看病のため遅れたとは云はなかつたほご秘かにこの善行は續けられてゐた

伊部校の行事、鑑賞日に小康を得た老人は學校を訪れ岡本校長に感謝の涙を流して『先生私は今度生れて始めて人の眞實に泣かされた、生徒さん達は天使のやうです』と一切を告白した間もなく農繁期となり

身寄に通知したところ早速自動車で老人を連れ歸つた、而も彼は數日ならずしてまた懐しい伊部町の小屋に歸つて來た、それから數日後何時もの様に少女達は『おぢいさん今日は——』と訪れたが老人はこの懐しい堀立小屋で安らかに永い眠りに落ちてゐた學校當局ではこれが善行を調査したところ御飯炊きから掃除、薬煎じ、水撒き、洗濯、風呂焚きを始め老人の大小便の



始末までしてやつた

奇篤な少女達は六十余名であつた、十九日午前十時これが善行者の表彰式を舉行、岡本校長、烏山町長、

受持巡查、その他來賓三十余名列席表彰状を授與、この奇篤な行爲を激賞した、

被表彰者中で最初から看護に盡した者は左の如くで中には朝鮮生れの李伊林(一四)さんも混つてゐた

〔家政〕久山桃香、河野安野、小野田邦子、吉方秋惠、吉田都磨子

〔高二〕岸本薫子、柴田美壽惠、藤原花子、吉辰貞子、永田峰子、田中美智子

〔高一〕川崎潤子、田中静子、豊里玉子、岸本曉江、岡田美知江、杉岡みどり、岸本幸子、河本春子、李伊林

〔尋六〕山本操、金光よし子、武本米子、山根哲子、〔尋五〕永岡松子、田中節子、久山壽惠、植山時惠

### 八十婆の情炎から

## 獵奇な愛慾圖繪

// 人生灰迄 // を地で行く

### 笑はれぬ喜劇

(十、七、十四掲載)

岡山市小野田町四草履職人栢野彌平太(五三)が今年八十歳になる内縁の妻松田サトを痴話喧嘩の揚句、

有合せた松割太でノック・アウトした殺人未遂事件はエロ・グロ二股かけての近來の珍事件として街の話題

を賑してゐる。八〇歳の情婦を中心として描かれた血腥い愛慾圖繪の全貌は獵奇百パーセントの裏町の悲喜劇として世人の好奇心を極度に煽り立て情炎亂れ飛ぶ色褪せた三角關係の真相は事件に盛られた素晴らしいスリルとその登場人物の奇抜さに於て世人を嘔ツと驚嘆させた。渦中に躍つた加害者彌平太は友澤病院に被害者サトは三野友樂園にそれ〴〵傷ついた身を收容手當中であつたが愛人の一撃を喰つたサトさんは十二日午後六時半遂に痛ましい最期を告げた――



× ×

『くらやみの丑松』を地でゆく小野町殺人未遂事件の真相について、その後各方面の情報を総合すれば、加害者彌平太は兒島郡琴浦町生れの男で、當時きみ子と

の間に長女静子、長男利喜男の二人まで儲け可成な生活をしてゐたが、昭和五年頃妻きみ子が前記静子を連れて若い情夫と手に手を取つて墮落してしまつた。氣を腐らせた彌平太が長男

を構へてゐた。

其の間サトは市から生活救助を受け、彌平太は草履職人として岡山市天瀬津島履物店、同市紺屋町松本履物問屋等に働いてサト婆さんとの情痴生活を續けてゐる

1011

たが生來多情なサトは兎角留守勝な彌平太だけでは満足できぬと見へて、最近途澤亮太といふ六十の坂を越へた井戸掘人夫を自宅に引入れて途徹もない共同生活をオツ始めた。三疊一間のバラック小屋でサト、彌平太、亮太、それに彌平太の連れ子利喜男の四人暮しは餘りにも出鱈目である。彌平太に對するサト婆さんの溺愛振りには正に相當なもの仕事先から歸つた彌平太を寸時も傍から離さず一寸でも外出すれば「淋しいノ」と近所を觸れ歩いて亭主の歸りを待焦がれる

こいつた始末で雀百までのサト婆さんの狂亂痴態には近隣の人々も持て餘してゐた程である。

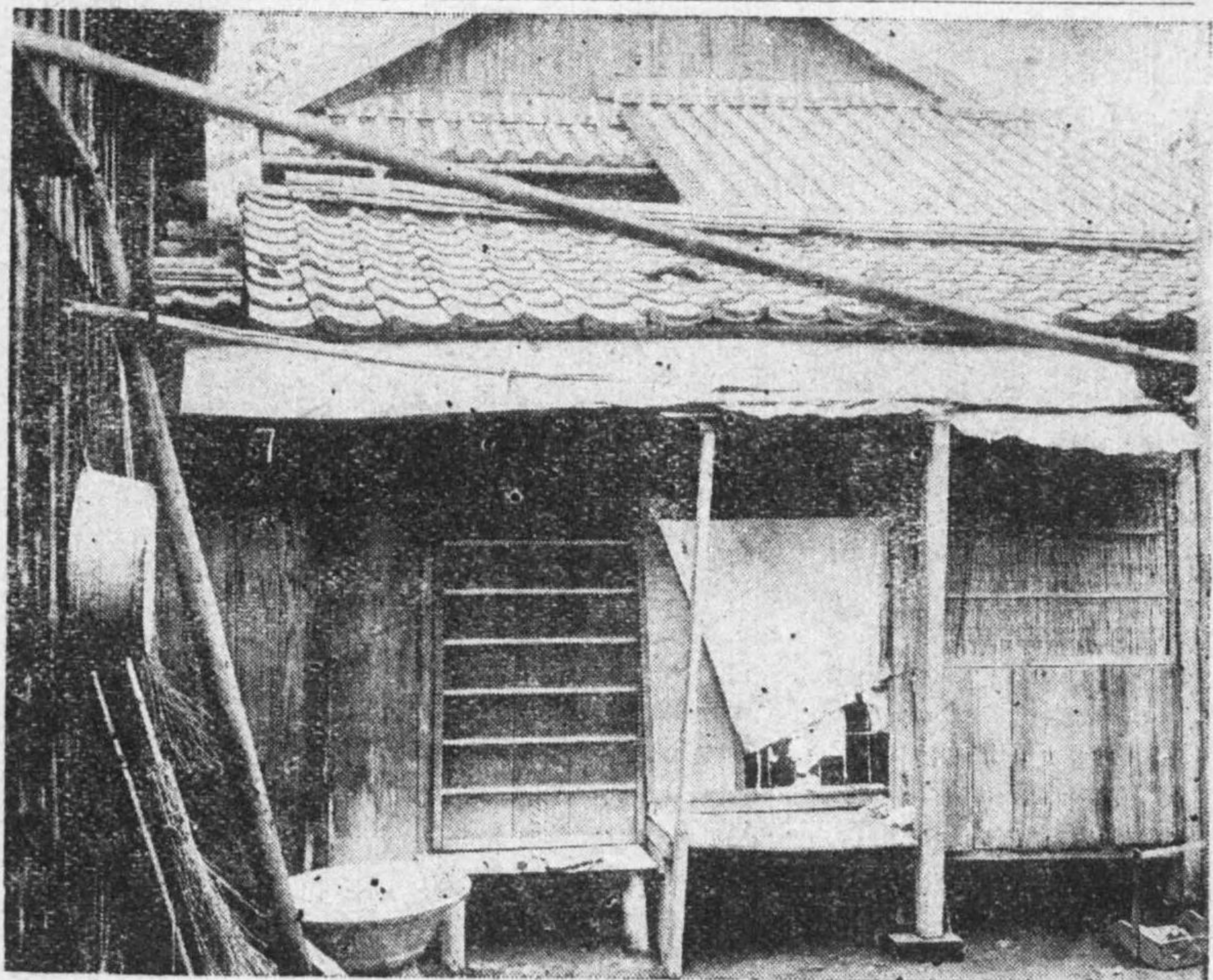
殊に最近では亭主が一寸でも居ないさ若い情婦の處へでも行つたのではないか  
さ邪推し、年甲斐もなく嫉妬の炎を燃して彌平太の行方を杖をついて探し廻るさ  
いふ執心振りであつた。

汲めども盡きぬ

### ホルモン腺

八十で紅白粉

有閑マダムならぬこの薄汚ない八十二婆さんの皮下を流れる情炎の血潮は年と共に愈々旺盛で可愛い亭主



寫眞は兇劇の家

のためならば紅がねまでも辭せない心意氣を示し亭主の彌平太が家主である隣家の寡婦さ井戸傍で立話をしてゐても大層な不機嫌振り  
で近所の女は例へば猫であつても全部亭主横取りの嫌疑者としてサト婆さんの嚴重な監視を受けてゐる程だつた。  
サト婆さんの情愛の觸手は一方同居人である前記亮太に對しても大膽に伸されていつた  
亭主の留守を見計つて人知れず行はれる萎びた桃色の白日夢が誰言ふとなく世間にバツミ擴れつたのはそれから間のない頃であつた。

處が最近彌平太と永らく生別れとなつてゐた先妻との間に出來た長女靜子が赤十字病院に來て歸郷の途次父や弟が懐しくて小野田町の宅を訪れたのをサト婆さんは先妻もしくは情婦さ邪推し兇行當日の十一日朝から彌平太を捕へ執拗に喰つて掛るので彌平太は帶解けて跣足のまゝで一旦家を飛出したが暫くして歸宅し婆さんに手を合せてさうか許して呉れと謝つたがサトが尙もきかぬので逆上し大きな聲で喚き立てサトが逃げるのを附近の廣場まで追かけて有合せた松丸太で右頭部を一撃しサトの昏倒したの

を見てテツキリ死んだものと早合点してかねて知合の小原町九二中塚義一方に走込んで同家の出刀庖丁で咽喉部、腹部等を滅多斬りに

### 學園に結ばれた

## 孝子美談！

### 病床の母を抱へて

### 少年の孤軍奮闘

(十、十一、六掲載)

今日此頃、これは亦床しくも躑はしい孝子美談が傳へられて世人を痛く感激させてゐる

朗話の主人公は岡山市旭



義理人情の日増に薄れぬ

東小學校尋常科四年生谷内秋芳君(一一)で同君が幼くして歩んで來た川いばらの路を繞つて綴られた孝養美談は聞くものをして思はず襟を正させる――

「お母さん、行つて参りませ」元氣な聲を響かせて今日もまた始業時間を卅分も過ぎる頃合になつて秋芳君は鞆を背負つて學校に出掛けるのであつた

秋芳君のお母さんはもうかれこれ五年以上も病床に呻吟してゐる重病人である張切つた氣持で一旦家を出ては見たもの、秋芳君の頭にはいつまでも病床に苦

しむ蒼白な母の顔がコピリ  
ついて離れなかつた

// 早くお母さんが元気に  
なれば僕嬉しいんだがナア  
// 幼い童心はいつも鞭打た  
れる想に苦められてゐた

毎朝六時には必ず起きて  
朝飯の支度に取り掛り、家の  
掃除、さては妹の世話萬端

男の子ではとても背負いき  
れないまでの家事一切を引  
受けて病床の母を感泣させ  
てゐる秋芳君だつた

「秋ちゃん、もういゝから  
學校にお出、遅刻許りして  
は偉い人にはなれませんがよ  
いと苦しい體をわざと引立  
て、我子を元氣つける母に  
對しても『遅刻は先生に許

して頂いてゐます、皆んな  
より遅れても勉強しなへす  
れば偉くなれます、それよ  
りか一日も早く元氣になつ

て下さい僕大きくなつたら  
お母さんに美味しい物澤山買  
つてあげますから」と暗い  
親心を慰めるのが常であつ

た



秋芳君の一生懸命な介抱  
もその効なく哀れお母さん  
は今年の十月中旬日増に生  
長してゆく我子に心ひかれ  
乍ら遂に幽明境を異にして  
しまつた

「お母さん!!」母の亡骸を  
抱いて秋芳君は夜もすがら  
泣き明した



市内門田の山手沿ひに危  
つかしいトタン張りの茅屋  
が折柄の風に吹かれた落葉  
を浮び乍ら寂しく震へてゐ  
るこれこそ秋芳君一家の温  
い悲ひの家である

母が亡くなつてからの秋  
芳君は毎朝今年七歳になる  
妹を網濱の託兒所につれて  
ゆき色々世話をするほか  
相變らず家事一切に寸暇を  
惜まず働いてゐる

不幸な家庭の子にも似合  
ず成績は先づ上の部で八百  
屋行商して得た老父の僅か  
許りの収入を以つて辛くも  
細い煙を立て、ゐる

學友に對しても常に親切

でその温い友愛振りには愛  
持教師も屢々感動させられ

るこのことである老いたる  
父の力綱として、あざけな  
い妹のよき兄として人生敗  
殘の弔合戦に今秋芳君の脚

は躍動してゐるのだ『立派  
な人にならなければ死んだ  
お母さんに申譯がない』秋  
芳君の頭はいつもこの思で  
一杯である

程近い墓地へお母さんの  
好きな花束を提げ乍ら妹を  
つれて元氣よく墓參する秋  
芳君の姿には近所の人も思  
はず賞泣きさせられるとの  
こゝ遊び盛りの少年時代を  
無情の風に弄ばれ乍ら、雄  
々しくも一家の支柱となつ

て血と涙の人生行路をゆく 學園に咲く麗朗の名花であ  
秋芳君こそ、けだし蘭秋のる

### 大太鼓を叩くに似た

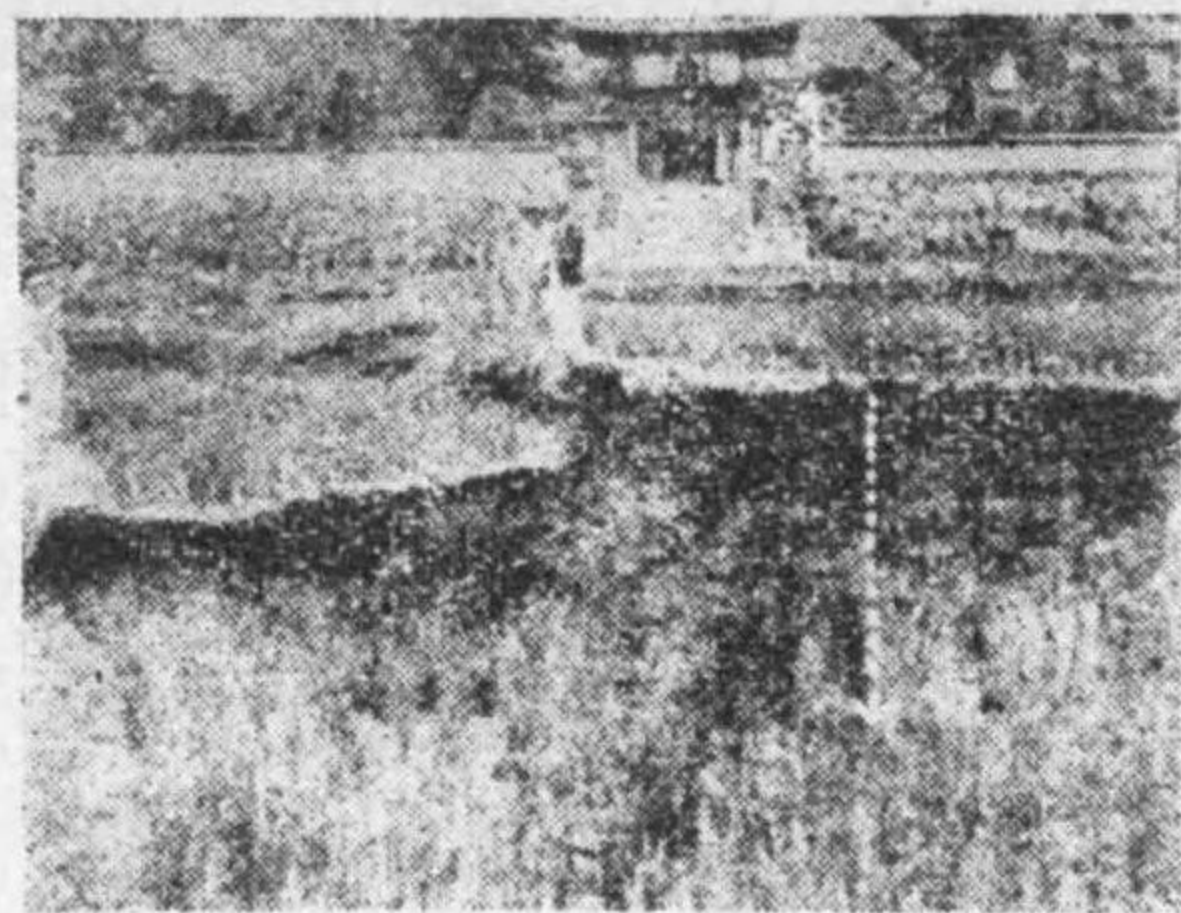
## 田圃没陥

廿三日曉から廿四日にかけて

平川村下郷觀音寺前の異變

(十、七、二十五日掲載)

岡山縣川上郡平川村下郷  
海拔五百米の高地にある巨  
刹觀音寺前の同寺所有田が  
二十三日午前四時ごろ陥落  
したことは既報の如くで久  
山岡山測候所長は二十四日  
午後四時同地に急行、詳細  
なる實地の調査を行つたが  
二十三日午前五時頃直徑一



丈程田が決潰してゐるのを  
同所間地敬一氏が發見して  
大騒ぎとなり同日午後五時  
ごろまでに三回に亘り大太  
鼓を打ち叩くの似たド  
ン／＼といふ鳴動とともに  
に水蒸氣が上つて田圃が陥  
落し二十四日午前十時まで  
この陥落状態が繼續され二  
十三日深さ九十尺まで繩が  
底に達したがその後深さは  
四十尺に減少し陥落地東西  
五十尺南北五十尺となつた  
同地は二十年前六尺四方の  
廣さの地面が二尺程陥落し  
たことがある

(寫眞は陥没の現場)

### 境橋の

## 清掃奉仕

(十、六、二十七掲載)

雨の日も風の日も朝に晩  
に奇篤の竹細工職人津山市  
の西立關岡山街頭の吉井川  
に架する境橋は昨年末、總  
工費八萬圓で見事に竣工し  
そのモダン姿は津市の一偉  
觀となつてゐるが本年一月  
ごろから毎日雨の日も風の  
日も缺がさす未明も晩遅く  
も二回この橋を隅々まで  
掃き清め通行人に快感を興  
へると共に新橋の美感の保  
持に人知れず奉仕を續けて  
ゐる奇篤な人がある、この

果して掘り當てるか

### 和氣清磨公の石棺

人夫十名で//發掘作業//既に半歳

//吉// 出た易判断

(十、九、十八掲載)

氏(五八)方へ神戸市須磨區衣掛町三丁目二〇輸出商、考古學者上月康司氏(四八)と同所易者木下三郎(五六)の二人が訪れ「この部落の小字頭司といふところに十疊敷位と五疊敷位の雌雄の岩石があるか」とたづねたので「ある」といふと二人は氣も狂はんばかりに喜び翌七日まだ明けやらぬ頃より村人をかり集め、雄岩粉砕にとりかかり、以來殆んど連日日當八九十錢の人夫約十名を督勵し掘りも掘つたり東西約三十尺に南北廿尺余、深さ四丈余……だが清磨公の石棺らしい破片一つも見當らずけふ今頃では人夫連中が弱音を吐いてゐるが、當の二人はいふのである「神様のお告げだ、必ず石棺を掘り出させて見せます、全財産を投げ打つても……」(寫眞は清磨公の石棺發掘現場)

人は津山市鐵砲町竹細工職龍善こと牧伊四さんといひ夫婦共稼ぎで細々とした暮らしを立て、あるが程近い境橋が折角見事に竣工しながらその後の手入れが充分に行届かず津山市の西立關がこんなことではいけないと朝、晩毎日缺がさず全部を掃き清め本年一月から今日まで約一時間を要するものもいさはず隠れた奉仕をやつて來たもので將來もこれを日課としてつづけて行くと語つてゐるがこれまで附近の人々も同氏がこんな奇篤な行爲をつづけてゐたことは全く知らずに居たといふことである



「吉」と出た易判断で和氣清磨公の石棺發掘事業に乗出した輸出商人と易學者——今春三月六日岡山縣英田郡河合村大字中川森下喜譽太

### 年上の女が

### 男への抗議

——慰藉料五百圓の請求——

(十、七、十三掲載)

月足らずの分娩ではあるが私にはあの夜の暴力による以外は何等身に覚えのないことであるから妊娠および分娩のための物質、精神方面的苦痛を金錢によつて償へと岡山縣久米郡大井西村大字中北上池田さわさん(三七)は柴田辯護士を代理人とし居村の出平貞夫氏(三二)を相手取り十二日津山區裁判所に慰藉料五百圓請求の訴へを提起した、

年上の女が年下の男に投じた公開的抗議所は斯うである

さわさんは昨年九月十七日より同月二十一日まで出平氏方に雇はれ養蠶の手傳ひをなし右期間は同家へ寢起してゐたところ出平氏はさわさんが養蠶の仕事のため疲勞して熟睡してゐたのに乗じ同月二十日の夜強ひて關係を結びこれがためさわさん

は身重となり本年五月二十四日一男を分娩したがさわさんの家は貧困で夫は昨年七月死亡し長男は大阪で丁稚奉公をして居り次男(一四)二女(八ツ)三女(六ツ)を抱へて日稼ぎをなして辛うじてその日を送つてゐるものであるが右妊娠及び分娩のためには一家四人は全く生

活に窮するのでこれがためにくる苦痛は實に筆舌に盡くし得ない、然るに出平氏は右の男子が月に充たす(九ヶ月四日)して出産したので自分の子ではないと顧みないので精神上の苦痛を五百圓と見積り本訴におよんだといふのである

### 凄慘！一家三人心中

十一歳の長女は絶命

妻女と長男は虫の息、主人は行方不明

(十、十、六掲載)

岡山縣兒島郡宇野町宇野新池、島内浪治方の戸が開

かないので附近のものが不審に思ひ五日朝七時ごろ押

開いてみると六疊の間の妻  
サタ(三三)長男保(一〇)が  
虫の息となつて苦悶し、長  
女春江(一一)は既に絶命し  
てゐた、宇野署から係官急  
行、石田醫師を招き應急手  
當を加へたがキク代、保と  
も生命危篤である、主人浪  
治は同地保温工場の職工を  
してゐるが病弱の上に負債  
があるので妻キク代は死の  
道連れに殺鼠劑を子供二人  
に嚙ませた上自らも嚙下し  
たものらしい、尙浪治は行  
方不明なので捜査中である

### 倉敷の大財閥

## 名門 大橋家没落

嘗ての百萬長者もー

今は芦屋で借家住ひ

(十、十一、十三掲載)

天領倉敷の昔から所謂倉敷の二大財閥として天下の大原を向ふに廻して堂々輸贏を争つてきた名門大橋家が運命の波には抗し難く、不圖した事業の蹉跌がもとで次第に左前となり、もとの次第に左前となり、することなすことその盡くが失敗に歸して近年ではトんと氣勢が上らず相手の大原王國が日増に強大な事業

觸手を擴げて旭日昇天の勢で全日本に盛名を謳はれつゝあるのに反して大橋家は年々共に没落の悲境を辿りかつての百萬長者としての榮華の夢も何處へやら最近では全く青息吐息で、中國銀行その他から背負込んだ莫大な借財と壞れゆく名門の悪夢に悩まされつゞけた當主大橋平右衛門氏(七代目)は遂に尾羽打ち枯した身を阪神芦屋に避け附近の借家を借受けて不遇な佗住居を續けてゐるがこれとて安住の地ではなく目下折衝中の負債整理が済んだ曉は父祖傳來の廣大な田地宅地は勿論家財、有價證券類までスツカリそのまゝ人手に渡つて惨めにも裸一貫になつて冷たい社會へオツ放り出されるのだ、殊に哀れを止めてゐるのは主を失つた倉敷市阿知町の大邸宅で大橋家華やかなりし頃の面影は矢はれて壁は落ちベン／＼草は生茂つて榮枯盛衰一朝の夢を寂しく物語つてゐるこゝだ――

岡市上西川一五五電話三五八七番  
内 岡 醫院  
科 岡 一元一  
醫學博士

多彩極はまる

### 運命繪卷!

宛ら走馬燈

没落の運命決する日を目  
捷に控へた名門大橋家のこ



門衛右平橋大は寫眞

家の家臣として仕へ大阪城  
が改装されると共に初代大  
橋平右衛門氏は七手組に重  
用せられて櫓支配の要職に  
就き忠勤を勵んでゐたが大

れは多彩な運命繪卷である  
大橋家の先祖は代々豊臣  
阪落城と同時に身を以て京  
都へ逃れ密かに再舉を圖つ

てゐたが幕吏の追撃が急で容易に志を貫徹することが出来ないの已む得ず舊友を頼つて岡谷城に隠れ静かに好機を窺つてゐたが天下の大勢日毎に豊臣勢に不利になつて來るので遂に武士を斷念し元祿十五年都窪中島村から發奮して始めて天領倉敷村(現在の倉敷)へ乗出して來たものである

かくて倉敷に移住した初代大橋平右衛門氏は金貨を業として盛んに活躍し遂に大橋家の礎たる數百金の蓄財を遺して世を去つたのである、爾來今日の大橋平右衛門氏(四一)に至るまで前後七代に亘つて莫大な財産をつくり大原家と共に地方切つての財閥としてその名を滿天下に謳はれるに至つた資産の如きもその黄金時代である六代目大橋平右衛門(當主の亡父)の時には二百萬圓以上といはれ、堂々大原家と比肩して地方財界の双壁と稱せられてゐたものである、處が幸運の波に乗つた大橋家は大正九年大橋銀行(資本金五十萬圓)を創立し先代大橋平右衛門氏を頭取として愈よ地方金融界へ名乗を擧げたが翌大正十年、當時の岡山縣選出代議士福井三郎氏並に岡山財界の利権者入江小四郎氏等に進められて北海道に土地

の思惑買を試みたが今日の  
大橋家を没落に導いた最大  
原因になるとは當時の大橋  
氏として神ならぬ身の知る  
由もなかつたのである

政黨と結んで

### 土地の

思惑買

大正十年原内閣當時北海  
道に長輪線(室蘭郊外輪西  
から長萬部に至る鐵道)が  
敷設され室蘭に停車場が設  
置されることを前記福井氏  
らから知つた大橋番頭守屋  
石次郎氏は大橋銀行創立直  
後の先代大橋氏を説いて土  
地の思惑買に着手し密かに  
某政黨人らと策謀して停車

場設置と目される室蘭の土  
地十三万坪(價格七十萬圓)  
を買収して濶手に栗式の思  
惑を敢行したが不幸にもこ  
の思惑は物の見事に白日の  
夢ミケシ飛んで既定の鐵道  
計劃はガラリニ模様替へと  
なりこゝに大橋家は致命的  
な大損害を蒙つてしまつた  
かゝる間に先代大橋氏は大  
正十二年失意の内に病を得  
て逝去し當主大橋平右衛門  
氏が愈よ名門大橋家の重責  
を擔つて世襲した相續當時  
の同家の財産は未だ二百萬  
圓以上と稱せられてゐたも  
のだ、處が當主がイザ相續  
して見るに例の土地買収に  
よる莫大な損害金が全額大

橋銀行より借入になつて居  
りかて、加へて相當多額な  
不良貸付があつたりして大  
橋銀行を此まゝ繼續するこ  
こは到底不能であることを  
知つた、極度な經營難にあ  
る大橋銀行を救済する手段  
として大橋氏が選んだのが  
例の山陽銀行との合併案で  
土居氏と折衝の結果、前記  
土地買収を含む一切の不當  
貸付の責任を大橋氏の個人  
補償(無限責任)とする條件  
で昭和三年茲に愈よ山陽銀  
行との合併が實現した  
中國銀行へ

### 百万圓 負債

確聞する處によれば合併

當時大橋氏の個人補償額は  
既に百萬圓を突破してゐた  
ものといはれ、氏としては  
當時から早くも今日の悲運  
は覺悟してゐた模様であつ  
た山陽銀行へ合併して間も  
なく昭和四年空前のパンツ  
クに見舞はれ、金融の硬塞  
と共に財界に恐慌の嵐が吹  
き捲つた

當時の井上藏相は木村日  
銀總裁を督勵してしきりに  
地方銀行の合併を斷行させ  
不良銀行一掃によつて財界  
の安定を圖つた、こうした  
政府側の機運に促されて當  
時の山陽銀行は愈よ大原氏  
の經營する第一合同銀行と  
合併することになり同年十

### 食糧麵麩製造



東京  
銀座

# 木村屋

岡山  
支店

岡山市新西大寺町四五  
電話 三三四六番  
振替大阪六九二八三番

社長 光藤龜吉

# 岡山瓦斯株式會社

岡山市天瀬  
電話三三二一七番

工場長 小阪久勝

株式會社 備作製糸岡山工場

岡山市上伊福  
電話四九〇四番

支部長 宇都宮登

片倉生命保險岡山支部

岡山市大雲寺町  
電話四四九二番

入院随意 ◆

院長  
醫學博士 牧野 融

牧野外科病院

岡山市東中山下  
電話 4212 番

▽ 春の紳士洋服は

服洋の

既成品は

良い品を

安く賣る店!

タマヤ

岡山市 下之町 公會堂筋 電 6361



文房具卸問屋

# 郷司文昌堂

岡山市西中山下 電3531

岡山一の

堅牢  
優美  
履物  
は

## 末廣履物店

岡山市上之町 電4006

院長 前川 鼎

内科



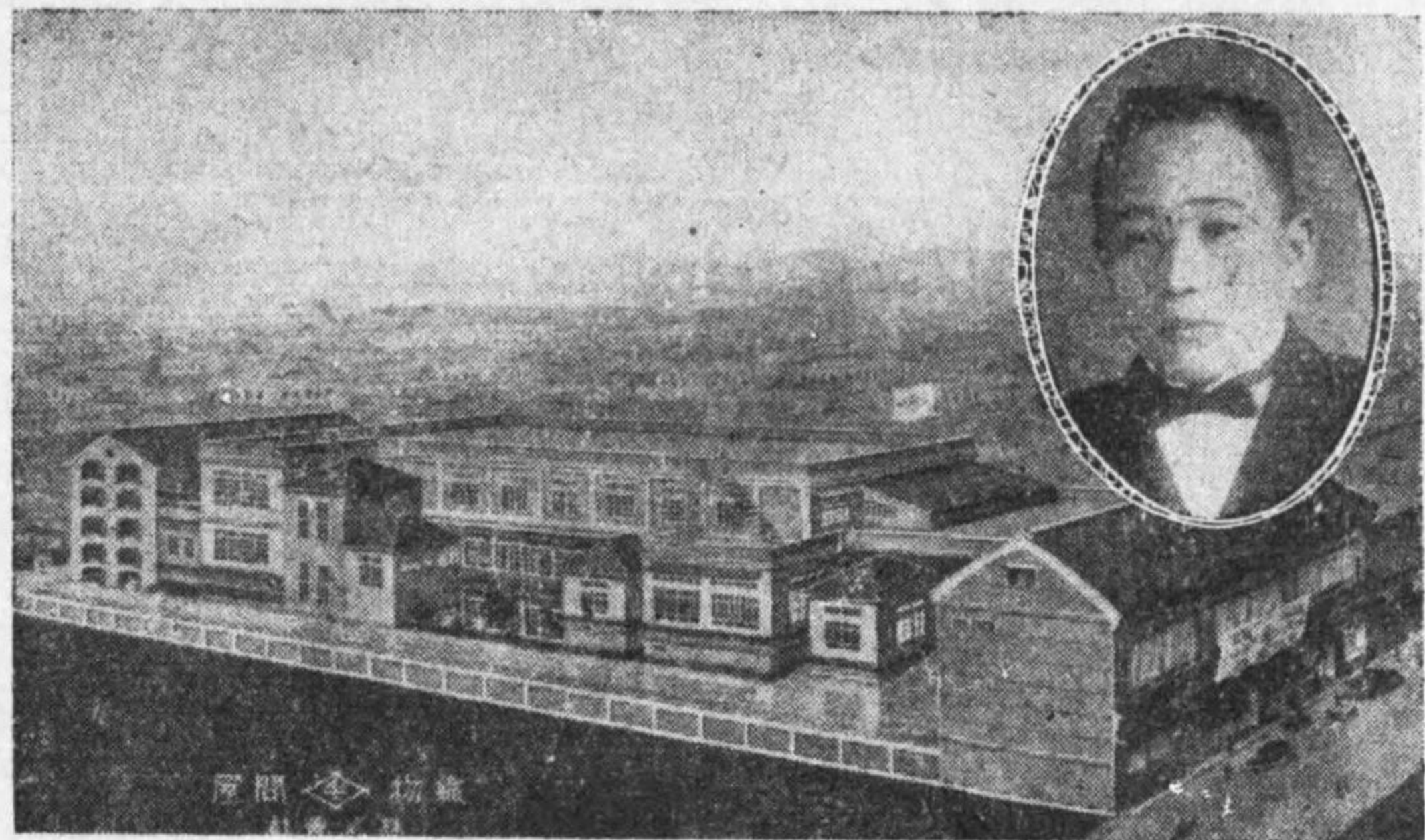
## 前川病院

岡山市中納言  
電 60 37 番

アイロン  
ナイフ各種剃刀  
手工・裁縫・生花道具  
堺特産打刀物

## 菊秀刃物店

岡山市西大寺町(電車通)  
電話 五五五六番



吳服洋反太物  
毛織メリヤス雜貨

卸問屋



株式會社 日下商店

岡山市上之町  
代表電話六六八五番

一月一日新に中國銀行が創立されることになつた

かくて當初の大橋銀行は山陽銀行から更に中國銀行へ合併されてゐつたが例の一金百萬圓也の個人補償はうるさく何處までも付まらなかつた

數年以前までは互に華々しい争覇戦を展開してゐた大原氏と吳越同舟、否その幕僚になつて忠勤を勵まねばならぬことは大橋氏にまつて勝を斷たれる思ひであつたことは容易に肯けるがそれにもまして屈辱を感じたのは中國銀行に對する百萬圓の負債であつた

遂に

### 庭石まで

差押へらる

父祖宿怨の事業敵たる大橋家のこの致命的傷手をみて快心の笑を洩したのは大原孫三郎氏で早速腹心の故榎昌氏らと共に大橋家に對して斷乎補償金の返還を迫ることとし前記榎氏を急先鋒として矢の様な催促を續けた結果、大橋家に支拂能力がないと見るや無暴にも大正八年五月大橋氏を相手取つて岡山地方裁判所へ債務請求の訴訟を提起し同家の家財、田地、宅地さては

有價證券、庭石の類まで差押へ競賣すると致闘き「萬事俺の方に一任すれば整理して何とか善處してもいゝ」と暴言を吐くなご大原氏にあるまじき暴舉を加へられたので流石の大橋氏も激昂し茲に兩家の間には火華を散らしての一大抗争が捲起されんこした

處がこの情勢を聞知した關西財界の大立物たる時の大株理事長島德藏氏並に盛岡殖産銀行頭取進藤正十氏は大橋氏の立場に大いに同情し大原氏に面會して種々懇談を遂げた結果一先づ差押へを解除して今後を前記島氏等に一任することにな

つた處がその後例の銀行の事業で島氏が失脚し、擦つた揉んだで今日に及んだものであるが最近に至つて、該整理が具体化し仲介者側の整理案に基いて兩橋の間愈よ折衝が始められた模様で大橋家からも既に高橋浦助、生水計太の兩氏が上京して名門救済の猛運動を開始してゐる

没落か？ 再興か？ あはたゞしい今日今頃の雲行を前に蘆屋に蟄居中の當主大橋氏の胸中、また感慨無量のものがあらう——

× ×

## 謎の流行性脳炎

# 病菌媒介は蚊か

その筋の権威者岡山に集結

病原突止めに活躍

(十、八、十七、載)

病原不明の傳染病として 大側と手を合せて病原發見 學界の謎となつてゐる流行

につこめてゐる

性腦炎につき日本學術振興 何分過去十數年の研究に

會では岡山醫大柿沼、林兩 も未だ菌の發見も出來ず

博士、東京傳染病研究所の 傳染系統も判然せず死亡

山田博士その他十數名の權 率も四割から六割に上る

威者を指定して腦炎研究に 厄介な病氣だけにその成

當らしめてゐるが 果は各方面の注目を集め

岡山縣は全國でも最も患 てるるが

者が多く昭和七年來東大の 三田村、林、柿沼各博士

博士連は毎年來岡、岡山醫 らの努力により傳染媒介は

蚊によるものであることが 最も有力となり、また毒 素培養試験も或る程度まで 成功してゐるので、今夏一 ばいの實驗研究によつてそ の媒介物は判然するのでは ないかと見られてゐる殊に 今年には患者が昨年の四倍以 上の多數に上つてゐるので 研究には好都合である、十 六日來岡山着の山田博士ら と共に岡山醫大で研究に取 りかゝつた三田村博士は語

することは各人の一致し た意見であるが、われわ れの實驗による蚊の發 生、腦炎流行の双曲線を 描いてみて蚊が最も有力 と思はれる、一昨年毒 素移植試験も第三番目ま では充分反應があつた、 今年には患者が多いので都 合がよいが病原菌の發見 にはまだ相當長年月を要 するであらう

岡山市門田屋敷 電話四三九三  
**宇野咽喉科**  
 醫學博士 宇野善一

## 向學の十三少年

# ロハ乗の旅

學問は要らぬと叱られて

コレは『家庭讀本』

(十、七、五、掲載)

岡山—東京間

三日午前十時七分下り三 故郷が戀しくなり再び下り 十五列車の後部一輛目三二 列車に乗つたが車掌が檢札 輛目の連結機の下にぶら下 に来たので連絡機の下にぶ

つてゐた 少年を静岡署員が発見、 驛員が與へた『そば』をさ

取調べたところ岡山市公園 も甘そうにすゝりながら少

裏荷馬車輓業千次郎長男三 年は語る

島勝雄(二三)と云ひ去月三 僕のお父さんは車輓でお

十日家出し姫路まで薩摩守 金儲けが下手、一生懸命

を試み成功したので、さら に勉強したいが車輓のせ

に上り列車にて上京したが がれには學問はいらない

とお母さんにしかられた ので家を飛び出し汽車に 乗つて東京まで行かうこ 思つたがあそこ(連結機) は誰れも來ず汽車の過ぎ

るのを見て愉快だつた と無邪氣に云つて 驛員を驚かした、勝雄君 は目下静岡署で保護中

## 岡山縣會へ初めて

# 無産陣營から二人

『言論戦一點ばり』

ほがらかな中原、若狭兩氏

(十、九、二十八掲載)

岡山縣會議員選舉に無産 初めてあり歐洲大戰後岡 黨は遂に二つの議席を獲得 山縣下の無産運動勃興以來 した、岡山市の中原健次、 幾多の苦戦惡闘を重ね漸く 浅口郡の若狭幸義の兩氏だ 縣政壇上におくられたわけ 市町村會議員等には既に當 であり、數々の苦盃をなめ 選してゐるが縣會は今回が

て来た戦士にとつては感慨無量のものがあるだらう、殊に今度は無産から四名を押し立て半数は當選、落ちた上道の江田三郎氏は今一步のところまで漕ぎつけてゐたのだ、二十七日午後岡山市二日市魚市場北手の

中原健次氏事務所を訪れると前掛姿の濱の若衆や菜ツ葉服の運動員諸君が中原氏を取り巻いて盛んに氣勢を上げてゐる無産黨だけに

お茶、菓子一つ出してない當の中原氏は  
依頼状もろくに出不さず言論戦一本槍で三十五回もやり私は疲れ切つてゐる  
ここぼしながらもさすが

に喜びに溢れ、運動員らに圍まれてカメラにおさまつた、も一人は浅口郡で最高得票を勝ち得た  
若狭幸義氏を玉島町宇水溜の選挙事務所を訪へば関係者がつめかけて萬歳の嵐だ

### 死よりも強し……母の愛

#### 大和噴霧器店に

秘められた恩愛美談

人情紙よりも薄いけふこの頃の世相にあつて、かつて受けた恩義を忘れぬ五人の店員が或る事情から主人と別れた夫人が女の細腕に八人の子女を抱えて衣食に

私は三度目の戦ひで今回は相當自信がありました最高點は夢にも思はなかつた、同志の中原君も當選したさうですから一層心強く感じます  
といとも朗らかに語つた

さへ窮してゐることを耳にし決然主家を飛出して夫人の許へ馳せ参じ文字通り手足となつて忠勤を勵んだ結果、遂に立派な店まで開店して最近では毎日感激の生

活を送つてゐるといふ近頃珍らしい報恩美談がある――朗話を繞る人々は岡山市内山下相生町大和噴霧器店主藤井こめさんと現にこれを助けてセツセミ同店に働らく五人の店員で、涙で綴られた報恩美談のプロローグを記せば大要かうだ

こめさんは元岡山市上之町藤井噴霧器店主藤井正治氏夫人として主人の家業を助ける傍ら八人の子達と共に生き効のある毎日を送つてゐた。  
然し逆賭し得ないのは人生の不幸で、こめさんの家庭にもいつかしら不吉な

蔭がかざして来たのだ。

永い間のベター・ハーフとして共に信じ、互に頼み合つてゐた夫が不圖した動機から或る女(特に名を秘しておく)と邪戀を樂しむ様になつたのだ。八人の子供と共に涙をもつて諫め//子達の爲//といくたび反省を求めたか知れなかつたが心亂れた父の耳には空吹く風程にも感じないらしく、その後の亂行はますます募る一方であつた、八人の子供可愛さに忍んだこめさんではあつたがこのまゝでは主人の前途は勿論子供の前途まで誤らせてしまふことををそれ昭和七年五月遂に

意を決して同家を飛出し心ならずも茲に//愛するが故に//の人生行脚に敢然として身を投じた、しかしそんなに張り切つてみても所詮は女の身だ八人の子を抱へて飛び込むには人世は余りにも荒い大海原だつた。

藤井の家を出たこめさんは爾來六ヶ月許りの間を岡山神社附近のさゝやかな借家を借りて愛兒達と共に佗しい生活を送つてゐた。  
心まことにしてゐた夫からの仕送りは幾月経てき届かない、たつた一つの生活の糧としてゐた子供の貯金も暫くの後にはスツカリ失く

なつてしまひ、簡易保険まで引出して今は餓死を待つばかりとなつた。  
無情な夫を恨み、子達の前途を想つてこめさんは幾夜泣き明したことであらう……女は弱い――けれど母は死よりも強かつた!、「妾は働こう、可愛い子供のために――」決然として奮ひ起つたこめさんは愈よ生さんが爲にの戦場場に身を投じた――父歸る日を唯一の希望として

心白装束にしたこめさんは僅かの金を資本にしてまもなく内山下相生町に大和噴霧器店を開店した。

こめさんにごつてはまさに乾坤一擲の弔合戦であつたのだ――一方こめさんの悲壯なこの決心を耳にした藤井噴霧器店の店員、小野富一、藤井貞一、福井正男、桑田敬一、高見包和の五君は大いに感激し、早速こめさんを訪ねて激勵すると共にこめさんの辭するのにも聞かず同店に入つて給料を度外視した報恩奉仕をつづけ、こめさんは夢かと許り喜んだ、主従の心はかくて涙と眞心でガツチリと結ばれたのだ、まさに金城鐵壁といふべきだらう。

爾來足掛五年、こめさん